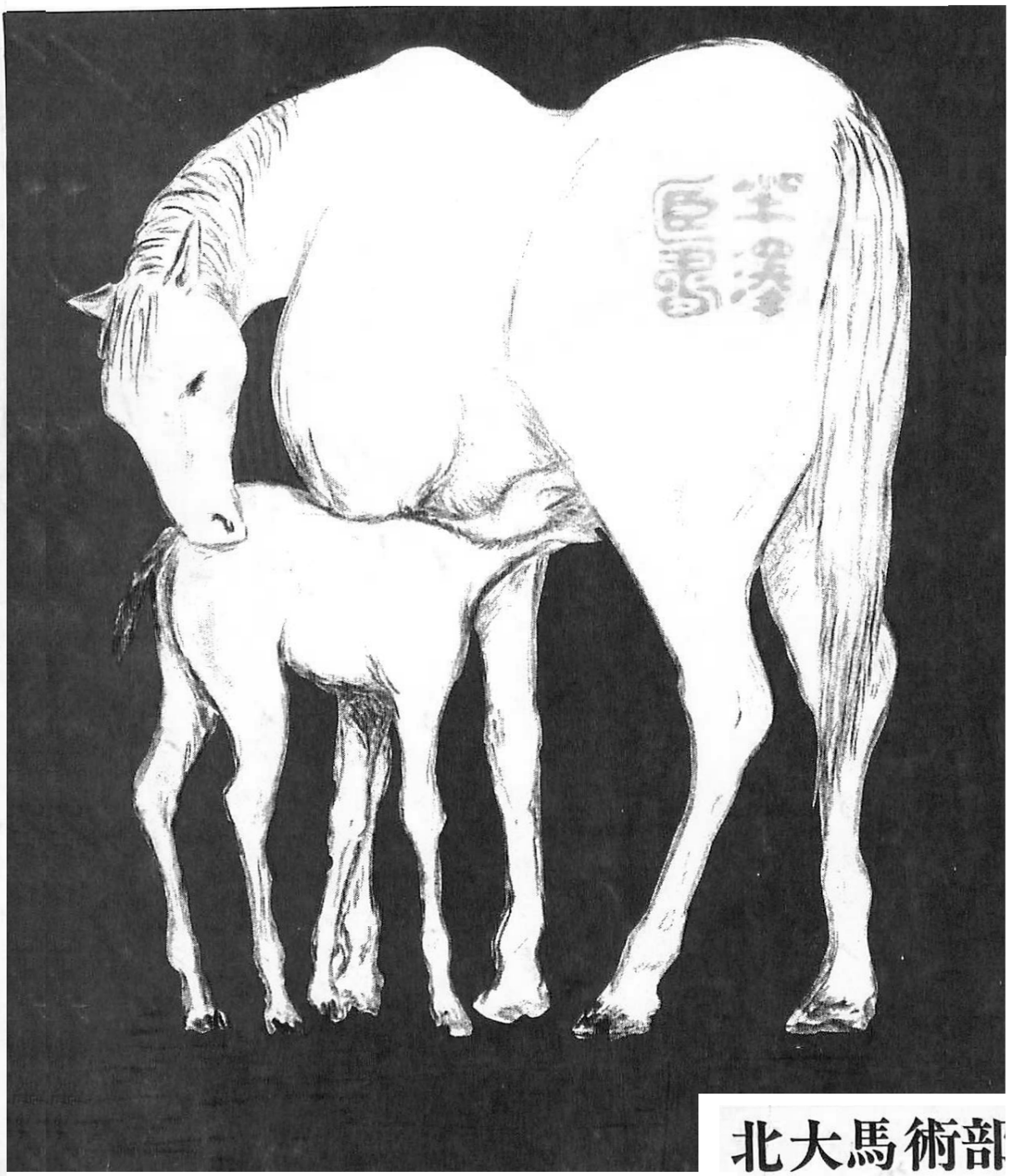
No. 28

部報

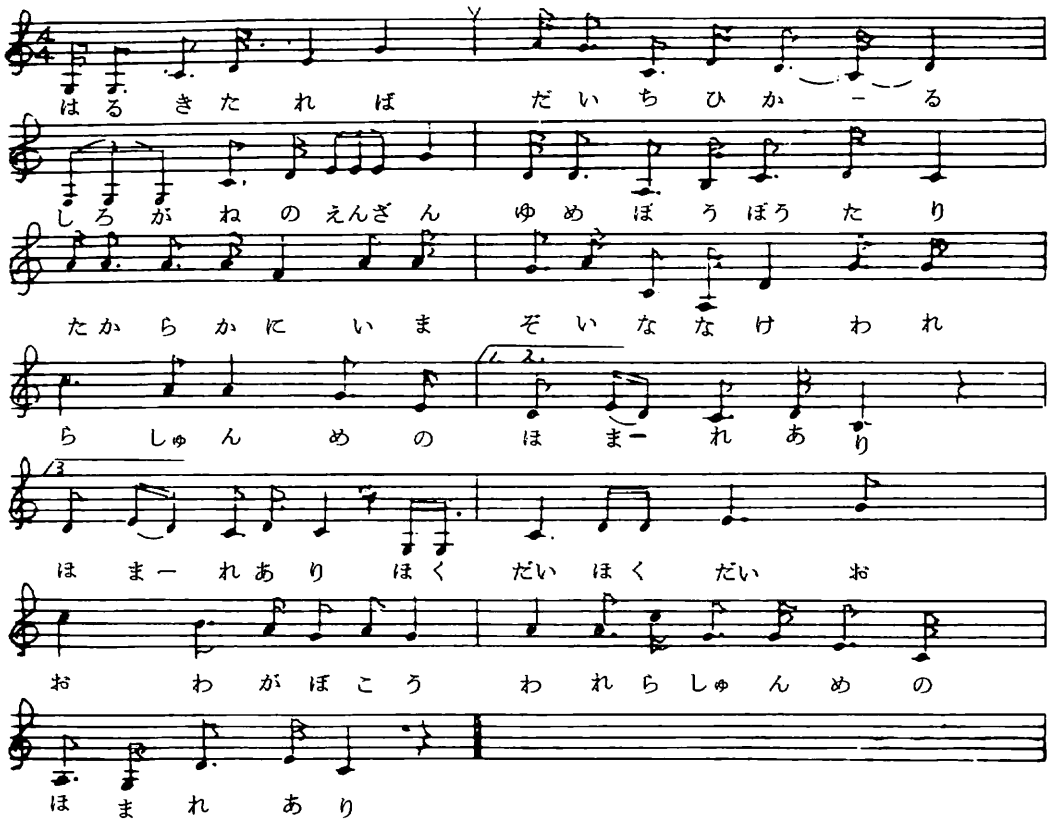
昭和57年度



北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩　三浦　清一郎
作曲　滝沢　南海雄



北大馬術部讃歌

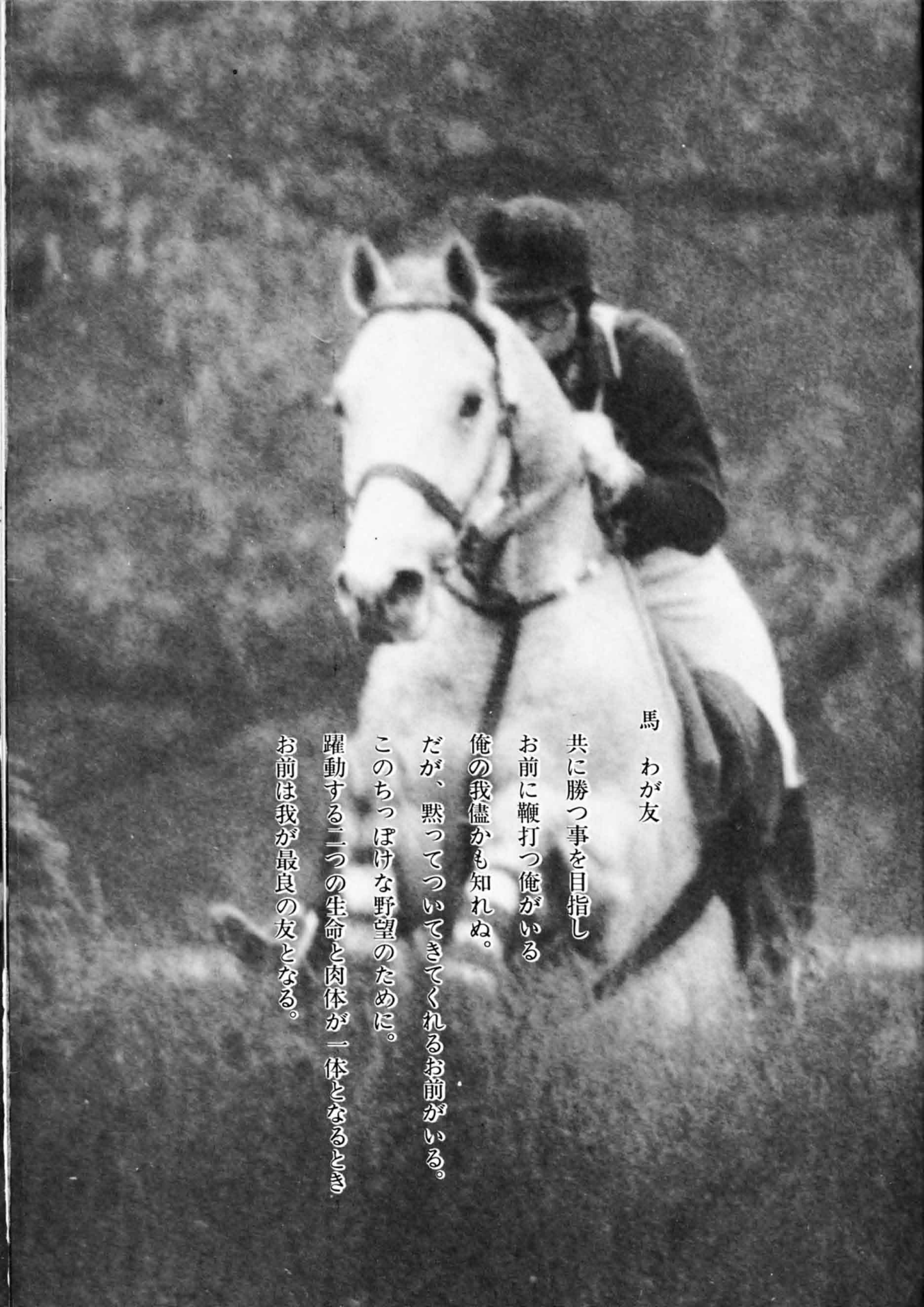
一、
春来たれば、大地光る
銀の遠山　夢茫々たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二、
時来たれば　旗をかざせ
青雲の旅路に　意気軒昂たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三、
雲流れて　旅路遙か
青春の孤杖　泥濘はばめど
凜然と　進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり

北大！　北大　おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

あたたかな夏の薫りにつつまれて
俺もお前も　夢心地
青草を食むお前の傍に横たわる
ポプラのざわめき、そよ風のささやき
小鳥の甘いさえずり　ふりそそぐ柔らかな木洩れ陽
光と大気が溶け合った印象派の絵の中
あの日　あの時のお前と俺の姿が
走馬燈のように脳裡を駈け巡る
限りないお前への想いと共に



馬　わが友

共に勝つ事を目指し
お前に鞭打つ俺がいる
俺の我儘かも知れぬ。
だが、黙ってついてきてくれるお前がいる。
このちっぽけな野望のために。
躍動する二つの生命と肉体が一体となるとき
お前は我が最良の友となる。

馬　わが光

ふり返ると　いつもそこにいてくれるお前がいとおしい
友よ、寂しい時、楽しい時、お前と語りたい。
友よ、悲しい時、嬉しい時、お前の名を呼びたい。
友よ、苦しい時は、ただ傍にいてくれるだけでいい。
この輝ける広い一つの空と大地に希望をささえ
同じ夢を心に　歩き続ける僕たち。
もしも、陽がかくれて　道に迷ったならば
友よ、その時こそ　僕の光になっておくれ。

馬　わが世界

大地に生あり
人はどうしてこうまでも小賢しく　傲慢で
自分勝手なのであろう。――他の生ある物は
どうしてこうまで　素直なのであろう。
人が馬を抑えつけて支配するとき　人が
エゴを見せつけ自慢するとき――　馬は
汚れない瞳で　何を思うだろう。
人と馬との永遠の生命を持ち続けるため
二人でしか造れない世界を築こう。――微笑みと
希望と友情に包まれた意気洋々たる世界を。
大地に燃える生あり。

夕暮れの気配から
ふと意識が戻る
静けさの中
残照の光を浴びた
お前のからだが
妙にでかく見えた。
さあ、行こう
二人で未来への扉を開け
新しい第一歩を標そう
そして、最後の一歩まで
お前と歩むことを
ここに誓おう。

目　　次

巻　頭　言 …… 部長　小池　寿男…… 1

誘　　導 …… 監督　岡田　光夫…… 2

北からの提言 …… 第6代部長　半澤　道郎…… 4

前主将から …… 増田美希夫…… 8

役員報告

主　　将 …… 高須　哲男…… 10

副　　将 …… 名越　正泰…… 11

主　　務 …… 町田　雅人…… 12

馬　　匹 …… 野中　道夫…… 13

飼　　料 …… 世良　健司…… 14

会　　計 …… 佐藤　仁美…… 14

その他の役員 …… 15

決算報告 …… 佐藤　仁美…… 16

昭和５７年度行事報告 …… 18

昭和５７年度戦績報告 …… 23

第３７回国民体育大会報告 …… 増田美希夫…… 31

全日本学生観戦記 …… 名越　正泰…… 36

ＡＩＩ Ｊapan の印象 …… 平石　哲生…… 38

馬匹紹介・調教報告

スターライト号 …… 世良　健司…… 39

ドンホッパー号 …… 増田美希夫…… 41

北楽院号 …… 斉藤　牧人…… 48

北　姫　号 …… 町田　雅人…… 50

北　将　号 …… 石井　洋行…… 52

北　雛　号 …… 平田委久子…… 54

北皇子号 …… 名越　正泰…… 57

北　耀　号 …… 野中　道夫…… 60
北紫雲号 …… 62
烈々風号 …… 佐藤　仁美…… 62
新　馬　紹　介
輝魂龍号 …… 64
勇　勝　号 …… 64
ノエル号 …… 65
離　厩　報　告 …… 66
北　美　号 …… 飯野　秀之…… 67
〝特集〟ドンホッパー試合出場十周年記念 …… 増田美希夫…… 72
東京ＯＢ会便り …… 80
ＯＢ対抗戦 …… 82
ＯＢからの手紙 …… 84
卒部にあたって …… 飯野　秀之…… 88
…… 石井　洋行…… 89
…… 斉藤　牧人…… 89
…… 平田委久子…… 90
…… 増田美希夫…… 91
自己紹介・他己紹介 …… 94
北海道大学馬術部名簿 …… 112

巻頭言

部長　小池寿男

札幌の冬といえばすぐ雪に埋れた風景を思い浮かべることになる。三月の上旬になると馬場は雪の壁にさえぎられて十八条通りからは馬の姿が見えず、僅かに乗っている学生の頭が上下しているのが見える程度になることが多い。今年は二月下旬までは雪が少なく、月末に一日の札幌の降雪量としては記録的な一米近いドカ雪にみまわれたが、なお例年の積雪よりもはるかに少い。この為か、馬の調子の仕上りもいつになく順調のように聞いている。しかし、このような例年と異った馬体の調子は、時としてそのリズムを狂わすことになり、シーズン入りしてから思わぬ失調をきたすことがあるので注意しなくてはならない。

私の恩師であり、北大馬術部の第三代部長であった黒沢先生は、常々私達を訓えるのに和と云う言葉を言われた。現今の教育の経過をみると、大学へ入るまでは友は友でなく、常に自分の対抗者視するような状況が作り出されているようなことが多い。この為、人の和などと云うことは古い時代に置き去られたような観がないでもない。しかし、現代の社会環境の中に生きていく以上は、独りの力など知れたものであり、やはりグループの和の中に力を伸していかなくてはならないと考えている。

大学生活ではその真について、社会に出るまでのトレーニングの場としての重要性をかかえている。特に課外活動では人と人との協調の上に成り立っていくことが多く、ここで人の和がいかに大切かを体験することになる。さらに馬術部ではその中に意志を持った動物の馬を包含することによって、より複雑な団体を形成していくことになる。乗馬は人と馬とが一体となって技術の向上をはからなくてはよい馬術とはならないことは先人の訓えの通りである。そこで、人と人の和の他に馬との協調――これは妥協であってはならないが――の上に精進し、より和の大切さを知った人間に成長することを願う。

少雪の冬で馬の調子が例年になく良い春を迎えている時こそ、馬の一年のリズムを考え、自分だけでなく、馬との和の上で良いシーズンを迎え過ごせるようにしたいものである。

（昭和五十八年三月）

誘導

岡田光夫

障害飛越の時、よく「誘導が悪かった」「誘導に気を付けよ」と云う言葉が使われる。一体誘導と云う言葉がどの様に解釈され、理解されているだろうか。障害飛越競技の前の下見は、単に競技を行う前のセレモニーでもなく、単に障害の順序を覚えるためのものでもない。まして馬場馬術出場前のデモンストレーションでもない。多くの人は飛越順序に従ってたゞ黙々と下を向いて歩くか、甚しい若者になると仲間とふざけながら歩いているのを見る事がある。下見と云うのは、スタートからどの様にして馬を誘導し、どうやって完璧に飛越させるか作戦を樹てる時間であると心得ている人は少いのではないか。立止まっては歩き、後ろを振り返っては前後の障害の関係をたしかめ、どの様に誘導したらよいかを考へ、いざ競技と云う時にその作戦に従ってゴールに向うべきためのものである。札幌競馬場に勤務して居られた萩野さんが、実に丹念にコースを調べ、自分の歩数で障害間の距離を測って何間歩で走るべきかを納得行くまで下見をして居られた姿が抜群の飛越技術と共に思い出され、少しでも近づけないものかと考えている。

特に最近人馬ともに技術能力が向上してくると、コースビルダーとしては巾障害で歩度を伸ばさせて次に馬を所謂たゝまなければならない高い垂直障害を配置したり、鋭角回転でうっかりすると次の障害にうまく向けられない等、落し穴作ってやろうと苦心する様になってくる。騎手としてはこの苦心の作品を完璧に通過するためにはコースビルダーの真意を見抜く能力が必要になってきていると思う。従って今後ますます下見の重要性は増すであろうし選手諸君もそれに対応して行かなければどんどんとり残されて行くであろう。

しかし平生の練習を見ていると相変らず前傾が足りないとか脚がどうだとか一つの障害を飛越する練習が続けられている。随伴の要領を覚えれば馬が踏切を誤ったり、ペースを変えたりしなければスムースに障害は飛越出来るもので、馬の運動を邪魔しないのが最高の随伴であろう。従ってキャバレッティ通過の練習の時にでも、どの様に馬を誘導してバーの真中を通過させるかを騎手の頭の中に叩き込まなければならないと思う。障害の練習もいつまでも単一障害の飛越を繰り返えしたりしていては馬を積極的に動かしている事にはならない。上級生ともなれば常の練習の中で、馬場内に置かれている障害をどの様な順序で飛んでやろうどの様に誘導して飛越しようかを考えるべきで、駈歩運動をやっていて思いつきの様に目の前に来た障害を飛んだり、もう障害はやめたのかと思うと又飛びだしたり、恰も衝動にかられた様な練習は何の利益にもならない事を銘記すべきであろう。

「助走が良好でなければクリヤーは至難である」と云う言葉を見た事がある。良好な助走、それは正しい誘導から生れなければならない。障害はスタートからゴールまで一定のリズムを保ち、完全に馬を手の内に入れて一つ一つの障害を慎重に飛越して満点でゴール

してこそ完璧と云える。「クリヤー」この言葉を思い出すたびに、全日本でスターライトに騎乗した長屋君が丁度胡蝶が花から花に舞う様に、いかにも軽やかなフットワークで一定のリズムで流れる様に障害を飛越して優勝した時のテレビの様子が頭の中のＶＴＲに残っていて、時にそれを引き出しては北大が何んとかして今年もよい成績を上げてもらいたいものだと考えている。

試合のために必要な基本は平素馬場の中で反射的に動作に至るまで練習して養なわれるものである。

デザインから製品まで

株式会社 札幌メダル商会

〒〇六〇　札幌市中央区北4条西15丁目

電話（〇一一）六一一一四五五三

六四一一四一七八

太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条１丁目15番15号

北からの提言

「学生馬術」二十五周年記念号に投稿したもの

第六代部長　半澤道郎

昨年、昭和五十七年十一月八日馬事公苑に於て、全日本学生馬術大会二十五周年記念の行事と、全日本学生馬術連盟創立二十五周年祝賀会が、皇太子並びに同妃殿下のご台臨のもとに盛大に挙行されたことは誠にご同慶に存じます。

このお目出度い年に刊行する「学生馬術」誌に老齢の故を以て、投稿の依頼を受けた、馬歴五十五年で古狸の方であるが、何分にも北海道に住んで居るので視野が狭く、経験も少なく、その上資料も乏しく、二十五年を顧みて記念になるようなものを書く術もありませんが、長く関係のある北大馬術部を通じ、また会長をお引受けしている北日本学生馬術連盟の側から少し述べることに致します。

北大馬術部は昭和五年三月に北海道帝国大学文武会馬術部として、母体である北大乗馬会（大正十四年創立）から誕生したので五十三年の歴史がある。部の設立と同時に全日本学生馬術協会に入会し、多分翌年から同協会主催の全日本学生馬術選手権大会に選手を送った。

この大会は昭和四年に第一回の競技会を開催しているので、協会が設立されたのも昭和になってからのことと考えられる。この大会は現在全日本学生馬術連盟に引継がれ、昭和五十七年度は第五十四回大会に当っている。

大正末期から昭和の初めの頃には馬術部のある大学の数も少なく、自馬を持った部は僅かで、多くは軍隊の馬で練習をし、競技会も陸軍士官学校、陸軍大学、習志野騎兵学校等の施設の提供を受け、特別の便宜が与えられていた。当時の高等学校に馬術部のあるものが可成り有って、全国高等学校馬術競技会が東京帝国大学馬術部主催のもとに大正十四年から毎年陸軍大学で開催されていた。学習院は校馬を持ち特別であったが、一高、二高、三高、五高、水戸、松本、山形、成城、広島、成蹊、弘前、姫路、北大予科（昭和五年、才七回大会ー二十校出場ーから出場）その他の学校が出場して、昭和十六年の大会には二十六校が出場した記録があり、北大予科は昭和十七年の才十九回大会まで出場している。

北大は最も近い東北大学と昭和六年から定期戦を始め、仙台の騎兵第二聯隊と旭川の騎兵第七聯隊で戦前は昭和十四年まで、戦後は昭和二十七年に復活して、途中中止した年もあるが昭和五十五年まで実施された。

また国立七大学（旧七帝国大学）馬術定期戦は他の競技種目と共に各大学持回りで開催、馬術競技は昭和十二年に第一回を学習院馬場で開催（北大優勝）以来、戦時中数年間中止されたが昭和二十七年から復活して現在も続けられている。

北海道には昭和十七年に帯広畜産大学（当時は高等獣医学校）に、昭和三十七年に酪農学園大学に、昭和四十八年に北海道工業大学に馬術部が創立され、北大馬術部と共に道内外の競技会に出場し、また北大、畜大、酪農大の間で二校または三校で定期戦を開催し学生

馬術の振興に寄与するばかりでなく、北海道乗馬連盟の諸行事に参加支援し、次第に優秀な自馬を繫養して全国的に活躍するようになった。

一方東北地区にも東北大学を必頭に、岩手、岩手医科、東北学院、福島、弘前、秋田の諸大学に馬術部が設立され、北海道を含めた、日本地区の学生馬術の活動も次第に活潑になって来た。それで東北、北海道学生馬術選手権大会が昭和二十七年から開催され、第一回大会は北大に於て、岩大、岩手医大、帯広畜大、北大が参加して実施、以後昭和四十年第十四回まで北大、岩大、福島大、東北大、帯広畜大等に於て開催されて来たが、北日本学生馬術連盟が結成されてからは、北日本馬術大会に併せて開催することになり、五十七年には第十八回北日本学生馬術大会が帯広畜大の馬場で開催された。もしもこの大会を北日本学生馬術選手権大会と呼べば第三十回に相当する。

以上が北日本の学生馬術の発展の概況であるが、こゝで話を昭和三十年頃に戻し、その当時の学生の希望を北大馬術部三十年史（昭和三十七年一月一日北海道大学体育会馬術部発行）の中から取り上げて、真の全日本学生馬術王座決定戦の実現に至る経緯を述べてみる。

昭和三十年度は北大馬術部は出場した公式戦に全勝する戦後の全盛期を迎えながら、学生馬術の全国的大会がないために日本一を競う機会が無かった。当時の学生馬術界は地域毎…例えば関東学生馬術協会とか関西学生馬術連盟とか東京六大学のような…組織があっても全国的組織が無かった。それにもかかわらず関東地区と関西地区の間で全日本学生王座決定戦の名称で、昭和二十六年から団体日本一を決めていた。この大会を真の全国大会にすることを主張したのは、昭和三十年春日本馬術連盟主催の第一回学生馬術講習会の席で、北大馬術部の宮沢寛君であった。当時全日本学生馬術連盟の結成にはなおかなりの月日を要するものと考えられたので、取りあえず日本馬術連盟主催で全国的規模の王座決定戦を実施することを希望し、連盟に対しその後も働きかけを続けて来たのであった。従来の王座決定戦の主催団体が関東と関西の学生団体であって日馬連はそれを後援していたに過ぎず、連盟主催にするのには抵抗もあって早急には具体化されなかった。しかしこの北からの提案には大義名分があったことと日馬連の青山幸高理事（現学馬連会長）のご尽力によって三十一年度にほぼ全国的規模の大会が開催される見通しがついたのであった。ところが残念なことに王座決定戦の予選となった東北・北海道学生馬術選手権大会で北大は帯広畜大に敗れた為に、それまで努力して来た王座決定戦についての交渉を畜大に申送り事項として引継ぐことにして手を引いたのであった。結局情勢は後退して三十一年度には実現されず、翌年再び北大が東北・北海道学生選手権大会に優勝した時にも既に手後れとなって三十二年度にも実現されなかった。三十二年十二月全日本学生馬術連盟が創立されて、ようやく同連盟主催のもとに、真の団体日本一を決める全日本学生王座決定戦が行われることになった。

提案してから実現までに四年の歳月を要したのは、北日本地区として連盟組織が無かったこと、各地区間の横の連絡が欠けていたこと等によるが、中央の全国的組織であった全日本学生馬術協会が弱体であった為でなかったかと想像される。ともかく王座決定戦に関して投ぜられた北からの一石が全日本学生馬術連盟結成の促進に幾分かの力があったとすれば誠に幸であったと思う。

因に王座決定戦の名称は四十二年までで廃止され、四十三年から

現在の三種目競技会として実施されている。

また北大馬術部は昭和三十三年に才一回招待全日本女子学生馬術大会を開催、才七回（三十九年）まで北大馬場を会場として実施、年により参加校が変わったが、夏休みの北海道旅行も兼ねて参加する大学が多く、才六回には青山学院、麻布獣医、明治、岐阜、学習院、東北、福島、鹿児島、早稲田、帯畜大、北大の十一校が、また才七回には熊本、岡山、岐阜、名古屋、早稲田、中央、福島、岩手、酪農、帯畜、北大の十一校が参加し、誠に華やかな大会でしたが、この大会が母体となって昭和四十年から全日本学生馬術連盟主催で全日本学生馬術女子選手権大会が開催され、五十七年度は才十八回になりますが、北大で始めた昭和三十三年を才一回として通算すれば才二十五回となり、全日本学生馬術大会と同じく二十五周年を迎えたことになり、特に女子だけ才十八回とすることもなく、女子も堂堂と二十五年をお祝いできる次才で、主催にこだわらずに才二十五回にして頂ければ、北大としても、北日本としても礎石を築いた功績を認めて頂くことになり誠に嬉しいことであります。

二十五周年の記念として、過去の投石に新しい提言の投石を加えてみました。

尚「学生馬術」才二号（昭和四十年十二月発行）の才六頁に載っている当時の副会長青山現会長が提唱された、東西対抗馬術競技会も選手権や王座決定とは別に、対抗意識を高揚して練磨する上に効果があり興味もあると思います。大きな会長賞（チャレンジ杯）を出して頂いて、一年遅れながら二十五周年を記念する大会として始めては如何でしょうか。

（昭和五十八年三月十五日、七十三才の誕生日に記す）

旭川乗馬倶楽部

所在地　旭川市花咲町５丁目ＴＥＬ51－1832

1）入会申込

入会申込は当クラブ受付にて所定の手続きを行ないます。

入会金	一般	10,000円
	高校生以下	5,000円
会員月額	一般	8,000円
	高校生以下	4,000円
馬場使用料	一般	200円
	高校生以下	100円

2）ビジター料金

（１回の騎乗時間は30分とする）

一般ビジター	1,500円
高校生以下	700円

3）騎乗日時

イ）平日・日曜・祭日とも午前９時より午後５時まで

ロ）毎週月曜日を休日とし、月曜日が祝祭日に当るときは騎乗を行ない火曜日を休日とします。

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

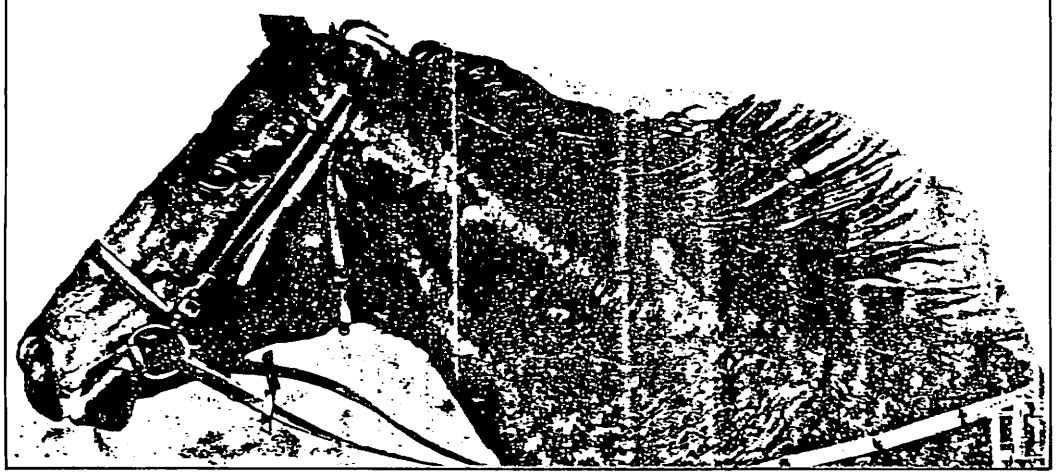
FRONTIER HOLIDAY RANCH

フロンテアホリデイランチ

〒061-33北海道厚田村しっぷ165の3
☎（0133）66-3858

乗馬センター石狩クラブ

馬場は石狩高校隣り
☎0133-74-2345
小　野　忠



前主将から

増田美希夫

昨年、私が主将をやっていた間にいた馬匹は、計十二頭で、その中で昨年入ってきた新馬が二頭、その前年に入ってきた馬が二頭、それから以前大活躍したスターライトも昨年で十七才になり、左前肢が関節炎になる等で、結局戦力になりうる可能性を持った馬は、七頭いました。結果を言ってしまえば、全日学には中障二頭、総合二頭出場しましたがドンホッパー以外は、なかなか健闘しましたが失権という有様でした。ここ三、四年は、ずっとその傾向で、ドン一頭に完全におんぶしていると言っても過言ではないでしょう。北皇子、北将、北耀、北姫に乗る人は、もうドンホッパーに頼ってはいけない。自分の馬が北大を背負うのだという自覚をはっきりと持って日々の練習を消化していって欲しいと思います。何かまだ、自分が駄目でもドンがいるさ等といった潜在的な甘えがあるように思えます。

また、自分も往々にしてそうであったと思いますが、自分に閉じこもってしまい、人の意見をあまり聞かない、ちょっとでも試してみようとしない等、完全に自分中心的になってしまうという悪い所が多くなってしまった様に思います。自分ではそんな意見を信じようとしなくても、人の意見に素直に従ってやってみると、案外うまくいったりという事もたくさん出てくると思うのです。それに、そのようにお互い干渉し合わなければ、一つの団体の中でクラブ活動をしている意味も半減してしまうと思います。自分の核となる部分は、一人一人持つべきだと思いますが、その周囲にどんどんいろいろな物を、肉付けて力強くなって欲しいと思います。勿論、その肉付けをする際には、充分な熟考を要するとは思いますが。

他にも、上級生は下級生に、下級生は上級生にお互いの意見を交換し合い、できるだけ上下間の隙間を埋めて欲しいと思います。

また、馬は動物です。勿論機械ではないのです。当然の事ながら人間が一人で何もかも決定してはいけません。岡田監督がいつも口にしている様に、常に馬と話し合いながら馬と付合って下さい。普段の練習にしても、ちょっと今日は元気がないな、いつもできることができないぞ等と感じたら、その日は運動盆を押さえるべきであると思うし、逆に調子が良いと感じたならば、普段やっている事より少し難しい事をしてみる絶好のチャンスであると思います。その様に馬の立場になって考えてみれば、馬もどんどん自分の方に心を開いてくれて、どんどん調教が進むと思います。

それから、ちょっと気になっていた事なので書きますが、冬の間、雪の為に思う様に運動できなくて、春になり馬場の雪が溶けると、急激に運動を増やしてしまって、その為に跛行する馬が毎年三、四頭はいる様です。四月になると新入生が入部して、一頭当たり五人位乗せて運動しなければならなくなり、跛行している馬を馬休にすれば、元気な馬に全部皺寄せが行き、全馬がガタガタになってしまいます。また丁度その頃に試合を控えている等で、調教が進まなく

なってあせり、その結果がそのまま試合に出る訳で、悪循環が悪循環を呼んで、シーズンが終わってしまう様に見うけられます。このような事はもうない様に春先の馬の体調には充分気をつけ、ベストコンディションで試合に臨んで下さい。

山本保善堂薬局

中央区北一条西三丁目
☎221-8141
ススキノ営業所
中央区南四条西三丁目
☎251-0896

ご予算は…？内容は…？おまかせ下さい!!

味とまごころでご奉仕
仕出し料理
中一

慶弔用仕出し・慶弔用特製弁当
給食弁当・会席弁当・折詰弁当
レジャー用弁当・寿し弁当
折詰料理・オードブル

札幌市北区北18条西 4 丁目(18条ハイツ地下)
事務所／北区北18条西 5 丁目
☎711-5045

役職報告

主将

高須哲男

とうとう我々が最上級生となってしまった。我々……すなわち、北大馬術部が全日学へ団体出場したのを実際に見ていない学年……がである。ここ数年、我が部の目標は毎年、全日学団体出場であった。しかし、昨年もその目標は達成できなかった。「北大馬術部が全日学へ団体出場できない」……この異常な事態が、下級生の中で当然のことであるかのように受けとめられつつある。「どんなことがあろうと、絶対に団体出場しなくてはいけないのだ」という義務感が薄らいで、「なんとか団体出場しよう」という希望になりつつある。

それでは、強いチーム作りの為に、日々の練習をどう改善すればよいか。増田前主将時代の後期より、練習方法の大巾な改革を行い、私が主将の任に就いて以来、その練習方法の確立、補強、修正に努めた。この半年間および現在の練習方法は次の通りである。

o これまで下級生の練習参加は本人の自主性に任せていた。しかし、これを強制参加とし、正当な理由で練習を休む場合はその旨を文書で事前に主将まで提出し、無届欠席者には罰を与えている。これは無論、上級生と云へども例外ではない。

ここまで管理強化することは、大学生のクラブとしては抵抗があったが、これによって……

o これまで下級生が練習で乗る馬は、毎日違う馬ということが珍しくなかった。また、練習に出てきたり来なかったりする下級生がいたので、各馬の負担を均一にする為には、下級生を前日と異る馬に乗せることも仕方がなかった。しかし、全員が毎朝必ず練習に出てくることにより、二週間ずつぐらい、馬配を固定することができるようになった。従って、下級生の計画的指導が容易になった。また、何らかの理由（研修など）によって調教責任者が練習に来れない時でも、毎日その馬に乗っている下級生が乗ることにより、日々と同じ運動ができるようになった。

o これまで合宿時にしか実施しなかった部班を毎日行い、上級生全員が下級生全員を指導できるようにした。現在は、部班の回数を少し減らし、数日間、各個指導で細かい扶助などを教えた後に、部班で指導するようにしている。また、上級生も週一回岡田監督に号令をかけて頂き、部班を実施している。

o これまでは、二年の秋に調教責任者となってからは、自分の馬以外の馬に乗る機会は極めて少なかった。乗り方、方針が様々であるというのも、ここに起因する。そこで、努めて上級生間の馬の乗り代わりを試た。特に冬合宿では、二週間を通して、一日二鞍のうち片方は乗り代わっての部班とした。

o これまでタブーとされていた鐙上げを、下級生の指導に取り入れた。騎座確立の為であり、主として、速歩での馬乗体操として実施している。上級生自身も鐙上げは不得手…というよりもよくわからない…という実情であったので、これまで効率的な

指導ができなかった。しかし、今春、上級生七人が中俣修氏の馬場馬術講習会に参加し、千葉幹夫先輩も昨年来札され、指導してくださったので、今後改善されていくだろう。

半年間、良いものはどんどん取り入れようと努めてきた。今春も乗馬クラブ「クレイン」、中俣氏の講習会、帯広畜産大、岩手大、全日学女子講習会…と部員が各地に飛んだ、その反面、部の統一した方針が確立されていないという問題も否定できない。毎週実施しているミーティングによって、一週間の指導方針は決定しているし、根底となるのは自然調教法である。しかし、各自の馬術観の統一を目指すのは今後最大の課題である。

最後に、昨日閉会した今シーズンの開幕戦、「第二十二回　国立七大学戦」に於て、我々は数年ぶりの優勝を果たすことができた。これまでの練習の成果であると確信する。昨年の全日学では、北皇子、北将という、それまで権利のとれなかった二頭が出場した。今年こそ、我々は全日学団体出場を果たす。否、果たさねばならない。

副　将

名　越　正　泰

去年の公認大会で失権して目が覚めた。おれはこの馬に今まで何を教えてきたのか？何一つやっていないのではないだろうか?!自然馬術、馬場馬術云々言うのがいやになった。乗り方はどうであれ、騎手のいう通り馬が動けばいいのだ。それさえできれば、失権などするはずはない。何も重たい馬に伊式だといって伝わらない扶助で調教して何になるのか。もちろん伊式だって誤って理解している部分もあるだろうが、方式なんてどうでもいいではないか。指示通り動かせないのに方式を貫くのは、バカとしか言い様がない。自分の考えを貫け。（高等馬場を除けば、考え方の違いは程度の違いでしかなく、基本は馬を動かすことというのが考えであり、障害飛越中における馬の自由は絶対的なものと思う。）

本当に手の内に入れて運動できるようになった時、北大は勝てる!!というわけで我が部の不調はすべて馬に対する人間の要求の甘さのみで、馬達、方式に責任はない。失敗を恐れていたら、調教なんてできないぞ。そうしないで甘さがあるから、自信のないエントリーをして、キケンを増してきたのだ。勝てる、または、権利のとれる自信のある試合に出てこそ、良い成績をおさめられ、失敗は少く、安定した全シーズンをおくれるのだ。勝つために出る、それが勝負の基本ではなかったのか？

もう一度言う。こだわりを捨てて、確実に馬を動かすよう馬場運動（馬場馬術ではない）をやろう。そうすれば勝てる。

下級生へ　自分から馬に乗れ。決して馬に教えてもらおうと思うな。ボケーと乗っていても馬は何も教えてくれないぞ。自分で馬に働きかけて、その答えによって、人は馬に教えてもらうのだから。

こんな大きな口をたたいたからには、結局、副将は涙をのんで、勝たねばならないのだ。

主務

町田雅人

飯野兄より主務の仕事を引き継いでから、十か月あまり。はじめのうちは、飯野兄より、「あれやったか、これやったか。」と言われてはじめて気がつくことばかりであったが、最近はようやく、自分でいろいろと仕事に気づくようになった。とはいうものの、気がつくだけであって、行動に移るのが遅く、仕事をためてしまっては、あわててかたづける、という状態が続いており、「気がついたら、すぐにやる。」というような積極的な行動力を必要とする役職であると痛感しております。

さて、主務の立場から見た現在のクラブの状態を書くとなると、やはりまず第一に金銭的な問題であると思います。特に今年は、冬期間の馬の栄養状態の向上のために、今まで使用していなかった、ヘイキューブを与えたため、その分の支出が増し、一時的に苦しいときがありましたが、二、三月のアルバイトでなんとかなりました。冬だけでなく、その後も、最低必要な分を、なんとかアルバイトでかせぐといった状態で、ある程度のまとまった金が常にあるという状態ではないので、なにか、急な支出が必要なときなどを考えると非常に不安な状態です。

また、今年は、七大戦が北大の主管で行われましたが、それに備えて、二十万円分、そして、同好会からも、二十万円分の馬具の援助を頂き、とても助かりました。

次にアルバイトについてですが、前にも書きましたように、だいたい必要な分だけをかせぐのが精一杯というのが現状です。六、七月に中央競馬のバイトがありますが、夏の遠征、そして、秋の東京遠征の馬運車代を考えると、それほど状況は変わらないと思います。このようなわけで、できるだけ、アルバイトをやらなければならないのですが、授業をさぼらず、そして、クラブ全体でできるバイトとなると、現在やっているものの他は、ほとんどなく、小さなバイトをこつこつやる以外はないようです。

そして、今年の大きな問題の一つとして、車のことがあります。昨年までは、現役部員の中に車を持っている人がいましたが、今年は一人もいません。今までは、なんとか今年卒部された方や、小野さんの御好意により、必要なときに貸していただけましたが、これから夏の乾燥バイトや遠征のことを考えると、是非一台ぐらいは、部、もしくは部員で一台くらい車を所有する必要にせまられると思います。クラブで買うとしても、どんなに安く見積っても、全部で三十万円くらいはかかりそうで、そんな余裕は、現在のクラブにはありません。もし、OBの方々でいいお話がありましたら、是非お知らせ願いたいと思います。

最後になりましたが、後援会、同好会をはじめ、諸OBの方々には、多大の御援助、助言を頂き、まことにありがとうございます。また、東京OB会のみなさま方には、東京遠征の度に、御声援を頂き、感謝しております。今年こそは、それに報いる成績を上げられるようにがんばっていきたいと思います。

馬　匹

野　中　道　夫

馬匹管理の仕事も、今年で二年目となりました。なにもわからなかった最初に比べれば、かなり判断力もつき、治療技術も向上してきたのですが、それだけではいけないと常々、思っています。人間の無知、不注意、怠慢で馬に辛い思いをさせるのは論外であり、馬匹係は、その尻ぬぐい役であってはいけないと思うのです。健康をそこねたり、けがをした馬をなおす時間と労力、お金を馬が健康に運動できるように、さらにはその能力をできるかぎり発揮し伸せるように使っていきたい。そのためには何をするか。部員の馬体管理に関する知識を向上させる事、また、ぼく自身が知識を広げ馬達の健康の向上をはかる事を考えてきました。部員総会で毎回プリントを配ったり、事あるごとに自分の知っている事をできるかぎり知らせたり努力はしているのですが、いまいちの感があります。もっともっと馬達にしてやれる事があると思うのです。手をかけてやればやっただけ、馬達は答えてくれると思います。馬の馬体的な質の向上をはかろうとすると結局は飼料につきあたります。いいものを好きなだけ食べさせてやりたいのですが、クラブの経済状況が、それを許しません。今年は、青草のない冬期だけヘイキューブを与え、これはかなりいい効果を現しています。ただ乾草の量が絶対的に不足しています。その他馬体管理の秘伝のようなものがありましたらどうか御指導ください。お願い致します。

さて、馬の出入ですが、六月輝魂龍号（キコンリュウ）が柄松廐舎より入廐。七月勇勝号（ダイカツパール）が小林廐舎より入廐。また三月にＯＢの斉藤勝雄さんのノエル号が入廐し、四月十四日に牡馬を無事、出産しました。小栗先輩より寄贈していただき、全日学にも出場した北美号は、肩の慢性的跛行などの理由で、三月に離廐しました。現在は、すずらん乗馬クラブの以前の経営者、松崎さんの娘さんの愛馬となっています。牝馬三頭、騸馬十頭の大所帯です。

四月現在の馬体状況を報告します。今年の冬は、雪が少なかったのと、ヘイキューブ給与のためか例年にない故障馬が少なかったのですが、一時期、かなりの降雪があり、その際、何頭かの故障馬を出してしまいました。もっと注意すべきだったと思います。添田先輩の紹介で入廐した勇勝号を放牧中の事故で骨折させてしまいました。左前肢副中牛骨の骨折という診断でした。先日、レントゲンを撮ったところ経過がよく、五月より常歩で騎乗する予定です。烈々風も、右前肢の球節上部に骨瘤と骨膜炎があり二ケ月程馬休にしなければなりません。その他は、おおむね良好です。あとは、人間の合理的な飼養管理と運動構成しかないと思います。

できるだけ放牧してやりたいので数頭一緒に放牧しています。一方で、ケガも時々させてしまいます。ジレンマです。

最後になってしまいましたが、いつも助言してくださる小池先生をはじめとした獣医の先生方、折橋姉、馬の肢蹄を守ってくれている太田さん、いつもほんとうにありがとうございます。それから飼料の世良兄、薬品の嶋田妹、馬匹補佐の国枝妹、これからもよろしくお願いします。

飼料

世良健司

所属学科の関係上、飼料の役職に就きました。引き継ぎ当所は自分の立場上、今までの飼料給与法を少しでも科学的に検討して、今後の方針を立てていきたいと考えましたが、実際にいろいろと検討してみると、結局は馬の状態を見ながら飼料の種類・質・量を加減していくことが最も適切であり大切であることがわかりました。このことからも、今後は今まで以上に部員達が馬の状態に気をつけることを望むと共に、私もできるだけ多くの人々から、経験に基づく知識を得て、役立てていくつもりでいます。

この他、経済的な支出の面で大きな位置を占めるのが飼料であり、私も既に何度か計画性のないことをして会計から強い御指摘を受け、その重要性を痛感しておりますが、以前の部員達の飼料管理に目を向けると、かなりずさんな面が見られ、無駄があったと思われます。現在の経済的な危機をカバーする上でも部員各人がこれから慎重に飼料管理をおこなっていかなければならないと考えます。その第一歩として、部員達の力で飼料庫に床板をはり、また、一部改造し、清潔にもなりました。これからも各人の飼料に関する認識を深めて管理していくことを望むと共に、私も気を引きしめてがんばっていきたいと思います。

会計

佐藤仁美

昨年一年の収支を振り返ってみると、収入ではバイト収入が三百万を越え、総収入の六割を占めています。年間収支が五百万台に入り、年々支出額も増えてきています。

特に昨年は、飼料が値上りし、又、全日本大会が十二月に延期になった為、東京遠征に二度行ったことになり、その分の輸送費が例年より多くかかったことなど、があって予想外に出費がかさんでしまいました。飼料は、学校より物品補助費がある為、夏期は、実質の出費はありません。又、冬期間、栄養状態を良くする為、約二十万円の予算でヘイキューブを購入しました。馬具は、同好会の御好意で五万円の予算を回していただき、シーズン中の馬具はほとんどそれでまかなっています。又、鞍の購入も伸び伸びになりながら、予算が立たないままになっていましたが、今年、札幌競馬場より、二騎譲っていただき、感謝しています。

OBの方々には、御来札の際や、試合場で御好意を承り、ありがとうございました。運営費の一部として、大切に使用させていただいています。又、岡田監督より、烈々風号の養育費として毎月二万円頂いています。

クラブの経済状態は決して余裕のあるものではありませんので、部員各自には、不必要な出費をしなくて済むように、特に飼料など、馬の口に入らずに捨ててしまうことなどないよう、自覚が望まれます。最近は、うるさく言っているので、皆分っていると思いますが。

一時期は、預金も底を尽き、どうなることかと思いましたが、なんとか乗り切ることができました。今後も、部員の負担は続くと思います。自分等のクラブですからやむを得ないことですが、少しでもこの負担を軽くする為、ＯＢの方々の御理解と暖かい御支援をお願い申し上げます。

副務　丹野宏昭、平石哲生

薬品　嶋田明美

作業　上本浩之

馬具・備品　平山復志、谷山豊三郎

文化　森田敏、町田憲司

記録　中川千夏子

レシート　小役丸千加子

昭和57年1月～12月　決　算　報　告

会計　佐　藤

〈収　　入〉

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
部　　費	20,000	12,000	21,000	16,000	25,000	0	0	0	30,000	13,000	16,000	14,000	167,000
バ イ ト	34,400	274,200	154,750	263,180	176,447	80,400	764,882	631,200	356,080	292,600	146,240	41,800	3,216,179
補　　助	20,000	55,000	20,000	20,000	20,000	29,000	25,000	156,000	37,000	36,000	30,000	1,155,200	1,603,200
そ の 他	0	0	49,800	188,900	86,550	22,000	20,800	0	46,065	77,906	46,072	27,580	565,673
計	74,400	341,200	245,550	488,080	307,997	131,400	810,682	787,200	469,145	419,506	238,312	1,238,580	5,552,052

〈支　　出〉

項目＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
飼　　料	0	7,200	384,315	59,000	0	0	150,980	0	300,000	68,420	50,000	0	1,019,915
蹄　　鉄	150,000	136,000	0	0	250,000	0	340,000	0	210,000	0	210,000	160,000	1,456,000
馬具・備品	500	10,660	16,360	2,440	0	12,852	43,790	9,270	5,950	27,505	4,980	0	134,307
薬　　品	40,630	7,300	0	0	19,836	380	0	1,180	950	110,000	200	0	180,476
輸送関係	0	0	0	0	31,403	21,804	80,000	70,000	63,365	15,604	11,313	450,000	743,489
そ の 他	22,123	0	97,404	313,713	350,426	192,049	120,150	168,625	132,317	182,690	72,165	249,580	1,901,242
計	213,253	161,160	498,079	375,153	651,665	227,085	734,920	249,075	712,582	404,219	348,658	859,580	5,435,429

⊙鞍の修理うけ承ります。

MAYCRAFT ORIENTCO, LTD
オリエント商事

国内唯一
馬具総合メーカー

本　　社　北海道歌志内市神威264番地
☎ 01254-2-2152(代)
東京都台東区浅草橋 5-12-6明治堂ビル
☎03-866-2131(代)

社会保険　国民健康保険
老人医療　生活保健　護法　指定医

庄　内　歯　科

歯科医師　庄　内　貞　夫

札幌市白石区本通 2 丁目北81号番37号　☎861-2504

木材　建材　一般金物　塗料　建築金物

有限会社　まるへい商事

札幌市北区北24条西 5 丁目☎731-5331～3

昭和57年度行事報告

4月4日

対東北大学定期戦（於北大）

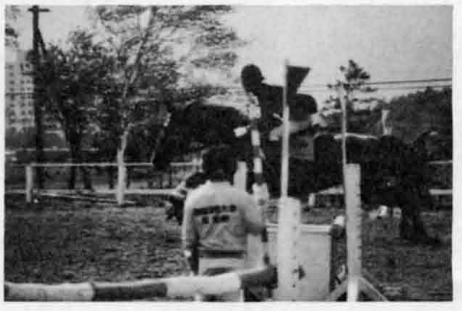
上本兄（2年目）と北雛号。満点でした。

5月3日

第10回半沢杯、太秦杯、河田杯記念馬術大会

（於北大）

石井兄（4年目）と北将号



5月17日

小池先生馬学講議

装蹄について

5月24日

新歓コンパ

翌朝、〝ザル〟の豊三郎と〝かわし〟の小役丸及び根性根性の下村、山田コンビは元気に、練習に参加

4月12日

七大戦（於名古屋大学）

4月18日

三大学定期戦（於北大）

森田兄（2年目）、ゼット号で最優秀選手。

5月16日

山下杯（於酪農学園大学）

平石兄（2年目）、北皇子号にて小障で優勝。

6月5・6日

北海道自馬馬術大会（於北星乗馬クラブ）

快挙！見てください。このトロフィーの数。

7月29日～8月4日

北日本学生馬術大会（於帯広畜産大学）

名越兄（3年目）と北皇子号。二回走行にて。

8月7・8日

北海道体育大会（於帯広畜産大学）

8月23～29日

日高合宿

アレ、小役丸どうしたの。

朝露の残る早朝のマラソンが気持ちよかったなあ。

羊蹄、峰徳、丘峰、海崇、さか北、元気かな。

9月12日

フロンティア牧場祭

山田君、小障で優勝。大活躍でした。

9月18・19日

道内親善馬術大会（於岩見沢競馬場用馬場）

国枝姉（2年目）とノエル号

9月21日

役員交代コンパ

4年目の諸兄姉はようやく肩の荷が降りたとというような表情でした。

10月 4～7日

国民体育大会秋期大会(於島根県益田馬術競技場)

10月10・11日

北海道地区乗馬大会（於旭川近文公園馬場）

10月18～25日

気合い入れ合宿

規則正しい生活で気合いが入りました。しかし部室のふとんに1週間も寝るのは耐えられない。

10月30日～11月 8日

全日本学生馬術大会（於馬事公苑）

11月21日

現役・OB対抗戦

11月27日

学内卓球大会

快挙、2回戦進出

12月10～12日

全日本馬術競技会（於馬事公苑）

増田兄（4年目）とドンホッパー号

12月20日

忘年会

三人組、芸でドブロク１升もらう。

ウフフ、誰ですか隣りの女の人は、

野中さん。

12月29日

もちつき

真白な雪の中でついた、真白？とは言へない

餅がうまかったなあ。

12月24～30日

冬合宿前半

1月３～９日

冬合宿後半

いやあ、北海道神宮往復はさすがに疲れましたね。

1月２日

初乗り

北将号に乗った半沢先生を先頭に北海道神宮

への人馬の行軍。

1月22日

学内雪中ラクビー大会

深雪の中で、我が馬術部の〝農耕馬〟チー

ムは例年ならぬ１勝。

甘酒がうまかった。

1月29・30日

学内バスケットボール大会

〃馬助人〃 1回戦10：4で圧勝！

2回戦 8：20で惜敗。

2月1日

大通り雪祭りに外乗

感激！しかし乗っている者はいいが、下を歩く者はこけてこけて疲れた。

3月15日

追い出しコンパ

平田姉、石井兄、増田兄、飯野兄、斉藤兄、

4年間、御苦労様でした。

これからも馬場に顔を見せて下さい。

3月22日

北美号離厩式

昭和57年度　戦績報告

★対東北大学定期戦（4月4日　於北大）

使用馬匹…ドンホッパー・北騅・北美

北大選手…上本兄、平石兄、平山兄

戦績……北大　－70　　東北大　－3　　負

新二年目のデビュー戦。馬匹の状態が悪く、ジュニアの部のみ行われた。東北大は合宿明けのぶっつけ本番。部員は吹雪の中、馬場山脈より観戦。試合は平石のチョンボにより大敗。北大の新二年目にとって後に続く試合の良い教訓となりました。〈コンパで栗野が大活躍〉……　上本兄筆

★三大学定期戦（4月18日　於北大）

使用馬匹…北騅・北美・ゼット

北大選手…斉藤姉、平石兄、森田兄

戦績……北大　0　　酪農大　－3　　帯畜大　－263.5　　1位

敬礼をして手綱を強く持つと、ゼットは筋肉の発達した体を硬く緊張させた。外方脚をちょっと引いただけで弾発のある駈足になった。試合で馬が変わるとはこういうことだと感心した。二連続でバランスを崩し、周りのどよめきが耳に入った。しかし、満点で気持ちよくゴールを切ることができた。馬場を出るとき見ていた部員特に石井兄が、腕を組みながら笑っているのを見て、とても壮快な気持ちになった。北大は全員満点で優勝を飾った。尚、最優秀選手に僕、優秀選手に新倉（酪大）が選ばれた。その日のコンパの酒は格別だった。……　森田兄筆

★第10回太秦杯、半沢杯、河田杯記念馬術大会（5月3日　於北大）

道内での試合シーズン幕開けを告げる太秦杯、半沢杯、河田杯記念馬術大会が今年も北大馬場で行われた。あいにく小雨が少し降ったものの春らしい一日であった。半沢杯中障碍で我らがドンホッパーが満点でゴール。しかし北星乗馬クラブのゼファー（布施選手）らも満点であったため、バラージュが行なわれた。まず増田兄が難関の第四障碍ビラビラも美しく飛越し、またもや満点ゴール。続いて布施選手がスタート、スピードから考えて我らがドンの優勝かと思っていた矢先、最終障碍へ向う回転で勝負をかけられ、惜しくも5秒差で2位となってしまった。やはりこれは馬歴の差。年の差？

〈複　合〉（太秦杯）

	選手	馬名	所属	馬場減点	障害減点
1位	布施	ゼファー	北星	－134	0
2位	増田	ドンホッパー	北大(4)	－149	0
2位	後条	騄閃光	酪農大	－149	0
	名越	北皇子	北大(3)	$-163\frac{2}{3}$	0
	石井	北将	北大(4)	－156	－11.75
	斉藤	北楽院	北大(4)	$-171\frac{1}{3}$	0
	飯野	北美	北大(4)	失権	
	町田	北姫	北大(3)	失権	

〈馬場馬術　二課目〉

				得点
1位	瀬川	イズミシュウコウ	札競	$+152\frac{2}{3}$

2位	西　沢	イズミシュウコウ	札　　競	＋150$\frac{2}{3}$
3位	朝　妻	オオカリヒメ	札　　競	＋128
	石　井	北　　将	北　大 (4)	＋ 94

〈中障碍〉(半沢杯)

				減　点
1位	布　施	ゼ ファ ー	北 星 R.C	0 (ジャンプ、オフ0　47″0)
2位	増　田	ドンホッパー	北　大 (4)	0 (ジャンプ、オフ0　52″5)
3位	後　条	駿　閃　光	酪　　大	0 (ジャンプ、オフ　－7　)
	斉　藤	北　楽　院	北　大 (4)	－8

〈小障碍〉(河田杯)

規定タイム 57″に近いものより順位をつける

1位	金　沢	アパッチエース	岩　見　沢	0	(55″ 0)
1位	布　施	チャキリス	北　　星	0	(55″ 0)
3位	武　藤	ド ミ ニ ク	札　　競	0	(54″ 0)
	中　川	ドンホッパー	北　大 (2)	0	(52″ 0)
	町　田	北　　姫	北　大 (3)	0	(48″ 2)
	鴫　田	北　　美	北　大 (2)	0	(48″ 0)
	平　田	北　　騅	北　大 (4)	0	(46″ 0)
	世　良	スターライト	北　大 (3)	0	(41″ 0)

★対酪農大定期戦（5月16日　於酪農大）

すごい強風の中、今年も酪農戦が酪農大馬場にて行なわれた。結果は北大の負けとなってしまったものの、平石兄が小障碍で見事優勝。副賞として立波な鞭をいただいたそうだ。平石兄曰く、「わし、この鞭大事にすんねん、エへ。」

〈複　合〉

				馬場減点	障碍減点
1位	後　条	駿　閃　光	酪　　農	－119	－10
2位	渥　美	駿　　翔	酪　　農	－120	－20
3位	原　田	駿　　鷲	酪　　農	－144	－5
	増　田	ドンホッパー	北　大 (4)	－148	－5
	名　越	北　皇　子	北　大 (3)	－157	－10
	飯　野	北　　美	北　大 (4)	－178	－25
	石　井	北　　将	北　大 (4)	失権	
	町　田	北　　姫	北　大 (3)	失権	

〈小障碍〉

					タイム
1位	平　石	北　皇　子	北　大 (2)	－0	1′ 05″ 0
2位	佐　藤	駿　閃　光	酪　　農	－0	1′ 06″ 6
3位	後　条	駿　　駿	酪　　農	－0	1′ 15″ 2
	町　田	北　　姫	北　大 (3)	－3	
	平　田	北　　騅	北　大 (4)	－4	
	平　山	ドンホッパー	北　大 (2)	－4	

野　中	北　　耀	北　大 (3)	－8
石　井	北　　将	北　大 (4)	失権
世　良	スターライト	北　大 (3)	失権

総合戦績　酪農大31　北大11　負

★第17回北海道自馬馬術大会（6月5・6日　於北星乗馬クラブ）

北海道にもやっと夏の兆しが見えはじめ、ポカポカと暖かい6月の初めに北星乗馬クラブで北海道自馬馬術大会が開かれた。この大会では北大が大活躍、ほとんどの部門で入賞を果たしました。中障碍Bにおいては、北大三年目の佐藤姉が男どもを押えて堂々優勝。ヤッタネ佐藤さん！

〈複　合〉

				馬場減点	障碍減点
1位	佐　藤	ムーティージュニア	碧　　雲	－126$\frac{1}{6}$	－0
2位	布　施	ゼ　フ　ァ　ー	北　　星	－130	－0
3位	松　橋	大　　雪	帯　畜　大	－136	－0
	名　越	北　皇　子	北　大 (3)	－187	－0.8 (タイム減点)
	石　井	北　　将	北　大 (4)	失権	
	飯　野	北　　美	北　大 (4)	失権	

〈ハンティングB〉

				タイム
1位	増　田	ドンホッパー	北　大 (4)	1′38″4
2位	橋　口	騄　　龍	酪　　農	1′44″6
3位	長　屋	サ　ミ　ッ　ト	札幌乗ク	1′45″1

〈中障碍B〉

1位	佐　藤	ドンホッパー	北　大 (3)	－0（バラージュ　－0）
2位	久　保	ゴールドゴール	札　　競	－0（バラージュ　－4）
3位	小　原	カ　イ　ド　ウ	日高育成	－3
	石　井	北　　将	北　大 (4)	－4
	名　越	北　皇　子	北　大 (3)	－4
	野　中	北　　耀	北　大 (3)	－8

〈小障碍〉

1位	平　内	カ　イ　ド　ウ	日高育成	－0（バラージュ　タイム33″48）
2位	佐　藤	騄　　鷲	酪　　農	－0（バラージュ　タイム34″29）
3位	藤　本	ホッカイスガタ	旭川乗ク	－0（バラージュ　タイム34″64）
	町　田	北　　姫	北　大 (3)	－4
	平　田	北　　雛	北　大 (4)	失権

〈中障碍〉

1位	新　井	月　　光	帯　畜　大	－0（バラージュ　－0　タイム35″51）
2位	原　田	騄　　鷲	酪　農　大	－0（バラージュ　－4　37″68）
3位	増　田	ドンホッパー	北　大 (4)	－0（バラージュ　－4）
	小　栗	北　　耀	北　大 (4)	－9
	飯　野	北　　美	北　大 (4)	失権

〈新馬、初心者障碍〉

1位	山 畠	騄 龍	酪 農 大	−0（バラージュ −0 33″ 84）
2位	上 本	北 皇 子	北 大 (2)	−0（バラージュ −0 34″ 39）
3位	桜 田	デザイアー	北 星 乗 ク	−0（バラージュ −0 35″ 44）

〈婦人、壮年障碍〉

1位	布 施	デザイアー	北 星 乗 ク	−0（バラージュ −0 39″ 61）
2位	久 保	セントマロ	柏 友 会	−0（バラージュ −0 42″ 81）
3位	平 田	北 騅	北 大 (4)	−0（バラージュ −0 47″ 72）
	国 枝	北 美	北 大 (2)	失権

★第18回北日本学生馬術大会（7月29日〜8月4日　於帯畜大）

北日のため帯畜大へ向けて大型トラックが地響きをたてながら、北大馬場を出発した。中は美しく手入れされた馬8頭、及びその生活必需品、小汚い人間数名。一年目は授業があったため後から電車で行くこととなった。試合はすべて開催所である帯畜大の活躍の場となってしまったが、それでもドンホッパーと北将は相当ハイレベルのスティープルコースにもかかわらず、汗だく、ぐしょぬれになりながらも帰還。

〈二回走行〉

				第一走行	第二走行
1位	原	柏 栄	帯 大	−7	−0
2位	坂 東	柏 星	帯 大	−11	−0
3位	増 田	ドンホッパー	北 大 (4)	−8	−4
	名 越	北 皇 子	北 大 (3)	失権	
	石 井	北 将	北 大 (4)	失権	
	飯 野	北 美	北 大 (4)	失権	
	斉 藤	北 楽 院	北 大 (4)	失権	

敗者復活戦（調教試合）

	名 越	北 皇 子	北 大 (3)	−0
	石 井	北 将	北 大 (4)	失権
	飯 野	北 美	北 大 (4)	失権

〈総　合〉

				調 教	耐久	余力
1位	新 井	月 光	帯 畜 大	−129$\frac{1}{2}$	−0	−5
2位	板 東	柏 星	帯 畜 大	−120$\frac{1}{2}$	−20	−5
3位	松 橋	大 雪	帯 畜 大	−131	−0	−15
	増 田	ドンホッパー	北 大 (4)	−139$\frac{1}{3}$	−20	−0
	石 井	北 将	北 大 (4)	−156	−60	−25
	飯 野	北 美	北 大 (4)	−149$\frac{1}{2}$	失権	
	斉 藤	北 楽 院	北 大 (4)	−150$\frac{1}{2}$	失権	
	名 越	北 皇 子	北 大 (3)	−161$\frac{2}{3}$	失権	

〈B障碍〉

1位	菊 地	ヤマニンオウザ	岩 大	−0	(1′ 33″ 0)
2位	高 橋	東 翼	東北学院	−0	(1′ 42″ 4)

3位	橋口	騄鶯	酪農	－4	
	野中	北耀	北大(3)	－7	
	世良	スターライト	北大(3)	失権	

〈新人、新馬障碍〉

1位	板東	柏斗王	帯畜大	－0	(1′12″0)
2位	栗野	マコロード	東北大	－0	(1′15″3)
3位	有賀	大雪	帯畜大	－0	(1′16″4)
	国枝	ドンホッパー	北大(2)	－4	
	世良	スターライト	北大(3)	－12	
	斉藤	北楽院	北大(4)	失権	
	平田	北騅	北大(4)	失権	
	高須	北将	北大(3)	失権	

☆北海道体育大会（兼国体予選）（8月7日8日　於帯畜大）

昼間はうだるような暑さで、あのかわいらしいハエちゃんは元気一杯。北日の後、続けて道体が帯畜大で行われる為、我々は帯畜大のハエ小屋いや合宿所にハエちゃんと一緒に泊めていただいた。おにぎりなんぞそのへんに置いておくと、あっという間にハエのノリ巻きに早変わり。そんな中、道体が開かれた。

〈総　合〉

				調教	耐久	余力
1位	増田	ドンホッパー	北大(4)	$-126\frac{1}{2}$	－0	－0
2位	佐藤	セニョールホース	碧雲ク	$-127\frac{1}{2}$	－0	－0
3位	谷	テレサ	北星	$-122\frac{2}{3}$	－0	－6
	石井	北将	北大(4)	－174	－60	－25

〈成年障碍〉

1位	原	柏栄	帯畜大	－4	
2位	板東	柏星	帯畜大	－4.75	
3位	増田	ドンホッパー	北大(4)	－8	

〈中障B〉

1位	村上	テレサ	北星	－0	(1′07″6)
2位	小原	ザ・チャリー	ケンタッキー	－0	(1′16″4)
3位	名越	北皇子	北大(3)	－0	(1′18″8)
	野中	北耀	北大(3)	－9	
	世良	スターライト	北大(3)	失権	

〈一般、少年障碍〉

1位	布施	テレサ	北星	－0	(1′04″10)
2位	板東	柏斗王	帯畜大	－0	(1′07″73)
3位	金沢	アパッチエース	岩見沢乗ク	－0	(1′08″03)
	野中	北耀	北大(3)	－4	
	高須	北将	北大(3)	失権	

団体への出場権利獲得人馬

増田(4)　ドンホッパー

★第6回道内親善馬術大会（9月18、19日　於岩見沢競馬場乗用馬場）

準備馬場が走路の為、馬達は昔を思い出してか落ち付かない。北紫雲のデビュー戦となったこの試合もマリは野山に大脱走、井上兄達は車で追いかける大波乱。そんな中でドンが選抜を勝つあたりは流石増田兄であります。

〈2課目〉

北大ではドンホッパー（高須(3)兄）と北美（斉藤(2)姉）が出場

〈小障碍〉

				減点
1位	白井	サマンサ	ケンタッキー	0（ジャンプオフ　35″79）
2位	渡辺	柏星	帯大	0（　〃　37″10）
3位	岩城	ザ・チャーリー	ケンタッキー	0（　〃　37″91）
	平山	北皇子	北大(2)	−3
	井上	北紫雲	北大同	失権
	斉藤	北楽院	北大(4)	失権
	世良	スターライト	北大(3)	失権
	上本	北美	北大(2)	失権

〈婦人、壮年、新馬〉

1位	高橋	サンマック	札競	0	(46″29)
2位	久保	ジープジープ	柏友会	0	(47″07)
3位	布施	アテナ	北星	0	(47″37)
	井上	北紫雲	北大同	失権	
	世良	北将	北大(3)	オープン	

〈初心者〉

1位	平井	ゼット	酪大	41″29
2位	小林	アドノー	北星	43″26
3位	木村	サミット	北星	43″94
	平石	北雛	北大(2)	失権
	斉藤	北楽院	北大(4)	オープン

〈中障碍〉

1位	板東	柏星	帯畜大	0（ジャンプオフ　−0　）
2位	増田	ドンホッパー	北大(4)	0（ジャンプオフ　−4　34″92）
3位	橋口	騄龍	酪大	0（　〃　−4　36″38）
	石井	北将	北大(4)	−12
	名越	北皇子	北大(3)	失権

〈選抜中障碍〉

1位	増田	ドンホッパー	北大(4)	−4
2位	橋口	騄龍	酪大	−12
3位	原	柏栄	帯畜大	−23

★北海道地区乗馬大会（10月10、11日　於旭川市近文公園馬場）

広い公園の一角にある馬場、道内で唯一覆馬場を持っている。景色は良く、裏には石狩川が流れ、土手には豊富な青草、レッドクローバーが密生している。これは馬達への贈り物。

しかし、まだ新しい施設なので、馬場の砂が深く、馬も人間も、つらそうに走った。……佐藤姉筆

〈部班馬場馬術競技A〉

				得点
1位	佐藤	キタノコンゴー	石狩	190
2位	藤原	メジロダンサー	岩見沢	189
3位	高野	クロケット	旭川	186
	町田	北楽院	北大(1)	159

馬場馬術競技第2課目少年の部で森田兄が4位

〈ジムカーナB〉

1位	山原	スターフロンティア	フロンティア	48″1
2位	山本	ヒダトモス	旭川	48″8
3位	佐川	アグネス	フロンティア	49″1
	横山	北美		1′07″3

〈小障害飛越競技〉

1位	布施	ゼファ	北星	−0
1位	小野	キタノコンゴー	石狩	−0
3位	中村	スターフロンティア	フロンティア	−0
	斉藤	北楽院	北大(4)	失権

〈婦人障害〉

1位	斉藤	ウィンドン	石狩	−0	59″0
2位	内藤	ヒダトモス	旭川	−0	59″25
3位	野口	ホッカイスガタ	旭川	−3.5	
	佐藤	北楽院	北大(3)	失権	

★第37回国民体育大会秋季大会（10月4日〜7日　於島根県益田馬術競技場）

戦績

〈成年総合馬術〉

				馬場域	野外	障害
1位	小林	山梨	リベラル	−138.50	−0	−15
2位	重枝	山口	ブラックジャック	−175.17	−0	−5
3位	竹下	滋賀	コンクエスト	−137.17	−60.4	−0
4位	増田	北海道	ドンホッパー	−150.84	−48	−0

詳説は別頁参照

★第18回東日本馬術大会（10月23日　於馬事公苑）

ドンホッパーと増田(4)がハンティングに出場し見事5位。

詳説は別頁参照

★第32回全日本学生障害飛越競技
★第25回　〃　3−DAY EVENT 10月30日〜11月8日　於馬事公苑

〈二回走行〉

				一走	二走	(ジャンプオフ)
1位	中村	慶山	慶応	−0	−0	−0
2位	高橋	スプリンググレー	宮崎	−0	−0	−4
3位	佃	ジュリアン	福井工	−0	−0	−4
6位	増田	ドンホッパー	北大(4)	−3	−4	
	名越	北皇子	北大(3)	失権		

〈総合〉

				馬場減	野外	障害
1位	山川	専照	専修	−117	−0	−5
2位	青木	武専	専修	$-120\frac{1}{3}$	−0	−11.5
3位	霧林	ロッチローモンド	日大	$-134\frac{2}{3}$	−0	−0
12位	増田	ドンホッパー	北大(4)	$-150\frac{2}{3}$	−20	−0
	石井	北将	北大(4)	$-197\frac{1}{3}$		

詳説は別頁参照

医薬品卸・コンピュータ販売

ITO ホシ伊藤株式会社

本店　札幌市南8条西14丁目1397番地
支店　帯広・釧路・北見・函館・旭川・空知
室蘭・苫小牧・岩見沢・小樽・千歳

第三十七回 国民体育大会（くにびき国体）報告

増田　美希夫

(4)

第三十七回国民体育大会（くにびき国体）は、昭和五十七年十月四日～七日にわたり島根県益田市の益田競馬場において開催された。

我らが北海道チームのメンバーは、まず馬四頭で、その内二頭が帯畜大の柏星、柏栄で残り二頭は札競のイズミシュウコウと北大のドンホッパーである。そして上記四頭に乗って試合に出場する成年組選手四人と少年組選手三人、それに帯畜と北大の馬匹二人で少年組監督の佐藤友信さんの計十人であった。

北海道チームは、九月二十六日の早朝に札幌競馬場を後に出発した。馬運車は後で国体会場に着いてわかったのであるが一番非近代的であるようであった。その馬運車で延々三十八時間も揺られて、やっと九月二十七日の夜九時頃に国体会場である益田競馬場に到着した。道中たいした事故はなかったが札競のイズミシュウコーが風に当たりすぎて現地で風邪をひかせてしまった。また畜大の馬が伝貧検査を一ケ月前に行っていなかったので仮厩舎へ入ることができなくて保検所の前で約一日半を馬運車の中で過ごした事が思い出される。その他は全く順調であった。それに札幌を出てから帰るまで全ての食事はもちろん、宿泊代まで道馬連で出してもらっていたので殿様気分であった。九月二十七日に入厩したのは北海道だけであり、馬術会場に割と近い所は十月になってから続々と入厩し始めた。試合が開始される十月四日迄は我々北海道チームは益田市の中心街に出てみたりして遊んだ。十月何日か、はっきり覚えていないが、その日の晩に島根県馬連の主催で飲み会が行なわれ、その会には日本を代表する障害と総合のナショナルチームの人達も多数参加されて、自分もあのチームに入れたら、と夢のような事も考えたりした。

十月四日迄のドンホッパーの運動は、入厩した日から三日間すなわち二十七日～二十九日迄は三十分程度の軽いひき運動に抑え、三十日～十月二日は競馬場の走路を常歩、速歩、駆歩の三種の歩度で大きく走らせたり、馬場馬術用馬場に入り（十月三日迄は時間制で馴致することができた。）調教審査の運動を復習した。調教審査の方はアピュイエは大分いい加減であったが、残りの課目は馬も騎手も五～六点出せる自信が充分にあった。問題なのは、馬が馬場に入り興奮する事だったので試合前はとにかく馬をいろいろな物や場所に早く慣らす事を最重要と考え、実行した。ドンは最初のうちは、跳ねたりして多少興奮気味であったが、いつもの事なので別に心配することはなく、かえって元気があった方が総合に出場する位なので良いと思い、とりわけその事に対して対策を練ったりはせず、ただ落ちつくのを待った。十月三日に総合の下見をした。少年組の監督の佐藤さんから国体のスティープルは障害のボリュームがかなりあって大変だと聞いていたので多少の覚悟はしていたが実際下見をしてみて、あれ程大きいとは思わなかった。下見を終えて一番最初に考えたのは森の中の松林にぶつかって人馬ともに大怪我をするのではないかという事である。なにしろ飛んですぐ四メートル先に松の大木が植えてあったりしたのであったから……　それに第六障害から第二十二障害までは松林の森の起伏の大きい林道沿いに障害が固定されており、一つの障害を飛んだら登って、そして飛んで少し下ってまた登ってという様な、かなり馬に負担がかかるであろうと

という経路だったので、このスティープルを減点〇で帰ってくるには相当の馬の体力と、どんな障害でも飛ぶという完全な程の潔癖性が必要であろうと予想された。また、もう一つ感じた事は、ポイントになりそうな難しい障害が（実際試合をしてみて、その障害は第十五、十七、十八であった。）上り坂の途中や登り終った直後に設置されていたりして余計に飛越しにくそうになっていた事である。このように障害自体も大きく、また障害のどこを飛ばせれば一番飛びやすいかわからない障害や、真中を飛ばせれば、その障害は飛越できるが、その障害上で馬にどちらの道を行けばよいのかの扶助を出さなければ、着地してからでは遅れてしまう様な障害もあった。前者の障害は第十八障害で、後者は第十七障害である。障害の形は後のページに掲載されているので理解できると思われるが、少し説明すると、第十八障害はクロスバーの真中に約五十センチメートルの濠が堀ってあるのである。第十八障害までのアプローチは、ずっとかなり急な登り坂である為に難しく、どこまで抑えてどこから歩度を伸ばすか等、非常に悩まされた。また斜めに飛越できないか等といろいろ考えたりした。それに飛越する場所の地点とクロスバーの一番低い地点との垂直高さは、登り坂の為百三十センチメートルはあると思われた。次に第十七障害は、やや下り坂にあり、V字の扇であった。これがまた曲者で、右の一番低く幅もない所は障害から一メートル位の所に松の木があり絶対飛べないようになっていたのである。そして真中を飛ばす為には第十六障害からの誘導が正確にできないと、飛越する事ができない様に思われた。下見から判断すると、今記した第十七、十八障害は間違いなく、このスティープル経路のポイントになるだろうとは予想していたが、他にも登り坂にある第十障害、第二十二障害は推進気勢を持っていなければ、止まられる危険性はあるであろうと思われた。

〈調教審査〉

十月四日、馬匹の平石に手伝ってもらい装鞍を完了して、競馬場の走路を常歩でゆっくりと大きく歩かせる。試合は初日であるので、ドンも自分も、やや緊張しているのが分かる。十五分位常歩で歩かせた後に、速歩で同じように大きく歩かせる。準備馬場に入って、急にドンがいろいろな物を見て落ちつかなくなる。馬場の外に置いてある三角錐のポイントを見て、なかなか近付こうとしない。準備馬場では、馬を落ちつかせながら徐々に緊張を高めていく。常歩、速歩、駆歩の移行、直径二十メートルの中間速歩、斜手前変換の伸長速歩等を再復習しているうちに出番がきた。試合馬場の横で二周駆歩で輪乗をして、中央線に入り×点で静止した。ドンは、急に落ちついた様である。速歩馬場ではほとんど失敗はなく、無難に終わり駆歩馬場に入る。駆歩馬場では一度反対駆歩が正駆歩になってしまったが、すぐに又反対駆歩に直した位が失敗であった。国体の時の馬場がドンで試合に出場した中で一番自分なりに良かったと思う。馬をつめるという事に関しては、まだまだ不充分であったと思うが、伸長速歩、駆歩や二十メートルの中間速歩では満足のいくものであったと思う。点数は最初発表されたのが、マイナス一三六八四であった。それから出場者全員に約十五点が加算された。順位は四十頭中十番であった。

〈野外騎乗〉（後のページに経路掲載）

十月三日に下見が行なわれたが、五県くらいが下見をして野外騎乗を棄権した。速歩区間は、走路を約一周するだけである。ドンは、

いつも速歩区間でそうであるよう駆歩になろうとした。A区間が終わり、D区間スタート位置に着く。馬も人も緊張しているのが分かる。ドンは、逸って逸ってしょうがない程で、スタート地点で立ち上ったりした。

トランシーバーから「ピッピッピッピー」と鳴ると同時にスタートした。競馬場の走路を猛然とダッシュする。時間を稼げる所で稼がなければタイムオーバーして減点される恐れがある。第一障害の門扉はちょっと見たが、いつもと同じように良く障害を見ながら飛越した。第二障害は何なく通過、第三障害は後肢に乾草が当たるのを感じたが、これも通過、第四障害では、自分の頭のてっぺんが旗にぶつかった。第五の中古車ドッキング障害は、車の真中を飛ばせて何なくクリアー。次の第六障害から山の中に入っていく。第六は、杭バンケットという障害で、バンケットの飛び降りる地点に十五、六本の長さ三十センチメートル位の棒が植えつけてある。棒と棒の間のどこに馬を誘導するか等、全くわからないので無理矢理推進したら、ドンはその棒がある地点の手前から飛越。第六から第七迄の坂を登ぼりきった地点に早くも幅二メートルの第七障害があった。これはドンにとって少し苦しかったと思うが後肢を枝にぶつけながらも何とか通過した。お次のテーブル状の第八障害はドンが踏切を合わせてボッコンと飛ぶ。この第八障害は京大の馬が遠くから踏切って完飛できず馬の前肢と後肢の間に、つまり腹の下に障害がきてしまったが腹がトランポリンの様な役目を果たし、そのままバウンドして飛越した障害である。お次の第九障害はスキージャンプ。自分にとって恐ろしかったので無理矢理推進してどうにかクリアー。第九から第十障害の誘導は難しい。第十障害は登り坂の上にあり、幅も二メートル三十センチある。下見で大きすぎるとのクレームがついた障害の中の一つである。第十障害はドンの後肢がヒューム管にあたり、コーンと音がするのを聞きながら通過。第十一障害の六角は楽勝。続く第十二、十三障害もドンが飛越の流れに乗りスムーズに通過した。第十四障害の下りバンケットも左の方の落差が小さい地点を選んで通過。次の第十五障害は何でもないと思って向けたら、止まられてしまった。これはしまったと思いながら急いで五メートル位戻り、もう一度向けてボッコンと飛ぶ。第十五のBは水の中から出たい一心で慌しく飛越した。この第十五障害こそこのスティープルのポイントであったと分かったのは試合が終わってからであった。他の都府県も続々とここで失権していた。北大のOBの西村正二郎さんも島根県代表で総合馬術に参加していたがここで三反抗をしたようである。何故、この障害で三十数頭もの馬が失権あるいは、反抗したのかは分らないが、自分の意見はこうである。一番の原因は、第十四障害からの下り坂を勢いよく降りて、右に回転してすぐに第十五障害があったので馬が驚いて止まってしまったという事。第二に、水が濁っていて水深がどの位が馬に全く分らなかった事。第三に見物人が障害の回りを囲んでいて、それに驚いた事。以上三つの要素が絡まったのではないかと思う。第十五で止まられて幾分ガッカリしたがすぐに忘れて第十六に向かい飛越。第十六から第十七障害迄は細い道を通って第十七に向う。次の第十七と十八は下見の時に要注意だと肝に銘じていた。第十七は飛越した後、すぐに誘導しないと杉の木にぶつかるようで非常に恐ろしかったが、何が何だか分らないうちにドンがうまく飛んでくれた。次の第十八障害迄は、かなりの急坂で坂の途中に十八障害があるといった感じである。畜大の板東と下見の時にどこを飛越するか、いろいろと検討した結果、やはり真中が一番良いという結論だったので真中に馬を誘導し

てメチャクチャ推進したがドンは飛んでくれず、前足が濠に落ちてしまった。急いで濠から出して、再度向けたらキレイに飛んでくれた。第十七と第十八も失権がたくさんいたようであった。次の第十九、二十、二十一障害は楽勝。その次の第二十二障害は石垣であったが、これが本物で、おまけにその前に深さ一メートルの濠があった。これは思ったより簡単であった。他の馬もここで失権した馬はいない。第二十二から第二十三障害は長い下り坂でその最後に第二十三障害がある。第二十三障害から七メートル位の場所からちょっとした崖になっていたので、第二十三障害は斜めに飛越した。やっと帰ってきたぞと心の中で思ったのがいけなかった。次の馬場の中にある第二十四障害で止まられた。もう一度向けて飛越して最終の第二十五障害のウッドパイルを飛んで全力疾走してゴールした。

人も馬もグッタリで汗がドンの腹から雫のように落ちている。急いで鞍とハミを取ってやり曳き馬をした。

その日のうちに野外騎乗の成績が発表された。マイナス四十八点で十位から四位に浮上した事が分った。

〈余力審査〉

前日の野外騎乗で馬が疲れてあまり前に出ないのではないかと心配していたが、準備運動をしてみると全くその逆で元気がよすぎて困る位であった。準備運動場では、障害を見ただけで突っ走って行くので抑えるのが大変であった。

点数的に見れば三位の滋賀県と一点しか違わないので、余力では満点を取るしかなかった。本馬場に入り、ベルが鳴り、スタートする。一応減点ゼロでゴールしたが内容は悪く、いつものドンでは全く考えられない様な走行であった。準備馬場で練習した時とほとんど同じで、踏切りがなかなか合わず、遠くから飛んでばかりいた。

滋賀県の騎手がバンケットであわや落馬というシーンもあったが結局落馬せず、ドンは総合馬術で四位となった。

少年組監督の佐藤さんが北海道チームの馬は、現在北海道にいる馬の中で最強の馬ばかりを連れてきたと他府県に言っていた様に、成年障害の柏星、柏栄はそれぞれマイナス四、マイナス十一で減点合計マイナス十五となり、団体三位。個人でも畜大の板東が六位。少年組の大谷はイズミシューコーで堂々四位。障害も金沢がドンで八位と健闘して団体でも四位となった。少年貸与馬も五位となった。このように今年はどの競技もコンスタントに得点を重ねて天皇杯得点九点で北海道チームは三位入賞を果たした。

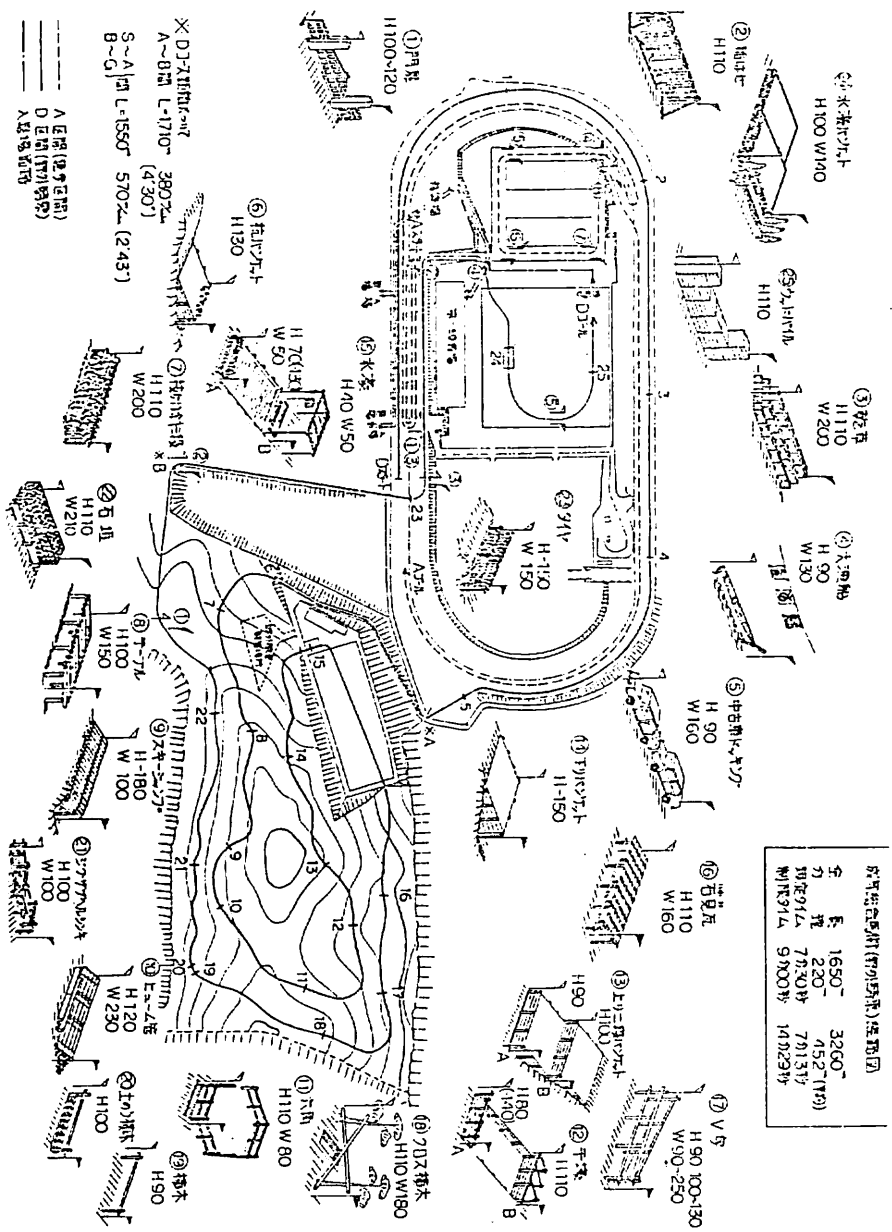
このような素晴らしい成績を上げる事ができたのも、成年組監督の瀬川氏の指導を始め、少年組監督の佐藤さんの国体出場の経験を生かしてのいろいろな指摘等があったからであり、また道馬連の方々の援助も忘れる事ができないと思う。この紙面を借りて厚く御礼申し上げる次第でございます。

なお、最後に国体に関しての感想を上げようと思う。

一番感じた事は、障害の経路にしろ、障害自体にしろ、馴致をした島根県は完全に有利な立場にいるという事であった。それに、成年障害で優勝した島根のピルグリム号にはバラージュの準備運動迄、杉谷さんが騎乗していた。これではただ、機械的に試合に臨み、勝つ事だけが目標で手段を選ばないといった感じで、選手宣誓の言葉の中にあるスポーツマンシップに則って正々堂々と戦う事を誓いますと言った事に完全に反しているように思われてならなかった。他にも現在の国体に出場してくる馬は、外国産馬ばかりであるという

点もあまり好きでない。そういう馬達の中で国産馬だけで堂々三位入賞を果たしたという点は素晴らしい事であると思う。昭和六十四年度には、北海道で国体が開催されるが、その時には自力で（杉谷さん等は呼ばないで）しかも、内国産馬のみで戦って欲しいと思う。それで負けたら負けたで良いのではないかと思う。

おわり



全日本学生観戦記

名越正泰

十月三十日、秋晴れの下、全国より集いし百数十の人馬。開会式である。初めて来て見てびっくり、芝馬場にブラスバンド、そして選手入場、道内の大会では見られない華やかさだ。中央の馬は慣れているのか、落ちついて行進していく。

その中で我が北大の三頭はドンホッパーを先頭にハネまわり、特に初めての北将と北皇子は、横を向いたり後ろを向いたり、あげくは旗手の上本を追い抜くなど大暴れ、走る走る……

しかし広い芝馬場の中で自分達の馬が三頭暴れ回るのは何とたのもしいものではありませんか？　五頭で団体を組んで行進できたらもっとすばらしいだろう。さて競技の方は……

（二回走行）

☆昨年二位のドン君、簡単と思われた第一障害をまたごうとしたのか、オクサーの上に乗りあげてしまった。一瞬のどよめき、そして沈黙、しかしその後よく立ち直り、人馬共にきれいな走行、つかのまの不安を見事吹き飛ばしてくれた。見たか—3

☆二日目、順調な飛越で満点かと思ったとたん、十三番ダブルのAのバーが芝をたたいた。—4　国体の疲れが残っているのか、今一つ全力を出せなかったドン君と増田兄六位の成績。

☆続きまして初出場のギャラン君、北日のコンソレーションで勝ちギリギリの出場、予選は予選、問題は本番さと、アホな騎手を乗せてスタート、好調、十番まで無過失で通過、やった満点かもしれない。テレビに出れるかもしれないと油断したのがギャラン君に伝わってしまい、トラケーネンで膠着、オシマイ、残念ながら二日目に走行することは許されなかった。

（総合馬術）

☆調教審査ではドン君、将助とも特にすばらしい所が見られず、残念であった。特に将助は持病が出て石井兄を困らせた。

☆耐久でドン君はジャンプ台で止まるポカをやった他は良く頑張り何とか—20。将助の走行は、周囲の部員や見物客を恐怖のどん底に落とし入れた。踏みつぶされたと思った大オクサーでも石井兄のガッツで再騎乗。次の障害へと進む。通過して消える、なかなか見えて来ない。やがて汗とほこりにまみれた人馬が現われ、又消える。石井兄の頭の中には、もう何もないに違いない。しかし将助は動いているのだ。頑張れ!!審判に続行を頼んでの走行もついに、あと数個の障害を残して経路違反で終った。将助も石井兄も最後までよくやった。他の者も試合に出たら、あそこまで自分の持てる物をすべて出して徹底的にやらねばダメだぞ!!御苦労様、今年こそはきっと僕らでゴールさせます。

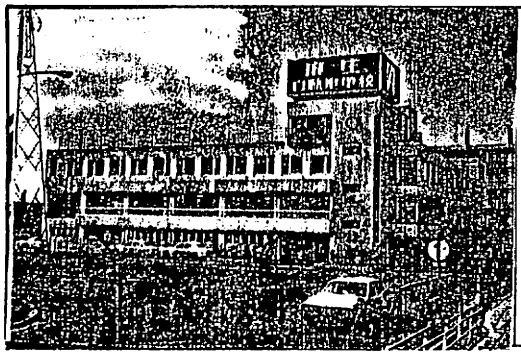
☆余力では余裕のドン君、満点でゴールしながらも、ジャンプ台がたたって結局十二位に終わる。

今年はドンの他に初めて将とギャランを連れて行き、ゴールはできなかったが、中央とのギャップを大きく感じたわけではない。それは甘いと言われそうだが、それで諦めたらどうなる。要は、人間の気力が足りないのだ。中央のやつらはプレッシャーと戦っているのだ。プレッシャーがないと勝てないなら自分でつくればいい。馬に対する考えが弱く甘いのだ。もちろんそれは自分の甘さでもあり、馬自身の甘えも生ずるであろう。

八三年は気持一新、強い気持ちと自信をもって馬達を連れてこよう団体を組んで。もちろん出るからには勝たねばならない。
又来るぞ!!

本日昼頃、大地震あり。震度四。その時、わしが名越に「元せんしめろ」と言ったら、なんと『水道の元せん』をしめ、得意顔で、「もうしめました」と言った。ワハハハ……。
＝3月21日当番日誌より＝

有限会社 東京稲毛屋
代表取締役 広 山 二 郎
東京都渋谷区神宮前 6－11－4
☎03－400－5929


習うなら近いのが一番!!
地下鉄麻生駅・北34条駅から歩いて5分!
技能試校免除の北海道公安委員会指定校
麻生自動車学校
北区北36西5 ☎721-5251

ALL JAPANの印象

平石哲生

僕はこの大会を見たのはこれが初めてで、大変勉強になりました。まだ馬に乗り出して二年の僕には、細かい技術などよく解かりませんでしたが、それでも障害前での推し方、飛越直後の馬のつめ方、また回転の度合い、次の障害の程度等を充分計算した上での誘導の仕方など、今まで北海道の試合しか見たことの無かった僕にとって、強い刺激となりました。障害飛越の基本に忠実に、しかもその時々での馬の状態やその他いろんな状況を素早く判断し、それに応じた的確な処置を成せるのだなと思いました。そういった所からスムーズで歯切れの良い走行が生まれるのだろうと思いました。生意気な事を書きましたが、正直言って今回の試合を見てそう感じました。もっとも、予選の段階などでは、人馬がちぐはぐで、その為減点を重ねている出場者もいた様ですけれど。

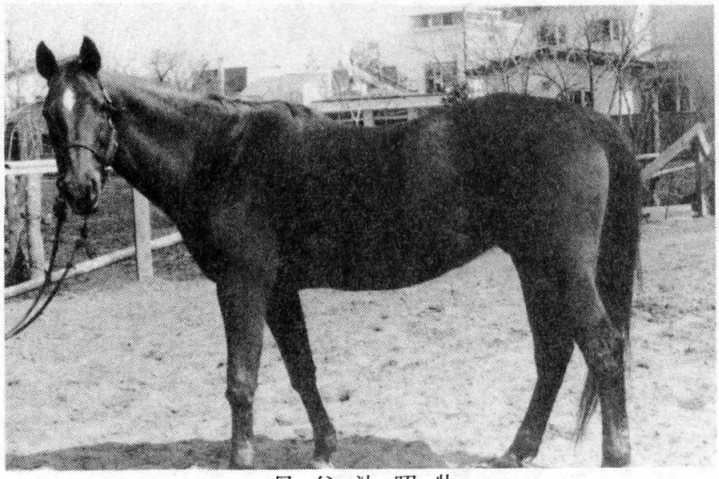
話変わって増田兄とドンホッパー号ですが、この大会では今一つ不振だったようです。ドンホッパー号は性格が素直で才能もかなりなものがあるし、増田兄もとても上手だと思います。まだ初心者の僕の目では、あまりよく解かりませんけれど。また増田兄の日頃の調教でもその内容はこの二年間兄が収められた優れた成績に直結するものが数々有ると思います。しかし、今大会での兄の成績の原因も、また兄の調教の中に有ると思います。岡田監督や小野さんが、ドンホッパーに乗ってみられて、「……が悪い。」と言われる事、もしそれをきちんと直すよう調教していれば、あの減点は無かったはず、走行全体がもっと良くなっていたはず、と思われます。今大会を見て、試合の結果が良くても悪くても、その原因は必ず普段の調教の中にあるのだから。「ああ良かったなあ。」「ああ悪かったなあ。」と言うだけで済まさないようにしなければいけない。というのが第二の感想でした。

けふ、ギャランがババで死んでいた。あたしが顔の前にすわりこむと、まえあしをワッとのばして……立つかと思ったら、顔を砂につけて、マジで死んだ……。次にグォー、グォーというスゲェいびきがきこえてきた……。うわあ……。だから、ギャランは大好きだ。

＝5月13日当番日誌より＝（筆者、高橋姉）

馬匹紹介　調教報告

スターライト号



牝　ア・ア　栗毛
昭和41年4月4日生
沙流郡門別町産
父　トモスベビー
母　銘乾

「ライト！」と呼べば、食べかけの草を口にはさんだまま、耳をピンと立て、澄んだ瞳でこっちを見る。「えっ、呼んだかしら…。」カメラを向ければ、往年の女優の如く一番美しいポーズをとってくれる。「これでいいかしら……。」そんな気品を持ち、また英知と美貌を兼ね備えた申し分のない馬。感情の表現も豊富、かつ明確。彼女の愛を受け、彼女のとりこになる部員続出。嫌いなら〝嫌い〟とはっきり示す彼女。彼女がご気嫌斜めの時、思わず自分が落ち込んじゃいます。

「ライト元気ですか」「スターライトっていますか」と北大馬術を訪ねて来るOBの方々、新人生は毎年後を断たない。

今年も無理はせず、〝私はライト、天下のライト〟の意気込みで頑張ってね。期待してます……。

スターライト号　調教報告

世良　健司

一年間、ライトに騎乗してみて今更ながら、自分はライトに何を教えることができたのであろうか、と考え込んでしまう。言うまでもなく、ライトの過去の実績からしても、今更あれこれ新しいことを教えていく必要はないと思った。ライトに大切なのは、何よりも騎手との精神的なつながりを戻すことだと思い、なるべく沈静した状態で人馬の関り合いを確かめつつ慎重に運動をした。全体を通して特に注意したのは、ゆったりとした大きな運動をさせる、ということで、痛めやすい右肩や左ヒザの骨瘤の肥大から、足先でばたつくような運動は負担を大きくするので、避けなければならなかった。次に心がけたのは、なるべく運動を短かく区切って、その中で出来るだけ充実した運動をすることだった。肺の調子が悪くせきがひどいので、長い運動を避けるように気を使った。また、彼女の性格か

らも飽きがこないようなさっぱりした運動を組み立てるよう心がけた。

騎乗当初は、井上兄がライトとの折り合いをつかむきっかけとなった沈静運動を繰り返した。初めは、落ち着いた常歩、速歩でヘビ乗りを中心に回転運動を多く入れ、語りかけるように口をさわり、顎をゆずらせるように努めた。徐々にコツが分かってきて、それに従い停止、発進、後退、旋回、横あし、キャバレッティー、低障害を入れていき、運動内容に幅をもたせていった。中でも停止の際、扶助の不正確さからねばられてしまい、運動を続けられなくなることが度々あった。しかし、外乗においては、人の扶助に敏感に応じるため、外乗で挙、減脚の感覚を学んでいった。横あしは、口にさわることと、それによって顎をゆずることのきっかけとなり有効だったが、口に与える苦痛がどうしても大きくなってしまうため途中でやめた。冬場の運動は以上のように、沈静運動においてやや受け身の態勢でライトの答え得る扶助を正確に与えられるよう努めた。

しかし、一月中旬になって、かねがね気になっていた左前肢の骨瘤を獣医で診察してもらったところ、骨膜はく離骨折であることがわかり、運動を一時中止した。その後、様子を見ながら一ケ月程、主に外乗で常歩運動を続けたが、意外にもこの運動で、軽い扶助での停止、発進、後退ができるようになった。

四月に入る頃から、輪乗りでの駆歩運動を徐々に入れ、低障害も数を徐々に増やして高さも上げていった。駆歩運動においては、人の騎座の不安定さから興奮させてしまい、なかなか落ち着いた運動ができなかった。低障害は、速歩で落ち着いて通過したため、数をこなして障害へのこだわりをなくしていくようにした。興奮して突っ走ったこともあったが、そういう時は再び沈静運動に進むようにした。

このような運動の中で、一番不安でもあり、問題でもあったのは、いかにして試合でのライトの動きの邪魔をせず正確な誘導ができるようになるかだった。これが現実の問題となったのは半沢杯、酪農戦だった。ライトの動きに圧倒されて、唯しがみついているだけで、ほとんど扶助らしい扶助は与えられなかった。それでも半沢杯では、ライトが自ら障害に向かって満点でゴールを切ってくれたし、酪農戦でも騎手の下手さからひどい誘導になり失権こそしたが、障害に対するこだわりは感じられなかった。

年間の大会の中で最も人馬の折り合いがついたのは、六月に行われた道自馬だった。結果は、第七障害で躊躇しながら飛越したため随伴がおくれてしまい、参惨な状態になり失権した。結果からみると決して満足してよいものではなかったが、この時ほど良い状態で試合に臨めたことは、残念ながらその後なかった。準備運動では、沈静運動で落ちつきを得ることができ、北大の馬場での練習と同様に運動を進めることができた。経路走行では、何よりも、脚に応じて走っている、ということと、障害に対してこだわりなく向かっていくことが実感として騎手に伝わった。この後、北日学、道体に出場して共に第二、第三障害で失権してしまった。

年間を通して考えてみると、自分がライトの実力を阻害してきた一つの流れをはっきりとつかむことができる。まず第一に騎手の技術の未熟さ、明らかにライトは、障害に対するこだわりをなくしかけており、騎手の技術次第で、いくらでも伸びることができたと思う。次に、道自馬以後、自分は徐々に技術面で以前の欠点を克服しつつあると思い込んでいたが、実はライトの動きを拘束してしまっていた。また、興奮状態と緊張状態のかね合いをつかめず、ライト

の動きに介入しすぎた。後半の北日、道体では、あまりにも障害に対する意識が強過ぎて、準備運動の時点でライトに悪い印象を与えていたのであろう、ということなどがあげられるだろう。

この一年間を思い返すと、ライトに対してもクラブに対しても頭の下がる思いです。何よりも先に、自分の心構えに欠点があったことは痛いほどわかっています。しかし、この一年間で得たことをこれからの一年間に投じてなお一層大きなものにしていきたいと思っています。

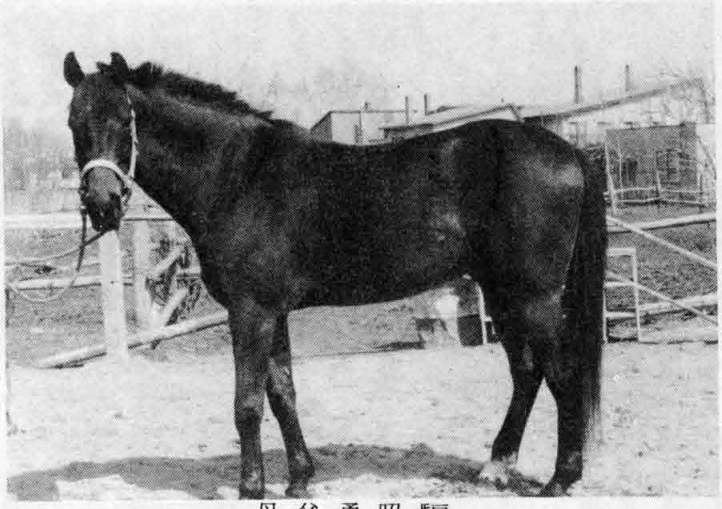
平石くん、小障で優勝！更に審判員賞（鞭）を庄内さんから頂いて、顔の筋肉総ゆるみでありました。

＝5月16日当番日誌より＝

「罪当」主将筆。皆さん、これを何と読みますか。笑いましょう、思いっきり。

＝5月30日当番日誌より＝（快鳥音筆）

ドンホッパー号



騸　中半血　黒鹿毛
昭和46年6月30日生
勇払郡早来町産
父　オーシャチ（サラ）
母　ハゴロモ（トロ）

白毛が生え、足は弱くなり、右肩を痛めている御老体のドン翁。しかし、今年も彼は、高須翁を乗せ、馬事公苑の芝馬場、角馬場、スティープル・コースで活躍してくれるでしょう。

ドンホッパー号　調教報告

増田　美希夫

去年から引き続いてドンホッパーの調教をする事になり、継続的な調教をする事ができた。

三年の時の全日本が終わった時点で、試合のシーズンが終わった事になり、それからは北海道の長い冬が待っていた。全日学、全日本と一か月近く、東京の馬事公苑にいたので、ドンは札幌に帰っても疲れが残っている様であった。

全日本が終わってから、約二週間を馬休にして、肉体的にも精神的にも休息を与えた。その頃の札幌は、もう既に雪が降り積もり、馬場も固く、運動は常歩位にとどめた。

年が明ける頃には、雪はだいぶ積もっていて、平常通りの運動をする事ができた。自分の考えでは、冬の間は、ドンの昨シーズンの疲れを取り、回復させ、馬の気持ちを穏やかにする事を第一の目標においていた。それ故、障害等は、ほとんど飛ばさず、調教審査の中にある一つ一つの課題をこなす様に努めた。他には、馴致を含めての外乗である。

ここで、いつもどのような所に注意して、運動をして、どのような運動の順序を作ったかを書いておく。

①当たり前の事であるが、まず騎乗したら、放棄手綱でどんどん歩かせる。ここで注意するべき事は、せかせかと歩かせては決して駄目であるということである。また、速度が速いという事だけでも駄目である。肝心なのは、歩幅をできるだけ大きくする事であり、また、その時に頭の位置は下がっている方が良い。歩幅が大きいという事は、前肢の蹄の跡より、どれだけ後肢の蹄の跡が前に着くか、という事である。大きく歩いているかどうかは、自分の座骨、脚から、感じられなければいけないと思う。大きく歩いていれば、馬体全体を使って歩いているので、すぐわかる。また、逆に小さく歩いていると、それ程体を動かしていないので、これもすぐわかる。

②放棄手綱で、ある程度馬体が暖まるまで、歩かせたら、（だいたいこの間、春から秋にかけては、十分から十五分位であろう。）手綱を軽くとる。手綱を軽くとる時に、馬のリズムが狂わない様、その時は弱千、脚を強めに使う。良く手綱をとる時に、馬のスピードが極端に落ちている人がいるが、それは非常に良くない事である。手綱をとって、最初のうちは、頭の位置は、下げ気味の方が良い。頭を下げさせながら、（頭を下げる限界は、水平位置）巻き乗り、半巻き、停止、発進をして、馬体を柔かくする。巻き乗り、半巻き等は、決して内方手綱で回してはならない。回転運動は、内方手綱は、挙を内側に開くだけで（合図の役目）内方脚の推進を、外方の手綱に移す事が非常に重要である。言葉で言うのは非常に簡単であるが、この事ができる様になったのは、四年の夏過ぎであった。

③頭を水平位に下げて、大きく歩かせたら、肩を内への運動をする。この運動は、内方脚と外方脚の違いを、馬に教える事に対して効果が大である。どんな馬も最初から肩を内へを正しく運動する事はできない。斜横歩を最初、覚えさせてから教える手もあるが、ドンに対しては、埒に対して約三十度から四十五度の角度で、埒にぶつけるつもりで推進する。すると、馬は埒があるので蹄跡に入ろうとする。蹄跡に入ろうとする瞬間、馬は、頸を曲げなければならない。しかし、ここで頸を曲げさせてしまっては、何もできないので、

曲げようとする反対の手綱を引っ張るのである。例えば、馬が左手前の蹄跡に入ろうとすれば、右手綱を引く訳である。こうする事によって、馬はどうしようもないので、止まろうとする。しかし、ここで騎手が推進すると、馬は、次の行動をとらざるを得ないのである。つまり、自分の肢を交差させて、横歩をする訳である。この時、馬の姿勢は、問題にしなくて良い。ただ、肢を交差すれば良しとして、ほめてやる。横歩で五、六歩歩いたら良しとして、また同じ事を繰り返す。左と右の両方を行う。毎日、馬が飽きない程度に運動する。これがだいたいできる様になったら、（普通、二、三日でできると思う。）この運動を次の点について、注意しながら行う。つまり、馬体が斜めに肢を交差させて、右手前で歩いている場合には、左脚（最終的には、これが内方脚になる。）を特に強めに、右脚を弱めに使う様にする。またこの時、右手綱を左手綱より強めに搏つ。最終的には、右手綱は十の強さ、左手綱は八の強さが理想である。これができるようになったら、肩を内へは、できたも同然である。どのようにするかと言えば、最初は隅角を利用するのが良いと思う。隅角で、正しく内方姿勢をとらせて、その内方姿勢をとらせたままの状態を、隅角をまわり終わってもとらせていると、右手前の場合だったら右前肢が一歩入った時点で、右脚（内方脚）を強く圧迫すると同時に、左手綱（外方手綱）を内方姿勢が崩れないところまで、強く引くと、馬は、肢を交差させながら歩く。これが肩を内へである。正しい肩を内へが本当にできたかどうかは、自分にとって疑問であったが、それはそれで、効果が十分にあった。最初に肩を内へを始める場合、なるべく角度を小さく、つまり、内方姿勢を弱くとらせて行う。いきなり角度を大きくとると、（例えば、三十度位に右へ肩を内へを行うと）左外方後肢は、弱い強制しか受けないので、強制から逃げようとする事は、ほとんどないが、右内方後肢は、馬体の重心下に進出しようとしなければならないので、屈曲による強い負重を受けなければならない。すると、右内方後肢は、内方即ち右方へ逃げようとして、重心下に踏み込まなくなってしまう。これは、正しい肩を内へではないので、このような事にならない様、角度を小さくとって始めるべきであると思う。

前々からドンは、体が柔かく扶助に対しても従順であったが、肩を内へを行う事によって、一層、馬体が柔かく、かつ、扶助にも従順になったと思う。

④常歩で肩を内へを左右五回位運動したら、速歩運動に入る。最初、速歩では、頭を下げさせ、（ドンの場合だったら、何もしないと、このような状態になってしまう）常歩と同様、大きく、馬体全体を使わせて歩かせる。馬場全体を蹄跡にこだわる事なしに、適当に左と右の回転を行いながら運動する。このときにどんどん推進して、その推進力を衡に受けさせる事を念頭において、運動をする事は、言うまでもない。だいたいの目安を言えば、中間速歩である。

中間速歩で運動し、馬に緊張感を感じ始めたら、伸長速歩と尋常速歩を行う。もう既に中間速歩において、手綱を少し前に出せば、その分馬が前に出る事ができる所までなっているので伸長速歩は楽に行う事ができる。伸長速歩を行う時には、手綱を少し前に出す、すなわち、自分の拳を前に出す様にすれば良い。もし、拳を前に出しても、馬が前に行かない様であったならば、その前の状態、中間速歩、尋常速歩での運動が悪いと思う。実際に、自分は蹄跡を利用した。短辺で尋常速歩、長辺で伸長速歩を行う。先の中間速歩は、軽速歩で、尋常、伸長速歩では、正反動をとるようにした。というのは、練習の最初の方で行う中間速歩は、馬をどんどん前に出す事

が第一の目標であるので、馬の軽快性を計る為に軽速歩を使った。また、尋常・伸長速歩で、正反動を多く利用したという事は、ドンの場合、どうしても頭の位置が低くなりがちだったので、馬の体を起こす意味で正反動をとった。

⑤④までは、外乗のみで終わらす日を除いて、ほとんど毎日行った。これから先は、障害をするか、または、馬場運動をするかで違う。障害は、シーズン中、週に一度か二度位、飛ぶ位である。ドンの場合、毎日障害を飛んでいると、かえって障害を馬鹿にして、調子が悪くなる様なところがあった。ドンであれば試合前に百三十センチメートル位の障害の経路を二度位回れば、馬の方は十分であったと思うが、人間（騎手）の方で馬とチグハグな動きをする可能性が考えられたので、週に一度位障害を飛んだ訳である。

④までの速歩の運動が終わって、障害をする場合には、だいたいキャバレッティから入っていった。最初は、バーとバーの間が一・七メートルで、地面に置いたままの状態で始める。二、三度リズム良く通過したら、バーを五十センチ位にして飛越。馬から障害に向かって飛越する様であったら、どんどん上げていく。調子の良い時は、百四十センチまで、キャバレッティで飛越することができた。日によって大分差があるが、調子の悪い時は、低障害の速歩飛越のみで終わらせる事もあるが、調子の良い時には、キャバレッティの次に高さ一メートル位の低障害を速歩で通過。馬が自分から障害に向かっていき、スムーズに速歩で通過できたら、速歩で障害を飛越した後に馬が駆歩になるのを速歩に落とさずに駆歩を続ける。駆歩のまま、一メートルから一メートル三十センチ位の障害を左右の回転を入れたり、パルクールを想定しての急旋回を入れて、スムーズに飛越する。月に一、二回は、単一を百四十センチメートル、オクサーを高さ百三十センチ、幅百六十センチメートル位にして飛越した。この様な大きな障害は、二、三度飛んで調子が良ければ、すぐやめた。そして、できるだけ迅速に鞍を取るようにした。エサをあげるより、何よりも鞍を取って、その時点で練習を終わりにする事が一番馬を緊張から開放させ、喜びで顔を綻ばせるのに、最も有効な手段であると確信していたからである。それにそのように練習を終えた次の日にも、前日の事を馬が非常に印象深く覚えていた。この事は、何も障害に関してだけではない。他の馬場運動でも全く同じであり、ドンにとって、ちょっと難しいけれど、なんとか扶助通りに動いたと思ったら、その時点でなるべく練習を切り上げ、曳き馬に行かせたりした。

④までの速歩運動が終わって、馬場運動をする場合には、輪乗りに入って種々の運動をこなした。ドンは、左の口を前に出し、全体的に顔だけを右に向ける癖があったので、左側の銜を少し強めに持つことで解決した。輪乗りにおいては、肩を内へで練習した内方脚の推進を外方手綱に出す事を、主に念頭に置いて練習した。もちろん正反動をとってであるが。そのうちにだんだんと、顎が堅いのが柔かくなって、馬体を少しずつ丸くする事ができるようになった。馬体が丸くなってくると、扶助に対しても非常に敏感になり、乗りやすくなった。しかし、逆に下級生を乗せると、馬上でやたら動いたりして不安定だったり、ドンが下級生を馬鹿にしてか、ダラダラとしか動かない事が多かった。輪乗りで十五分位運動したら、調教審査の各々のポイントについて練習した。重点的に練習したところは、運動の直進性、停止、つめ伸ばし、反対駆歩、である。運動の直進性というのは、例えば、中心線に入る場合に、フラフラとしないで真っ直ぐに入ってくるかという事である。騎手が常に前方に気

を配り、何かを目標に走るようにすれば、それ程難しくないと思う。停止は、四肢をきれいに揃えなければ、点数は二点位下がってしまうので、停止の時はいつも、四肢が揃っているかを確認するようにした。そのうち、下を見ないでも座骨から四肢の位置を感じる事ができる様になった。停止する直前まで、脚を使わないと四肢を揃えて停止する事は不可能であると思う。ドンの場合、右後肢をちょっと後に残す事が多かったので、停止の時に右脚を少し強めに使って、揃えるようにした。

だいたい以上のような事に注意して、普段の練習をこなした。しかし、馬にも調子の良い時と悪い時があるので、何か今日は、前に出ないと感じた時等は、軽い運動で済ませる事もあったし、逆に調子が良いと感じた時は、高い障害を飛んだ時もあった。当然の事ながら、基本となる運動は、あくまでも基本であり、そこから程度を上げるか、下げるかは、その日の人と馬との話し合いで決まると思う。

〈主な試合について〉

・北日本（帯畜）

試合は、帯広畜産大学で行われた。二回走行は、一走目に減点八、二走目減点四で合計マイナス十二で三位。一走目に減点した障害が水濠と最終の斜三段。水濠は、昨年と同じような飛越で、ずっと遠くから見ていて、踏切板の近くで弱々しく飛ぶ感じで着水した。二走目では、馴れたせいか、水濠では物見しなかった。総合の方は、調教審査でマイナス一三九であった。内容は非常に悪く、馬を落ち着かせて運動させる事ができなかった。種々の図形の描き方も甘かったと思う。耐久は、騎手のミスで一反抗をとられた。馬は、全く逃げる気はなく、普通に飛越したが、その普通の飛越が反抗となった。つまり、真直ぐ飛越すると、横に逸れるようになっていた訳である。自分と同じ様な失敗をした人が他にも七人位いた。下見の時は、あれだけ注意していたのにと思うと悔いが残った。余力は減点ゼロで結局六位に終わった。

・道体（帯畜）

成年障害は、単一ビラビラと水濠の二落下で三位。ビラビラまでの誘導が甘かった。障害間が直線的で比較的距離がある単一は、いくら注意しても足りない。水濠は、北日本の一走行目と同じ。総合では、調教審査でまずまずのできで、マイナス一二六で三位に入った。前には柏星とテレサがいた。耐久では、北日本で一度走行していたので、非常に楽に走行できた。走行中は、ドンは、非常に従順で、これこそ本当の総合馬だと思った。耐久では柏星が一拒否したので、テレサと余力で一騎打ちになった。運良くテレサが水濠で落下、ドンが満点で優勝がころがりこんだ。北日本、道体とずっと水濠で悩まされたのに、最後の最後でドンが完飛、テレサが着水とは、何と皮肉な事か。勝負は、本当に最後までわからないと思った。

・公認（岩見沢）

この頃から、ドンの馬体に異常が見られ始めた。どうも右肩が痛いらしく、速歩の時に跛行した。しかし、公認にでないと、東日本、全日本に行けないので、ハンティングは棄権して、中障に出場した。一走目は、またしても水濠で着水。しかし、他の馬もほぼ全頭水濠で着水した。減点四が四人いたので、バラージュになった。ドンは一落下で二位。跛行もそれほどひどくなかったので、選抜中障に出場した。なかなか障害は大きく、最終は、高さ百四十、幅百八十の大オクサーであったが、完飛できたので、優勝することができた。

・国体（島根県益田市）

国体については、国体報告に詳しく書いたので、簡略化する。道体の総合で優勝したので、総合馬術に出場した。岩見沢の試合が終わって、札幌競馬場で二週間の特訓をした。もちろん、ドンも連れて行った。主に調教審査の練習をした。札競の瀬川さんに教えて頂いた御陰で、本番では、二年間ドンに騎乗して調教審査をした中で、一番のできであった。調教審査では四十頭中十位に入る事ができた。耐久では、別々の所で三回止まられたが、ドンは本当に良く飛んでくれた。障害の高さは、百二十センチまでであるが、幅が二メートル以上あるものが五個もあった。余力は満点で、結局四位に入賞する事ができた。

・東日本（馬事公苑）

国体が終わり、そのまま島根県から入厩した。国体の出発が九月二十六日で、東日本大会は十月二十三、四日で、その間一か月、ドンは一日中、馬房に閉じこめられたままであった。そのせいか何となく元気がないように思えた。中障は覆馬場で行われたが、メチャメチャであった。続くパルクールでは、一落下で五位になり、全日本の権利を取る事ができた。

・全日学（馬事公苑）

東日本が終わり、十日後に二回走行が行われた。一走行目、第一障害の高さ百二十センチのオクサーで止まられる。完全に騎手の油断からのミスであったと思う。二番障害からは、序々に調子を上げて結局一反抗であった。二走行目、ドンは前に前に行こうとするが、そのまま馬なりに走らせたら、落下を招いてしまうので、一つ一つ障害の前でチェックして飛ばせる様にしたが、水濠を飛越した後、馬の伸び切った体を立て直せなくて、次のダブルのAの垂直障害で落下した。合計マイナス七で七位に終わった。

総合の調教審査では、それ程の出来ではなかったが、八十頭中二十五位。北日本の中では一番良かった。耐久では、スキージャンプで一拒否してゴール。D区間では、遠征期間中のトレーニングが少なかったのかどうか、体力の減少を感じた。また、ドンも一か月半近くの遠征で肉体的に疲れが出ていたし、精神的にも嫌気がさしている様であった。かわいそうな事に、ドンは馬運車の後のドアが開いていると、すぐに前肢をかけて乗ろうとしたのであった。余力は全然前に出なかったが、むりやり推進して満点。総合は十二位に終わった。

・全日本（馬事公苑）

全日本大会は十二月十一、十二日の両日において行われた。全日学が終わり、一か月間の期間があったが、約十日間は馬休にして、ドンの体の疲れを取るようにした。十二月八日に札幌を後にして、馬運車で馬事公苑に連れていった。馬事公苑に到着して、ドンを降ろした時のドンの顔は、ゆがんでいた様に思えた。

全日本は、予選に標準中障害とパルクールがあり、その減点合計の低い順に約二十人が選抜中障害と内国産馬に出場できる仕組みになっていた。出場人馬が八十頭いたので、約四分の一であった。標準中障害では調子良く、馬も元気であった。衝にも力強く出て、満点であったが、タイムは満点であった馬たちのちょうど真中であった。三十二頭の馬が標準中障害で満点を出したので、十六位になった。ドンはいつもの速度で回ったが、他の馬はあまりにも速かった。パルクールでもドンは良く障害を見て飛越したので、満点であった。結局パルクールでは十位入賞を果たし、標準中障害とパルクールの二種目の総合トータルで、八十頭中六位に入った。続く選抜中障害では、全日学の二回走行と全く同じ経路であった。一走行目は、ト

リブルのAを飛越した後の障害間で、馬を押さえ切れずにBのオクサーで落下。二走目は満点で、トータル減点四で五位に入賞した。馬術部生活四年間で最後の試合となった内国産馬では、得意の記憶喪失で芝カマオクサーを斜めに向けて、一反抗。着外に終わった。

北海道からは、ドンの他に柏星、柏栄、騄龍が出場した。板東の柏星は、絶好調で、選抜中障害で優勝する等、大変活躍した。柏星柏栄、ドンホッパーの三頭は、国体、東日本、全日本と一般の人々の中に入っても、良く健闘して、北海道の馬は、良く飛ぶと言われ、大阪の杉谷さんに、勿論冗談であったが、今度北海道に留学するかなあ等と言われた。

以上で試合に関する報告を終わります。

最後に、これからドンホッパーに乗る人は、次の事に注意して下さい。

(1)チーフになる者は、当然の事であると思いますが、ドンと一緒にいる時間をできるだけ長く作って下さい。いつも一緒にいると、不思議にドンの言いたい事が理解できると思います。朝の練習前、夕方手入れをする時、チラッと見るだけで、何か馬体に異変がある時はわかると思います。馬は言葉を話す事はできないけれど、体全体を使って人間に対して、自分の主張する事を表現しているのだと思います。それをすぐに理解できるチーフになって欲しいと思います。

(2)ドンは、障害馬として、また総合馬として非常に優れた才能を持っている馬ですが、他の馬では、まず驚かない物に対して驚いたりする事が多々あります。特に地面に対して敏感で、水たまりや土の柔かさ、色等は大変良く注意を向けます。だから、下見の時には、そのようなドンが驚きそうな場所はなるべく通らない様なコースをできるだけ考えて下さい。そして、驚いて立ち止まったりしそうな時はいつも、声をかける様にして下さい。そうすれば、ドンは安心して通過するでしょう。それには、馬は人を、人は馬を、お互いに信頼し合わなければなりませんが、それは日々の練習や曳き馬等で作るように心がけて下さい。

(3)長期間遠征に行く場合は、最後の方でドンは疲れが出やすいので、注意してやって下さい。特に馬事公苑では、周囲全てコンクリートなので、精神的に疲れる様でした。昨年は、昼間馬事公苑の厩馬場に内緒で放牧させて、一緒に走って遊んだりしました。

(4)また、障害をやる場合には常に前進気勢をもたせて飛越するようにすべきで、これは下級生を乗せる時でも注意しなければならないと思います。それから、飛越中には、自分の挙を前に出し、首を十分使わせるように日頃練習して下さい。そして、ダラダラと長い間障害を飛び続けないで、なるべく短時間で終えられる様に注意して練習時間の配分をして下さい。

以上で二年間ドンホッパーを調教してきて、感じた事、どういうふうにした場合に良かったか等、順不同で列記しましたが、これをもって調教報告に代えさせて頂きます。

二年間、ドンホッパーの乗馬としての適齢期に乗って、他の部員よりも多くの試合に出させてもらった事を非常に感謝します。また、いろいろなアドバイスをして下さった岡田監督を始め、半沢先生、小池部長、小野さん、その他多くのOB諸氏と現役の皆様に改めて御礼申し上げる次第です。四年間本当にどうもありがとうございました。

北楽院号

騸　サラ　鹿毛
昭和47年4月6日生
静内郡静内町産
父　ミンシオ
母　ジェラルディンツウ

ボク、人間皆大好きだよ。だってボクのことホントにかわいがってくれるんだもん。……もうじき〝キウ〟って、ポケットにエン麦たくさん入れて、ボクを呼びに来るよ。そういう時は心ず曳き馬に連れて行ってもらうんだ。ボク食べ物何でも好きだけど、曳き馬の時の青草って最高だね。おかげでボクの毛並つやつやさ。見に来てごらんよ。それに最近やせたっていう噂知ってる？もう〝ブタ〟なんて言わせないよ。ボクの夢？　そう、馬事公苑の馬場を駆け回ること。ボクの主人のU兄の夢と同じさ。だって真友なんだもん。……もうすぐだ、ホラ足音が聴こえてきた。

と、今日も幸せ一杯、三角地で草を食べてる彼でした。

〝キウ、行くぞ!!〟

北楽院号調教報告

斉藤牧人

①

一昨年十二月、井上さんからチーフを引継いだ。井上さんが乗っておられた秋頃からQ、北楽院の状態は変わり始め、良い方向に向いつつあった。それまでのQのイメージであった、馬体が伸びきってハミを受けていないという状態から、多少なりとも馬体を丸く「ふくよかな」運動を引き出していた。具体的な運動内容は、輪乗りで先ず常歩でハミを馬口によくなじませ（旋回、斜横歩を利用して）その後スムーズな駆歩発進を何度か行うことによっていた。この練習を毎日繰り返すことをQと騎手との約束事、運動の基本、いつどこでもこれだけは出来るという信頼関係、としていた。

僕も先ずこの運動を行うことを目標に練習した。内方の坐骨に乗り内方姿勢をとらせてスムーズな駆歩に出すこと。顎を譲らせ、ハミを受けさせること。なるべくゆったりとした歩度で体全体を使って運動させること。駆歩でなら少くとも他馬と比べても見劣りのしない運動が出来る、それが基本であり、足掛りにしようと思っていた。練習中そう信じて迷いは持っていなかった。

この頃に得たものを大事にしていけばあのような結果にはならな

かったと思う。どんなやり方にも長所や欠点があるが、少くとも客観的にみて大きな欠点はない事、自分で信じれる事を続けるしか途はないものだと今になって思う。

②

ハミを受けていればQは脚に対して決して鈍くはなかった。実際駆歩では発進、伸縮ともに軽い扶助で行えた。ただQの場合、馬本来の前進気勢に少し欠けるのではないか、そのためにもっと前に出した運動（特に速歩で）をしなければならないのではないか。それは当然要求すべきことだったのだが、僕の場合、強引にやりがちになった。ハミ受けをおろそかにして強引に出そうとする。ハミを受けていなければ脚反応が悪くなり重く感じ、それをまた強引に出すことになりがちだったと思う。

半沢杯、酪農戦のあたりまでは障碍に対しては不安は感じなかった。ただ、馬場での練習でもハミをはずした時にふとためらう感じを受ける時はあった。拒止された時もあった。ただその頃は「気を抜かずにしっかりとハミを受ければ大丈夫だ」くらいにしか考えていなかった。

外見上は障碍については好調だったと思うが、前シーズンの事を考えれば、もっと慎重になるべきだった。この時期の何回かの拒止がQに「過去」を思い出させる原因の一つとなったと思う。その他、外乗で厩舎に帰りたがる事、馴致先での落ちつきのなさなどの問題があった。

毎日の練習に波がありすぎた。いつもあれやこれやと考えて継続出来なかった。千葉さんに乗っていただけた事、監督や井上さんの指導など、チャンスはいろいろあったのだが、それを生かせなかった。方法の違いこそあれ、上手な騎手が乗った時のQの動きには共通するものがある。当然なことだが、ハミを受け馬体が丸くなり大きな動きをする。僕はその方法、テクニックにのみとらわれていたようだ。

③

o 練習で、強引に（今考えるとそう言わざるを得ない）障碍の程度を上げ過ぎたこと。

o 毎日の運動量自体、Qにはかなりきつすぎたのではないか。

o 外乗、曳き馬で厩舎に帰りたがる。目新しい物に対する神経質さなど彼の性格に対する配慮、処置が一貫していなかったこと。

o 酪農戦の転倒の後、不安定な状態だったのをブランクに対するあせりからよく見極められなかったこと。

毎日の練習、特に障碍で、決して良い印象をQに与えてはいなかった。自分では「好調」のつもりでいた時でもQに苦痛を強いていたのかも知れない。表面上には現われていなくても徐々に騎手に対する不信感、障碍に対するわだかまりは高まり―それが分らなかった。前年の井上さんの苦労を頭では分っているつもりで。

七月上旬に経路回りをやった。思い上っていた。いつも飛んでいる障碍、自分の下手さを棚に上げ、Qなら突っ込めば飛ぶくらいに考えていた。回りで制止されたにもかかわらず同じ障碍で反抗懲戒を繰り返した後、強引に飛んだ。

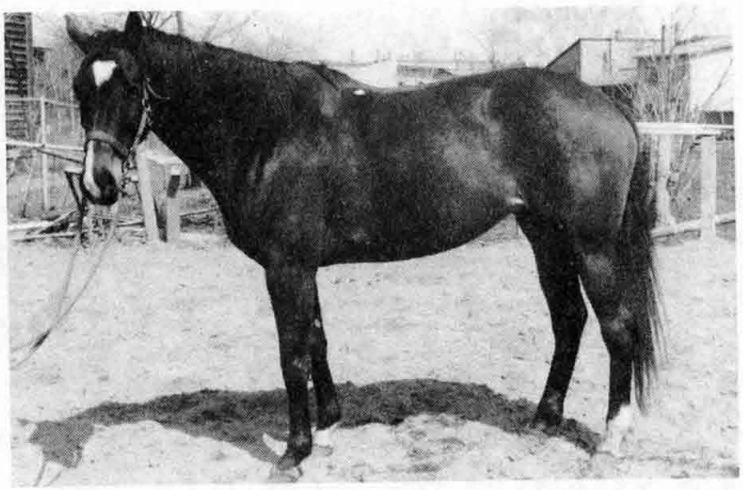
それ以降、Qが完全に変わってしまったように自分には思えた。Q以上に僕が萎縮してしまった。正直いってどうしたらいいのか分らなかった。北日、道体、公認は同じ事の繰り返しであった。入場をためらい障碍に対しては反抗というよりはおびえ、萎縮、それへの懲戒、Qは白目をむきひたすら逃げようとしていた。拒止と懲戒とを繰り返すことで、試合場、障碍を飛越するという事自体、また

騎手に対して恐怖心を植えつけていた。
僕自身気力が欠けていたことを認めざるを得ない。正直いって、失権のベルでむしろほっとした時すらあった。
自分にはどうしようもないと感じた試合シーズンの間にも立ち直るきっかけはあった。やらなかっただけではないかと思う。ハミを受ける状態をつくることをせず、やみくもにただ走り、ただ飛ばそうとしていた。
自分では最悪の状態と思い込んでいた頃、小野さんにお願いして乗っていただいた事があった。自分がいかにルーズな乗り方をしていたかを痛感させられた。「いい馬じゃないか！」と言って下さったのを覚えている。耳が痛った。あきらめていた自分が恥しかった。

……

以上、長々と失敗の記録だけを書いてしまいました。試行錯誤がそれだけに終わってしまった。何か一つの信念のようなものが僕には無かったと反省いたします。
一年間を失敗に終わらせただけでなく、調教を大きく後退させてしまいました。特に新チーフの上本君に対し大変申し訳なく思います。
この一年御指導をいただいた諸先輩、協力してくれた仲間に心から感謝いたします。それに応えることが出来なかった事が悔しくてなりません。特に井上さんには、あれ程御指導をいただけたのにそれを生かせなかった事を深くおわびいたします。
現在Qは特に故障もなく、体力も回復して来ているように思えます。北大に無くてはならぬ一頭としてカムバックしてくれる事を心から願っています。今後の活躍を祈って調教報告を終わらせていただきます。がんばって下さい。

北姫号



牝　サラ　鹿毛
昭和49年3月27日生
静内郡静内町産
父　アステック
母　ヤマニンザザ

彼女は、体力満点、第二のスターライトになるだけの実力と素質のある馬です。なんといっても彼女にはテーマソングもあるのですから。
ぼくのかわいいミヨちゃんは、色が黒くて小ちゃくて
前髪たらしたかわいい子、あの娘はおてんば牝馬です。
ちっとも美人じゃないけれど、なぜかぼくをひきつける
離れた瞳に出合うとき、キッスを求めるぼくなのさ

北姫号調教報告

町田雅人

二年の冬に、今姉より北姫の調教を引き継いでから、すでに一年半余りたった。しかし本当に北姫という馬を知り、調教できるな、と自分で思ったのは、三年の秋以降の事で、それまではただ、北姫に毎日またがって、その頃の知識に従って機械的に運動しているに過ぎず、馬の性格やその時その時の反応などを的確に把握してやることが全くできなかった。そのような状態であったので、三年の半沢杯、道自馬などは、興奮する馬に対して全くどうしてよいかわからず、走り回って経路を回ってくるだけであった。結局このシーズンは、鞍傷の為八月から二ケ月程馬休にしてしまい、その後の試合に出ることはできなかったが、今、考えると、九月から全く試合を意識せずに一からやり直すことができたのが、良い結果であったと思う。もしあの時、鞍傷にならずにそのまま試合に出続けていたならば、今年も去年の繰り返しに終ってしまったと思う。それくらいこの二ケ月の馬休は有意義であった。

そして、鞍傷の完治した九月中旬頃より乗り始め、現在に至っている。この間は、とにかく無理をせず、馬の気持ちを考え、できるだけ馬が快く運動することだけを心がけてきた。とにかく北姫という馬は、気が強い反面非常に臆病な馬であるので、このようなことを心がけて乗らないと全くうまくいかない。この点が北姫に乗るうえで最も重要な点だと思う。

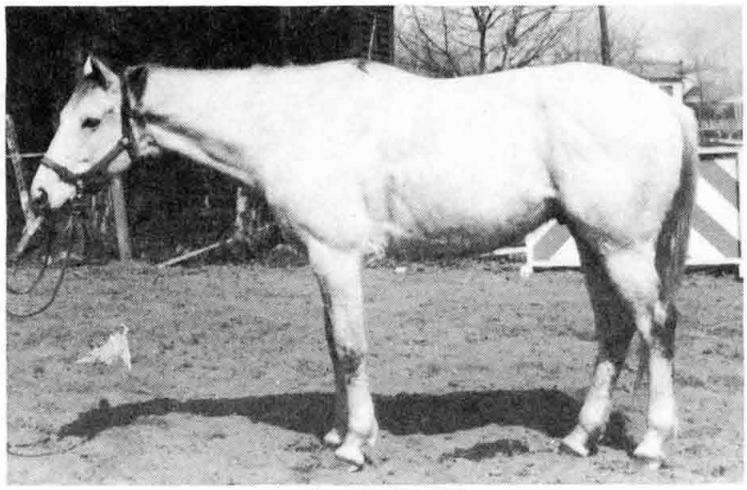
ここまで、全く具体的な運動について書かなかったが、求めているものは、障害馬として必要なものばかりであり、特別なものはない。つまり、柔かいハミ受けでの停止、発進、伸縮と障害飛越である。特にこの馬の最大の欠点であると思われる、障害に対して突進する癖は、障害をゆっくりと繰返し、繰返し馬が納得するように飛越することで、しだいに改善されてきた。この時絶対に馬に対して苦痛を与えてはならないのは当然の事である。特に着地の時に、軽い前傾を維持して馬の背に負担をかけないようにすることによって、飛越後に馬が突進するのをかなり改善でき、だいぶ乗りやすくなった。

以上、非常に簡単に北姫の調教報告を書いてきたが、何度も繰返すが、この馬に一番必要なのは、馬の気持ちを理解してやることであって、これさえきちんとできれば必ず馬との接点を見い出すことができると思う。

吉原弟の極道者が今日も元気にはったりを口走っていた。末恐しい男だ。

＝6月15日当番日誌より＝

北将号



騸　サラ　芦毛
昭和49年2月14日生
浦河郡浦河町産
父　フォルティー
母　マツノミドリ

二年間彼を見てきて、その変貌ぶりに全く驚いています。昔の彼しか知らないOBの方がご覧になったら、とても同じ馬とは思えないでしょう。図々しさに隠された繊細さ、従順さ。我儘さえも、何もかもが魅力的な馬です。馬が、人を信頼することを知るというのがどんなに素晴らしいことか、彼を見ていて、つくづく感じさせられました。

昨年、初の全日学出場は、彼にとって本当に苦しい経験だったようです。けれどそれを踏み台に、今年はドンと並ぶ、いや、ドン以上の活躍をしてくれると信じます。頑張れ、将！

北将号調教報告

石井洋行

昨年の失敗を二度と繰り返さぬよう、意気込んで臨んだ一年でしたが、思ったようには事は運ばず、なんとも波瀾に富んだ一年となりました。

昨年一年間、北将とつきあってみて痛感したことは、北大の馬場内ではとても落ちついていい運動をするのですが、外へでるとひっかけられ、どうにもならなくなってしまうことでした。この事は私にとって非常に恐怖でした。昨年の相次ぐ失権、失敗の根本的な原因もここにある。ここにあるとわかっていながらも恐怖感が先だちました。そこでこの一年の最初に行ったことは、とにかくどんな所でも、どんな時でも一定のペースを保って走らせることが出来る様になること、北将のスピードに慣れることという自分に対する技術の未熟さの矯正でした。冬休みには朝夕二鞍乗り、その上競馬場へも乗りに行き、朝五時から夜六時まで馬、馬の生活でした。雪のたくさん積った下のやわらかい日は勉めて郊外へ走りに出かけました。最初のうちはなかなか一定のペースで走らすことができず、勝手にどんどん走ってしまい、牛乳配達のおばさんを追い掛けてしまったこともありました。連日が喧嘩の様で、練習が終わって帰って来た私と北将は共に汗でびっしょりでした。しかし、三月ぐらいにはどうにか一定のペースで走れるようになり、多少の伸縮もできるよう

になってきました。この頃から、ひっかけられることに対する恐怖感が消えてきたと共に、馬に教えるという事、いわゆる調教の糸口を摑んだ様な気がし、おもしろさがわかってきました。調教のもっとも大切なことは人間の要求の単純化、命令の絶対化ということじゃないかと思います。

試合シーズンが近づく三月二十八日から七月までは、馬休をなくし、一週間毎日乗りました。この事は他の部員から、馬がかわいそうだと非難の声もありましたが、もはやこの頃の私は、焦燥感が募っており、試合までにやりたい事がやまほどあり、その言葉に耳をかす余裕はありませんでした。

四月に入ってからは実際に試合を意識した練習に入り、週に二回程度の経路回りをはじめました。これは実戦的な練習が不足している事、昨年の失権から立ち直るためには数多くのゴールをさせて思いっきり誉めてやる事が必要だと思ったからです。

こうして今シーズン最初の半沢杯を向かえ複合に出場しました。結果は八位、障害では八番ダブルのAで一逃避、つづく酪農戦でも複合に出場しましたが、ドラムオクサーに乗ってしまい、それ以後この障害を嫌い複合、小障ともに失権、結局、昨年と同じ失敗をしてしまいました。しかし馬の様子は以前に比べて他の場所へ行っても落ちついており、要は人間がなめられているだけなのではないかと思い、五月には毎日のように他の大学や、乗馬クラブへ、北将をトラックに乗せ、馴致にでかけ、いままでの落ちつかせてから運動するということから一転し、がっちりもっと押し、なんとしても飛ばせるという気持で乗りました。そして六月の五、六日に北星乗馬クラブで行われる道自馬に備え、馴致に出かけた時の事でした。私は複合にエントリーしていたのですが、今年の複合は調教審査とクロスカントリーで争われる事になり、野外障害の馴致に行きました。しかし、どうしても乾濠を飛ばせることができず、結局、次の日も出かけて行き、もはややけくそと、気が狂ったように無茶苦茶に鞭を入れ、どうにか飛ばせて、気がついてみると鞭は二つに折れ、北将は恐怖で震えているようでした。しかしこれがよかったのか、来たるべき試合においては、止まったり切ったりする様子はまったく見られず、果敢に障害にいどんで行きました。それに引き換え、未熟な騎手である私は、手綱にぶらさがり、鞍にしがみついたままで、とうとう最終障害飛越後、落馬、おまけに落馬地点に戻ることなくゴールを切ってしまったため、失権とお粗末な結果になってしまい、一生懸命走ってくれた北将にすまない気持でいっぱいでした。この後のB障でも一落と、やっと北将との折り合いがついてきた様な気がしました。

しかし北将に休みを与えず、むしろ自分勝手につっぱしっているのは私自身であった事に気づかされたのは、北日本大会の近づいた七月初めの頃でした。馬体にこずみがみられる様になり、そのうち乗れなくなる程破行しだし、試合までの三週間はほとんど練習らしい練習もしないで、北日本大会を迎えてしまいました。結果は二回走行では、今まで飛んだ事のない様な大きな障害ばかりで、第一走目は四番で失権、第二走目も七番のトリプルBで失権。しかし馬は次第に飛ぶ気になっている様で、つづく総合においては調教審査は十九位とふるわなかったものの耐久では三反抗をとられながらも豪快な走りっぷりでゴールイン。つづく余力審査でも一反三落したもののゴールが出来、結局総合十位となり、全日学出場の権利がとれ、ほっとしました。この後すぐ行われた道体でも総合に出場しやはり十位。この時の耐久審査のタイムは二反抗されながらも一着。ゴー

ルを切ったあとも林の中につっ込み、木にぶつかって止まるといった豪快さでした。つづく公認大会の中障害では八位、北将にとっても、私にとっても中障害はじめてのゴールでした。しかし私と北将の最後の試合となった全日学では耐久審査において六番で落馬、脳震盪をおこし、体に思うように力が入らない上、馬も気が狂った様に走り廻り、とうとう十八番障害の手前で経路を間違え、旗門不通過で失権という醜態を晒してしまいました。

以上のように私は北将に対して、決して安定した好成績をあげてやる事はできませんでしたが、失権のくやしさを知り、ゴールした時の喜びを与えてくれた北将との二年間は、本当に充実した日々を送る事が出来ました。これも一重に私の未熟さを補い、我儘を寛大に見守って、毎日乗りに来て下さった半沢先生のおかげです。本当に半沢先生に感謝するとともに、北将の一層の活躍を祈ってペンを置きます。

キコンリュウ、獣医で去勢。切り取った○○は嶋田が料理する予定。山本さんに食べることは供養になるんだと言われ、しまだ、おおいにはりきる！

＝6月23日当番日誌より＝

北騅号

騸　軽半血　黒鹿毛
昭和51年2月23日生
北大馬術部産
父　ドンホッパー
母　羊蹄

飼料庫の戸を開けると何か真黒い巨大な物体が牛のような脂肪太りの尻をこちらに向けて、モゾモゾとヘイキューブを食べていた。「またやりやがった。」カチッー　牧土をかけられ、なごり惜しそうに、トボトボと、途中立ち止まっては反抗し、三角地奥へと再び連行されていった。

今日もガキ坊主は三角地奥から飼料庫の戸を見ながら脱走計画を練っている様子。そんな彼も養父、平石兄の下でスクスク育ってい

ます。いつの日か実父、ドンのように馬事公苑を駆けんが為に。

北雛号調教報告

平田　委久子

一昨年の失敗は、馬を前へ出せないという事に起因していた。このような基本的なことができないようでは、本来ならこの人馬の組み合わせは解消になるのかもしれない。が、このままの技術で他の馬に乗せてもらっても同じことだ、と考えもう一年乗せてもらうことになった。

まず、目標を「試合場で小障の経路を回ってこれる」として、具体的には次のような事を考えた。

緊張した運動とリラックスした運動を区別し、目的もなく（あってもできないままに）だらだらと運動を続けない。このために、毎日の運動で何をやるかをはっきり意識し、馬にも明確にそれを要求するようにした。運動を組み立てる時に、頭の中では「易より難へ」と唱えても、実際に馬にとって何が易で何が難なのか、もっと細かく、また冷静に判断する必要がある。

十二月から新たな気持ちで乗り始めたわけだが、脚に対し鈍く、試合場や見慣れぬ障碍、濠の前で膠着する状態だったので、まず絶対に後退させないようにした。最初のうちは後退の要求もしなかったし、停止した時等に後退を一歩でもしようとしたらすかさず拍車を入れた。鞍をおろすような時でも、最初はすぐ三、四歩後ろへ退がるのだが、これも前へ歩くようにさせた。そして十二月から二月までは、構内や外の道路で、直線を長くとって速歩・駆歩をし前進気勢を求めることに集中した。必ず肩を使って大きく動くまで推進した。馬場の外ではすぐ軽く動くようになり、人の方も、肩・背の動きについていくために今までよりしっかりと鐙に乗るようになり、バランスが良くなった。しかし、馬場内で前進気勢のある運動をするためには、私の脚力では必死で推進してやっとであった。それでも一月には徐々に楽に動かせるようになってきた。この十二月から二月にかけての期間は、脚を使う→前へ出る→愛撫する、を徹底して繰り返した。

この間、雪の状態が良い時には、五十㎝程度の障碍通過を一日に二十回くらいやったが、二月には徐々に上げていき、時には百㎝程のを飛んだ。連続障碍は飛越のリズムやタイミングをつかむのに有効だった。又高さ六十㎝程度で幅百～百六十㎝くらいの障碍は背を使って勢い良く飛ぶため、馬にも人にも良い身体訓練になった。週に一回～三回は、時間を測ってゆったりとした駆歩を行ない持久力訓練した。これは十五分くらいは楽にできるようになった。

三月から半沢杯にかけては徐々に大きい障碍を飛ぶようにしていった。週に二、三回、高さ百二十㎝幅百㎝程度に上げたものを飛んでいた。苦手なすかし、つい立ても、オクサーの間に入れたりしながら経過した。又、雪はなくなったが、恵廸裏や陸上競技場の回りの草地で速歩、駆歩をやった。外で運動すると、グッとハミを前下方に引き、生き生きとした動きをした。前へは出るようになったので、これから回転やスピードの増減をもっとスムーズにできるようにしなければならなかった。決められた経路を連続して飛越する時には騎手が堅くなる事も手伝って、障碍の五ｍくらい前で減速する事が多かったのだ。ゆったりとした回転で直線距離を充分とれる時にはこのようにつまる事はほとんどなかった。

半沢杯、酪農戦では、この障碍前での推進、短い区間での推進に関しては全く進歩しなかったが、膠着については、落ちついてゆっくりと脚を使ってやれば膠着しない、と自信がついた。最初に上げた推進の問題は、六月の道自馬まで解決できず、道自馬第一日目の小障では、何でもない色箱で三拒止失権。馬にとっては充分帰ってこれる経路だった。二日目、さらに十cmレベルの低い婦人障碍に出たが、この時はとにかく前に出すことを意識し、障碍にぶつけるような感じで思いきり脚を使った。OBの西川さんが飛越後すぐ体を越こして推進、誘導するようにと再三注意して下さり、昨日よりも馬の緊張を高めることができた。そして、何とかスピードに乗って満点で帰って来れた。小障程度の競技では、スピードレースにならないようにジャンプオフを行なう事があるが、この時もそうだった。小障での失敗をやり直すチャンスが与えられたわけだ。北騅号は、対与馬戦で二鞍、三鞍目になると必ず入場前に膠着していたので、その兆候に特に注意を払って入場。ところが、スタート直前に膠着しようとした。私の方も必死である。ガンガンガンと拍車を三発程ぶち込んだら、スッと前に出るようになり、あとは信じられない程楽に前に出、自分から障碍に向かっていった。この試合で初めて、推進ということがわかったように思う。そしてその後、練習でもスッとハミに出て軽く動くようになった。この経験で、長時間乗らなくても、緊張した運動をすることで、どんどん馬ができていくのだと痛感した。

ところがその後七月に入って、決定的な失敗を犯してしまった。練習中、連続障碍を飛んでいて少しハミ受けが弱く、不安を感じた瞬間に障碍前でガツンとハミを引っぱってしまったのだ。馬にしてみれば飛ぼうとした所を止められたわけだ。完全に混乱させてしまい、人との間にも、障碍に対しても馬は信頼感を失ってしまった。ハミに全く出てこなくなってしまった。今考えると、この時点で帯広遠征に行くことをあきらめるべきだったのだろうが、ここまでゆっくりながら昇り調子で来たという事に甘え、七、八月の北日学と道体に出てしまった。当然結果は惨たんたるものだった。準備運動でもハミをかんでこないし、障碍前で簡単に止まられてしまった。

信頼関係がどんなに大切なものか、ということを心底教えられたが時すでに遅く、次の代に引き継いでいく時期になっている。全く一からやり直しであり、しかも新馬とは違って成功するという保障の少ないやり直しを、下級生に負わせることになってしまった。私自身、自分なりに積み上げてきたものを自分で壊してしまったことに非常に悔いを残すことになってしまった。だからこの報告を調教報告というのは、いささか心苦しい。この中に何か参考になる事があるかどうかわからないが、せめて今乗っている人達は、私のような失敗を繰り返さないように、思いやりと勇気をもって乗って欲しい。

明日、あした、ああ、あした……雨よ降ってくれ。（生振乾草に当たった、悲劇のヒーロー筆）

＝7月8日当番日誌より＝

北皇子号

騸　サラ　栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父　アストラルグリーン
母　ハーバーガール

馬名ギャラン。愛称ギャラン。目はぱっちりかわいくて、いつも舌を出したり、口をモコモコ動している。とても愛らしく、素直な馬です。去年は全日学にも出場し、絶好調のギャラン君です。調教が早く進み、まだ七才の若さ。これから、体力も付けて、雄々しい馬になることでしょう。そして、北大を背負う馬になることでしょう。がんばれ、ギャラン。

北皇子号調教報告

名越正泰

(1)　ギャルに一年乗って多くの事を知った

自分は馬にいかに何もしていなかったか（岩見沢）
いかに人間の気持ちがギャルに伝わるか（全日学）
野望と自信がなければ失権すること（すべて）
練習以上のことは決して試合ででないこと（すべて）
方式にこだわるのはバカなこと（岩見沢で）
本当に馬を動かす事はむづかしいこと（いろいろな人に聞いて）
馬に乗れないのが一番こわいこと（ケガをさせて）
迷うのが一番バカなこと、まずやること（前半を振り返って）
調子をキープすることのむずかしさ（いつも）
前チーフ折橋姉に時々見てもらうのが非常に有効である事（試合前）
いかに自分が下手か（いつも）
……　etc

(2)　今後の目標

どんなに過酷な状態においても僕に従うギャルにしたい。
人馬共、日々の鍛練と信頼を怠らないこと。
スティープルの慎重な馴致。
テレビに出ること。

勝つこと。

(3) ギャルと歩んだこの一年

交代〜三月頃　ギャルをもらって、自分の下手さに今迄考えていた事をすべて忘れたような気がする。何をやろうとしても上手くいかず、西川兄に時々どつかれる。本当に練習が、嫌で嫌でしょうがなかった。特に速歩伸縮を主体にしたがうまくいかない。よくケガをした。ケガが一番おちこむ。〝ズームイン朝〟に二日練習して出演したのが救いか？

三月　少し駆歩が分かるような気がした。しかし相変らず西川兄、折橋姉にどなられる。

四月　クレインへ行って、考えがまとまったような気がするがうまくできない。同じ事を目差しているのに、こんなにも違うことか。駆歩の伸縮、特に輪乗りで。

五月三日　半沢杯（複合出場）

調教審査はボケていて、無難に終ったが、迫力に欠けた。障碍は何回も経路を回ったので自信はあったが、経路回りの二回目が一番良かった。コンパでOBにほめられ嬉しかったが、もっとやらな全日へ行けんぞ、と言われ、ショック。

常に試合を想定した練習を心掛ける。

十二日　ギャルの誕生日……七才

十六日　山下杯（複合出場）

初の遠征。調教審査で暴れ回る。しかし、ギャルは良く動いてくれて思った程悪くなかった。障碍はよく走って二落、失敗。平石が小障で一位、やられたね。

二十七日　北星へ馴致

スティープルを走る。大乾濠で数回切られたが、その後慎重に飛ばせて不思議な状態になる。どんなものでも飛べそうな気になった。むずかしそうなのを数回飛んで上げる。

六月五、六日　道自馬（複合出場）

今シーズン最悪。いやー　ギャランが走ってどうしようもなかった。ノエルと最下位を競う。スティープルは不安なし。B障、連続の間でつめそこねて一落。ビデオに〝バカ〟という折橋姉の声がしっかり入っていた。西川兄が来られ、一番緊張した試合。上本くん、小障二位。バラージュで勝負をかけ西川さんに怒られていたが、僕は「いい」と言った。西川さん他の反対で、中障Aをあきらめる。原田や新井が勝ち、くやしかった。悔いが残った。

（駆歩と速歩の良い状態が交互にやってくる。）

中旬頃　石狩浜へ遠乗。

波をこわがってなかなか入らず、又一度入ると出れなくなった。一度休んで又同じようにやろうとすると、今度は波が強くなったので入らなくなった。馴致の難しさを感得する。

七月二日　フロンティア馴致。（馬運車で行く）

海に一発で入る。さすがギャラン！　川の馴致。

四日　部内試合

嶋田が乗り、小障程度で満点。よく前に出て良かった。

十八日　経路回り。

初めて飛んだ一三〇cm、ついたて三段。二、三度きられながらも飛ぶ。踏み切りが遠いのが気になったが、元気の良い証拠。いけるぞ!!

北日の二週間前にフォークで怪我をし、数日乗れなかった。
確実な運動を心掛ける。

七月二十九、三十日　北日本　二回走行。
今年全日学へ行かねばもう絶対行けない、と思って頑張ったが、騎手の未熟さと油断がたたり、一走行目失権。にもかかわらず、粘って障碍を飛越した為審判にどやされる。が、辛うじて、出場権利を獲得。

八月一、二、三日　総合
スティープルで膠着。馬がわからなくなってしまう。一挙にどん底へ。何でこうなるのだギャラン、おしえてくれ。

七、八日　道体
落ち込みは続く。（岩見沢まで）B障で満点、三位にはなったがやはり何かが違うような気がして、スティープル棄権。後で皆に非難される。一番弱気だった。その後の馴致もメチャクチャ。中川、迷惑かけたな。弱気じゃ馴致もできない。

九月十八、十九日　公認大会
目覚めた記念すべき日。中障で膠着、失権。何もかもが弱気であった。試合前から小栗さんに姿勢の事を言われ、馬を動かす事を忘れていた。平山のポカには声も出なかった。

二十六日　ドンホッパー国体へ向け出発。
来年は行きたい。

十月　全日学向けて練習。何かを摑む。良く動く、伸縮よし。

十五日　役員交代コンパ。気分を新たに。

二十七日　全日学出発。やるゾー。

二十九日　NHKとの打ち合わせ。紙にでかいことを書く。

三十日　開会式。

跳び回る。選手退場のどさくさに紛れて、乾濠飛越。僕と新井が飛んだのに僕だけ怒られる。しかし結局トラケーネンで失権。

十一月　馬事公苑にて
ギャランの調子が良くない。元気がなく、ずっと飼い食いは半分以下だ。前日には軽い跛行が見られた。ギャラン頑張れ、食ってくれ。上本と二人で強気なことを言いまくる。

三日　二回走行
失権。人間が最後まで馬を動かせなかった事、油断した事に尽きる。開会式の時飛んだじゃないか。NHKの夢破れる。ギャラン、西川兄、折橋姉、上本、その他……すまん。

六、七、八日　総合観戦
将介の走行に感動。来年はやるぞ。
帰札して充分休養。

二十一日　OB戦
島村兄と平山騎乗。良く走って満点だったが、露骨に入場をいやがる。
伸縮最高。回転がずっと鋭くなる。

十二月　体力をつける練習を続けるが、少し右前肢を出すのが気になる。

十日　ALL JAPAN
ドンホッパー五位。しかし、柏星が一位なら来年は勝てるぞ。
冬合宿まで基本的な運動（特に伸縮）を続ける。

一九八三年

一月～九月　冬合宿

他の馬に乗り、又、他の人に乗ってもらい良い勉強になる。

やはり馬体が傾いているのが気になる。

一月二十二日　二十一歳の誕生日。雪中ラグビー、二回戦初出場。

二月五日　イルカコンサート

今年は雪が少なく、よく運動ができてラッキー。農場で体力をつける。

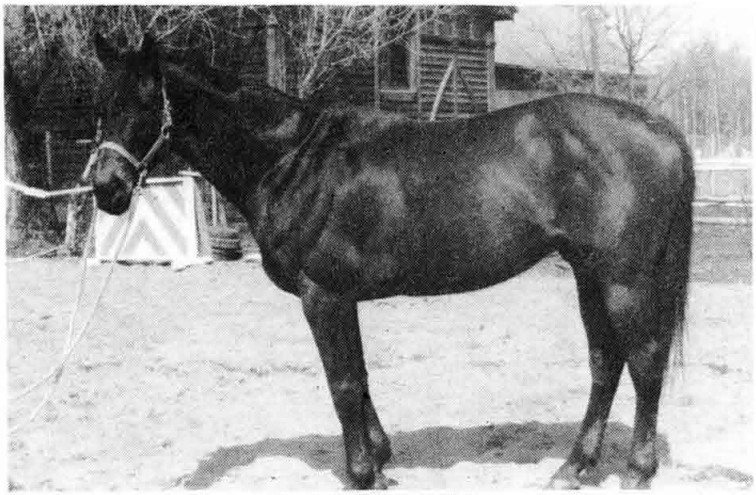
三月　小野さんのアドバイスで、体の傾きが一時おさまった。が、又出てくる。本当に痛いのかどうか分からない。おしえてくれ、ギャル！

……続く。

名越兄がほしがきならぬ、ほしにんじんをつくった。とてもおいしそー。

＝9月2日当番日誌より

北耀号



騸　サラ　鹿毛
昭和46年3月17日生
浦河郡浦河町産
父　ヘンリーヒギンス
母　タマホマレ

まっかな肢巻、まっかっかの毛布に身を包んだ彼は、黒い仮面に黒いマントの〝怪傑ゾロ〟程恰好好くはないが、さしずめ〝赤い男爵（レッドバロン）〟と言ったところ。「暗い、暗い」という世間の評判は、ロマンスグレイの世界に一人静かに浸っているがため。長いたてがみとスマートな肢体で、馬事公苑の観客を魅了する日ももう真近。

慣れていない人は、無愛想な馬だと思うかもしれないが、人間が尽せば、愛を注げば、十二分にそれに答えてくれる馬。とても、サ

ブチーフのやりがいのある馬です。

北耀号調教報告

野中道夫

二年目の春より小栗さんの指導の下でピーターに乗りはじめたのですが、調教はもちろんの事、小栗さんの期待にも答える事ができず二年が過ぎてしまいました。なによりもピーターの能力を十分にひきだしてやれなかった事、すまなく思います。昨年十一月より一人で騎乗しはじめました。本を読み、小栗さんの言葉を思いだしながら「易より難へ」あせらず、かつ自信をもって思いっきり乗ろうとしてきました。先日、大阪のクレイン乗馬クラブに再び、おじゃまし、岩坪さんをはじめとしたクレインの人達に、多くの事をならい、実際に指導してもらって、調教方針もさらに固まりましたし、馬もどんどん変化し、今年こそなんとかいけそうです。

岩坪さんが昔、自己紹介にこんな事を書いておられました。「他の事は殆んど忘れたし又今後も忘れていきたい。理想を追う者には永遠の前進のみが課せられているのだから。」というわけで現在の状況と今後の課題のみを記します。調教報告とはいえないかもしれませんが、過去の調教をふりかえっている余裕などないのです。前進あるのみ。

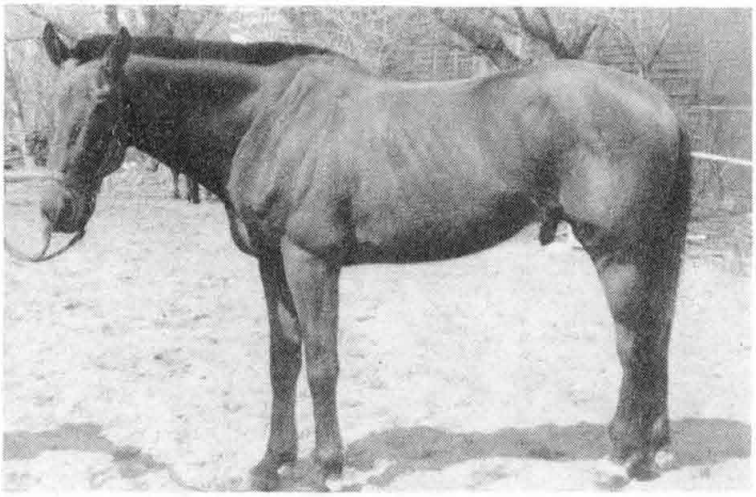
調教といっても、難しい事をやっているわけではありません。一番の問題点は、脚に対する反応の悪さです。脚に従順に反応して迅速に歩度を伸す事ができません。そのため、障碍前で歩度がつまった時など、騎手の脚はまったく徒労に終るわけで、要するに馬なりに飛越しているだけでした。去年一年間、その事をはっきりと認識できず、結局、そのための騎手の不安から馬をかなり追って走らせる事になり、馬なりのメリハリのない走行となってしまいました。人馬転、障碍前での減速などとの結果です。公認の中障碍での失権も、その馬なりの結果だと思います。障碍の馴致（様々な種類の低障碍の飛越と馬の口、背の尊重）と旺盛な飛越意志の養成と共に、脚に対する絶対の服従が必要だと思い、歩度の伸縮を課しています。馬が障碍に対して飛越意志を示した時は、騎手はできるかぎり受動的になる事。けれど馬が躊躇した瞬間には、間髪をいれずに推進できる騎手の感覚とバランス、その時の脚に対する馬の反応性の養成を目標にしています。

減脚と回転ですが、易より難へ、丹念に口を作っていくつもりです。それほど口は悪くないと思うので、あまり問題視はしていません。歩度の伸縮と共にどんどん回転運動を行い、技巧を向上させていこうと思っています。ただ左右の脚に対しても、反応しないので前肢旋回を行い、脚で押されたら後軀を移動する事を教えようとしています。右手前の駆歩で内に入ってくるのですが、その時、脚でそれをなおせるようにしたいと思っています。

とにかく脚と挙に対する従順さと障碍の馴致を徹底的にやりはじめました。気がつくのが遅かったようですが、馬は変りつつあると思います。信念を持って毎日、大切に乗っていくだけです。

現在、右前肢球節部の関節炎ですこしおさえ気味でやっていますが、早く落ちつかせ全日学団体の一頭として権利をとるつもりです。

北紫雲号



騸　サラ　鹿毛
昭和53年4月27日生
静内郡静内町産
父　ホープフリーオン
母　クィーンマリーナ

俺のつぶらな目は、かわいくて印象的かい？皆がそう言ってくれるぜ。しかしな、忘れちゃ困るぜ。このかわいい目で何人の者を泣かしたかをナ！飼付けの時なんか、俺の思うままよ。まぁ、俺に歯跡をつけられて泣かなかった者はいないぜ。何？それなら飼い付けの時には身を引きながら飼桶をかけてくれるって？ハッハッますます俺の思う壺よ。逃げる奴程かみやすい奴はいないぜ。何？それなら、飼をくれないって？そ、それだけはやめてくれ、頼む。○○を抜かれた今、俺には飼だけが唯一の楽しみなんだ。楽しさを体で表現すると、ああなっちまうのさ。許してくんなよ。

烈々風号

騸　サラ　栃栗毛
昭和52年4月26日生
静内郡静内町産
父　ダンシングキャップ
母　ルーキー

「ルー」と呼ぶと、のこのことやって来て、首をのばし、耳元でゴニョゴニョゴニョとします。えさをくれるまで、これを続けるかわいいやつです。

烈々風号騎乗報告

佐藤仁美

昨年にひき続き岡田監督に、騎乗調教をお願いし、昨年秋より私も一緒に騎乗し始め、今に至っています。入厩して一年半、前進気勢がないと言われ続け、口もかなりうるさいところがあって、思うように調教が進まず、監督も大変御苦労なさっていたことは、昨年の部報に監督がお書きになったとうりです。

この馬に教えなければならないことは、（どの馬でも同じでしょうが）脚への絶対服従だと思います。とにかく騎手が行けといったら、いくら恐いものがあっても、絶対に行かなければならない。又、恐いと感じさせない為には充分な物件馴致が必要ですが。あとはハミを自分からひろわせる様にすること。

外でもあまり興奮せず、又、外で走ると体を使って良い動きをするので外での運動を多く取り入れ、充分に体全体を動かさせるようにしています。又、この前進気勢を利用して、ハミをひろわせる様にしています。外で良い運動ができる様になったら、そのままの感じで馬場にもってきて同じ様にできる様にと思っているのですが、実際の所、馬場ではやや重たいという感じがあります。

障害に関しては、外で何かをまたがせたり低い物を飛ばせたりということはやっていますが、馬場内での障害については特に、ほとんどやっていません。そろそろシーズンも目前にひかえているし、やらねばならない、又、やって当然のことですが、とにかく今の状態では、まず馬を出せなければ、何もできない状態で、出すことばかりをやっています。時間はかかるかもしれないけれど一歩一歩確実に進歩することを目指しているつもりです。

学生の皆さん、販売、修理を割引致して居りますからどうぞ。

高橋時計店

札幌市北区北十八条西四丁目南向
北十八条地下鉄駅前
TEL 七四二―七八四六

新馬紹介

輝魂龍号

若さのせいか、父サンシーの血が騒ぐのか、走る事跳ねる事が大好きなやんちゃ坊主。そのくせ足さばきは極めて無器用ときている。どうやら、頭はあんまり……はっきりと、良くない。おかげでこれまた無器用な某姉は、惨々苦労している。

さて、この輝魂龍、競走名もキコンリュウ。柄松廐舎より鼻出血ということで、特級酒二(9)本とひきかえに、北大馬術部に譲り渡された。六月十七日、競馬場からノコノコ歩いてやってきた時は、随分大人しい馬だと思われた。その後一ケ月も乗らないうちに、上級生は帯広遠征に。事件が起こったのは七月二十七日。二年目U兄が騎乗し、馬装点検をしている時、一年目T兄が部室の窓から落っこち、驚いた輝魂龍は横っ跳び。落馬したU兄がしぶとく鐙革にブラ下がっているのをひきずって馬場を走り回る。悪い事には、馬装点検中で、腹帯がゆるく、可哀想なキコンリュウは一八〇度回転した鞍を腹にブラ下げ（きっと目を向いて）走り回り、前肢の腱にアブミが当たり、無数の傷をつくる。U兄も顔に見事なヤクザ傷。

第二の事件は十月の末。H姉が重い身体をよっこらしょとキ甲に乗せたとたん、他馬が目前の障碍を飛ぶのに驚いて走り出す。これまたしぶといH姉はしっかり鞍にしがみついてなかなか落ちない。ついにはそのまま水濠を飛越。いよいよもって興奮は高まり、姉もついに落馬。ひづめに当たって頭部に馬蹄形の傷をつくる。しかし馬体は無事。よかった、よかった。

第三の事件が起こらないよう、部員全員が、注意深く思いやりをもって馬とつき合うよう心掛けるのみである。

勇勝号

昭和五十七年七月二十三日、北日学出発前日という慌しいさなか小林廐舎より、入廐しました。

競走名ダイカツパール。喘鳴症（のど鳴り）という欠陥のゆえ、一度もレースに出れず、一年の休養後、北大へ乗馬としてやってきたわけです。

本当にこども、こどもしたかわいい、ちょっといじっぱりのところのあるやんちゃボウズです。血筋は天下一品、将来きっと北大を但う馬の一頭となってくれることでしょう。

ひょうきん馬のパールは何でも口にくわえ、味見をします。おいしくなかったり、しゃぶることに飽きたりすると、ポイと捨ててしまいます。彼は鼻ねじが大嫌いです。治療のときに暴れるので、そのたびに鼻ねじをやられているからです。さらに彼は、注射も嫌いです。注射のたびに野中兄を困らせて、すずしい顔をしています。彼は、ルーキーと気が合います。三角地手前で、いっしょに仲よく、乾草を食ったり、じゃれ合って楽しんでいます。彼は左前肢を骨折しました。そのため、ずーっと馬休でした。体に少したるみができてしまいました。でも、馬格はすばらしく、歩様もいいし、何よりも、名馬マルゼンスキーの血を引いています。彼が活躍するのは、

もう間近です。

ノエル号

まだ肌寒い三月二七日の事、お腹が異状に、いや見るも無残な程ふくれた馬が入廐してきた。この馬がOBの斉藤勝雄さんと伴に、帯広の原野からやってきたノエルなのです。

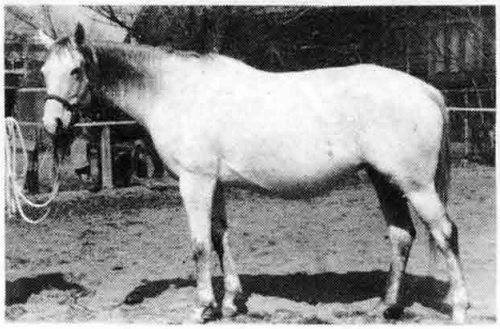
性格は、はっきり言って、牛そのもの。とても馬とは思えない、落着き、従順さをもっています。お腹の下をブラシかけやっても、表情ひとつ変えません。それほどおとなしい（にぶい？）為、たてがみとしっぽをカラスにほとんど抜き取られてしまった程です。

異状にふくれたお腹は中年太りではないのです。斉藤さんに合わせてお腹を出してたのではなく、妊娠中だったのです。最初の頃は、部員皆が気を使って、ノエルの馬房の前では静かにしていたり、ブラシもさっと終わらせたりしていたのですが、二週間も経つと慣れてきて無造作に扱う様になってきました。そんな頃、そうあれは忘れもしません。四月十四日の事です。朝当の平石兄が、まるで自分が子供を産んだような顔をして四年目の世良兄の所へ飛んできました。「ナ、なにか動いてます！」こうして仔馬は無事産まれました。予定より一ケ月も早い出産だったので、用意がまったくなく、外廐（広めの物）も部員総出で一日でつくり上げたくらいです。その仔馬も今では人の胸程の高さになり、元気にパドックを走り回っています。

ノエルも体力をとりもどし、日々の練習に励んでおります。これでまた、全日学へ行く馬が一頭増えてしまいました。困ったものです。東京へはトラック二台で行くのでしょうか。？

勇勝号

輝魂龍号



ノエル号

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

離　廐　報　告

北　美　号

肩の痛みに耐えながら、一生懸命走っていたメール。おとなしくて、気の優しい性格のため、三角地でいつもミヨコに飼いを取られていたメーリン。曳き馬に行くと、トボトボと後をついてきたメーちゃん。彼女は昭和五十八年三月二十三日、離廐しました、今は、すずらん乗馬クラブの前経営者の松崎さんのところで、のんびりと暮らしています。

「北美号」報告

飯野秀之

昭和五十八年三月二十二日、「北美号」は北大馬術部より離厩いたしました。五十三年に入厩以来、彼女を調教し愛情を注いで下さった、小栗さん、松岡さんをはじめとする多くの先輩方、並びに部員のみなさん、ありがとうございました。また、私のふがいなさから、一頭の馬を離厩させたことを大変申し訳なく思っています。

それでは、彼女の調教者としてここに報告します。

三年時の不成績をふりかえり、私の騎座の安定と彼女の調教を一からやり直すことにしました。

まず、騎座作りの方は、鐙上げ。三年のシーズンが終わったとき、自分の騎座の欠点を今迄の方法で直していけるかという疑問にぶつかりました。三好先輩のおっしゃるように、北大は馬を調教することだけに重点を置きすぎるとも思っていました。北大は人間が下手です。馬場姿勢も障害姿勢も、酪農や畜大の足元にもおよばず、俺たちは自然馬術をやっているという自己満足で終わるのがいやだったのです。自然馬術はすばらしいと思いますが、北大が行っているのは果たして自然馬術でしょうか。そして、障害しかやらないということはものすごく馬術そのものをつまらなくするように思えたのです。

前置きはそのくらいにして、十一月頃から鐙上げをはじめた理由です。まず、馬の口をいためる危険性があるので、馬上体操にとり入れました。そして、雪がつもったら外乗ででもとり入れました。はじめは、私の体が固くきつかったのですが、毎日二〇分程やるにつれ、楽になり、徐々に鞍上に安定してくるのがわかりました。馬に乗る基本は、「馬上で安定し、柔らかく馬についていける。」ことだと思います。その点、鐙上げは、最も有効な手段であり、馬場姿勢のみならず、障害姿勢の安定にも役立ちました。昨年から、部全体にもとり入れ、北大の騎座がどうかわっていくか楽しみです。

次は、馬の調教の問題です。最も重要なことは、やはりハミ受けではないでしょうか。北美は、顎をつっぱり、馬体が伸びるという欠点があります。いや欠点というよりも、私の調教ミスです。ただでさえ、後肢に力のない馬なのに、馬体が伸びていたら、障害も飛べないし、調教審査でも安定した点数は望めません。そこで、まず一から出直すつもりで、手綱を長めにもって、脚を使い、馬体をハミに追い出すことからやりなおします。ハミへ追い出す！　口で言うのは簡単ですが、これほど難しい事はありません。一歩一歩、確実に馬を推進させる脚、安定した騎手の騎座、馬の動きを受け止める柔らかい拳。この三点が備わっていなければなりません。私のとった方法は、直線上を常歩で大きく歩かせ、脚をオーバーに使い、大きくゆったり歩かせる方法です。後肢の踏み込みをお尻で感じるため、人間は馬場姿勢をとり、また確実に馬の口を感じるため、逆べんはやめました。冬期間は、常歩に多く時間をさき、「待つことも調教だ。」と自分に言い聞かせながら、くりかえし行いました。三ケ月程たって、手綱のはりが柔らかくなってきたのです。わかりますか、この感じ。手綱が棒ではなくて、柔軟性のあるゴムみたいな感じです。ハミをだいぶ引くなと、感じられるようになってから、

今度は顎を折ることをはじめました。まずとり入れたのは、肩を内へです。馬に負担をかけないように、常に二・三歩でやめましたが、蹄跡から、巻輪を行なったあとで、よく用いました。岡田監督に乗ってもらいやり方を教わってから、はじめたわけです。肩を内へは、やり方さえ誤まらなければ、顎をゆずらせるのには有効は手段です。千葉さんもおっしゃってますが、「馬術は肩を内へではじまり肩を内へで終わる」。みなさんも、おやりになるときは、監督や小野さんなどに相談し、乗ってもらってからはじめて下さい。自分だけでやると、どうしても拳だけで馬に強制しがちだからです。

次にとり入れたのでは、速歩での拳の捻転です。馬の外方前肢が前に出たとき、騎手は内方拳を捻転させ、内方前肢のときは外方拳を捻転させるわけです。フランス馬術において、その拳の捻転の仕方で、ド・ミ・アレとかビブラシオンとか言いますが、私の拳操作が悪かったために、全くこの方法はダメでした。しかし、千葉先輩が乗ったときの北美は、口で言えない程感動しました。そのときの北美は、しっかりハミをかみ、顎を折り、一歩一歩力強く歩き、これがあのメールか、とさえ思いました。そのときに感じたのは、拳があくまでも従で、脚が主だということです。馬術の基本どうりだと思うことです。わかりきったことですが、いざ乗ると人間はどうしてもわすれる。北大にも拳の捻転だけで、顎を折る馬が何頭か、いますし、人間もおもしろいからついやりがちですが、乗る前にもう一度考えて下さい。脚が使えての拳と。

三番目に使った方法は鞭の利用です。この方法は、小野さんが実際北美に乗ったとき用いたもので、馬の首のつけ根または中程を、鞭をにぎる方で、転く二・三度トントンと合図してやるのです。もちろん脚を使いながらですが。この方法はメールにとっては、有効でした。この方法で、速歩、駈歩ではかなり顎を折り、三年時よりも手綱をかなり短く持って運動することができました。

もう一つ、顎を折るのに有効なのは、輪乗りです。三年のときは、愕然と行なった記憶がありますが、輪乗りの原点に帰ろうと思ったわけです。輪乗りは、騎手の内方脚で馬を外に押し出し、外方拳で受けるのが基本です。外方拳に馬の口がかなり感じられたら、調教は進歩しているといえましょう。私は、輪乗りの開閉・伸縮をかなり用いました。また、騎手が拳で、馬の口をひっぱらなくなったため、回転もスムーズになりました。

次に、馴致の問題です。北美は、性格的に臆病で、ものをよく見ますし、これは競技場において大きなマイナスです。馴致は、他の馬よりも多くやることは必要不可欠ですが、時間も限られています。私の用いた馴致法は、脚を必要以上に使い、馬の体が固くなってきたと感じたら、すぐ馬に声をかけ、常に馬に人間を意識させる方法です。なるべく多くのところにも行くようにも心がけました。馬が前に行かないからといって拍車で強制したり、馬が興奮してるからといって、人間が興奮したりしてはいけません。三年時の私がそうでした。ごく自然に、ただ馬と話しながらいろいろなところへいく、この方法がベストだと思います。また、曳馬もできるだけ行ってやりました。北大では悪いとされていることですが、私がメールの前に立って先に歩いていくのです。メールともかなり親密になると彼女は私の姿が目に写るだけで安心するようになりました。そこで、単純な発想ですが、いやだと思えるところは、できるだけ私が前にいってなんでもないことを教えてやるのです。ときどきふりかえって、にっこり笑って話しかけたりもしました。今思い出しても最も楽しいひとときですし、曳馬の時間も他馬にも負けないようにと内

心競争しました。外乗、曳馬をくりかえしていくうちに興奮はしていましたが、立ち止まるということはなくなっていきました。ただ一つ、体重測定をする牛舎の前を除いて。

障害調教においては、次のようなことをしました。まず後肢の踏み込みを良くすることです。これは障害を飛ばす以前に必要な調教ではないでしょうか。後肢の踏み込みを良くする調教は、顎を折る即ち、ハミをかます調教と同じです。いたづらに障害を飛ばすことよりも、よっぽど重要なことです。

それが出来てくると、今度はいかにキャバレッティ・低障害・コンビネーションを飛ばすかということです。

キャバレッティ。このうまい使い方が障害調教を決めると思います。私が用いた方法は、回転からキャバレッティに向かうときに、馬にきちっと伸縮を要求することです。障害に向かったときに伸びる。私はキャバレッティを使ったわけです。輪乗りがうまく出来ると輪乗りをといてキャバレッティへ向かう。これをくりかえしました。はじめは、馬もよれかえって重くなり落ち込む日も続きましたが春になりかけのころ、というよりも馬がハミを意識したなというころに少しずつ変化もみられました。また、北美はろうそく飛びという欠点もあるので、キャバレッティからの少し高めの単一もよくやりました。私には、この方法が最も障害上でハミを感じることができました。そして、ハミをかんできたと思える日には、キャバレッティの間もかなりひろくなってきたものです。

余談ですが、キャバレッティ上の常歩から速歩への発進も馬には有効です。

低障害。冬の間は主に外乗でとりいれました。馬が左右に逃げないような雪道を選び、工事現場やゴミ捨て場から適当に障害になりそうなものを並べては休めてゆっくり飛ばし、愛撫してえさをやる。これをくりかえしました。また、雪が溶けて馬場で運動出来るようになると今度は、きちっとハミを受けて飛ばすように心がけました。きちっと飛ばすことは難しかった。満足がいくように飛ばせられたのは、年間を通じて一・二度だったと思います。低障害なら、勢いさえつければ誰でも飛ばせられるでしょうが、馬の状態、人間の状態を考えたら、まだまだ先は長いと思う毎日でした。ですから、障害はやはり不安だらけでした。

コンビネーション。障害の間隔及びその種類はいろいろな本でているので省きますが、最もよいのは馬の飛び方もうまくなるし、人間の随判にも最適だということです。私もよく使いました。私の場合、必ず単一とオクサーの組み合せでそれぞれ高さ・幅もかえ、馬体の伸縮性を求めたということです。馬が伸びきったりしたら、障害を落とすでしょうし、大きくなったら飛びきれません。コンビネーションは考えて使う程、障害調教には有効だと思います。しかしコンビネーションの最大の欠点は、騎手が気をつけないと、馬がいきおいだけで飛んでしまうことです。ですから障害間で必ず脚を意識させなければなりません。また、岡田監督もよくおっしゃいますが、コンビネーションを飛ばした後は、必ず少し高めの固定障害も飛ばす必要があるということです。試合は、むしろコンビネーションは少ないのです。コンビネーションの成果を必ず固定障害でためしてみるのが必要ではないでしょうか。

以上、障害を飛ばす調教は、馬体への影響も考えてなるべく短時間でやめ、その分基本運動を中心としました。基本運動が出来ていれば障害など別に毎日やる必要など全くない、というのが私の考えです。要は、いかに運動の山をつくるか。それを障害に結びつけるか

と思います。メールを調教していく上で、この山をいつつくるか、ということを常に頭にいれ、馬の状態を考えながら乗っていましたが、今考えてみるとそれが本当に出来たかは疑問の残るところです。

調教審査の練習は、馬場姿勢をとってきちっとした図形を書くことに重点を置きました。ある日、岡田監督が六メートル四方の正方形を書いて、この中で輪乗りをしろ、とおっしゃいました。実際、輪乗りをしてみると非常に難しい。きちっとした円がなかなか書けないのです。そこで今迄の乗り方を反省して、正確な図形を求める運動を私にもメールにもよりいっそう強制しました。また、なるべくバーで馬場埒を作ってもらい、実際の図形を皮膚で感じる努力もしました。また、調教審査の場合には、リズムを忘れてはいけません。例えば、伸縮、発進、回転が目で見てなめらかで、華麗でなければならないのです。一つ一つの運動をどのように連携させていくかにも注意しました。そして、メールが三年時のときと変わったのは反対駈歩とハーフパスでしょう。

反対駈歩。どうしても出来ずに、はっきりいって匙を投げていましたが、半沢杯の三日前に岡田監督にのっていただいたところ、はじめてやったのです。原因を考えたところ、私の方が無理やりやらそうとして、馬に強制しすぎていたことがわかったのです。リズムを大事にして、ゆっくりとなめらかに回転させればメールでもやるのです。試合場でも馬が落ちついていれば、左手前の反対駈歩はするようになりましたが、逆はダメでした。

ハーフパス。肩を内へを繰り返しした後で練習しました。最後迄、反対姿勢ぎみでしたが、道自馬で五点をもらったときは、ものすごくうれしかったです。

そして、調教において体力をつけるというのも重要なポイントです。メールは体力がありません。というより私が運動を強制しなかったからです。体力をつけさせるために冬の間は雪の中を走り、また下級生を乗せたときも体力をつけさせる運動をよくしました。ただむずかしいのはだらだらとした運動で、運動の山ができないようでは困るのでその点には注意しました。

以上が、主に冬期間に行なった調教です。調教は少しずつではありますが進歩していったと思います。それでは、これから試合を含めて書いていくことにします。

東北戦及び三大戦。下級生が乗りましたが、素直に障害を飛んでくれて良かったのですが、障害前でよれるというのは、けっこう見られ不安な気持ちにはなりました。

半沢杯。今でも信じられない失権。複合で最終障害三反抗。はっきりいって泣きました。目の前がもうまっ暗になりました。しかし、半沢杯で、今後ものすごく役立つことが二つありました。

まず一つ、膠着についてです。調教審査で、×点で停止してから前へいかなくなったのです。北大の馬場ということもあり、私は比較的落ちついたので、ふと自分の拳を見ると無意識のうちに固くなってひっぱっていたのです。あるいは準備運動からそうだったと思います。いっかい手綱を許し（はずすではない）しっかり脚を使ったら前へいき、後の演技はうまくいきました。確か七位くらいだったと思います。

もう一つ、準備運動についてです。準備馬場で障害を見るとやたらと自分から飛びたがる。このことは、あるいはいいことかもしれません。しかし、自分の脚から馬が離れていた、即ち私の脚を無視して馬がかってに飛んでいたということです。

この二つの経験は、次の酪農戦に役立ちました。

酪農戦。私の唯一満足（？）できた試合でした。試合前の練習は、ひたすら脚で馬を前に出すことをやってました。そして準備運動。馴致のつもりで、ゆっくり馬をハミに出し、回転・発進を重視して、障害を飛ぶときは自分の脚で本当に動いているのを確認しながら飛びました。障害は、二・三回飛べば充分です。後は手綱を許し、脚で前に出しながら馬を落ちつけるよう注意しました。そして試合。落下は多かったですが、止まるとか膠着するような感じは全くなく気持ちよく飛べました。一つ一つ障害を確認しながら。あの時の柔らかい北美のハミ受けは今でも私の拳にしみついています。

道自馬。あるいは出ない方がよかったのかもしれません。試合の五日前の練習で、本番と同じ中障害の経路を回っていたとき、踏み切りをあやまり障害につっこんでしまったのです。それでも無理に試合に出て失権。さらに悪いことには破行して北日まで乗れない状態になったのです。

北日前は、北姫との二頭乗りで馬術部時代最も苦しい時でした。北美はあいかわらず馬体が良くならず、北日前はずっと痛みどめの薬をハチミツでとかして無理やりのませ、注射もかなりうちました。そして北日。失権。北美とのコンタクトはなかった。スティープルの途中で馬も私も力つきました。

その後の岩見沢・旭川は下級生の経験を積ませる意味で出してやりました。少しは下級生も勉強になったと思います。

三月二十三日。北美は、試合・馬体・年齢を理由に北大を去っていったわけです。

私は、下級生のときから彼女が好きでした。あのきれいなたて髪。銀色に光る馬体。澄んだ目そして女性らしくおっとりとした性格。なにもかも好きでした。いつかはこの馬のチーフになりたいと思っていました。そしてチーフになった喜びは言葉ではいいあらわせません。私は、いつも彼女と一緒にいたいと思いましたし、もう実際恋人以上でした。また、馬術の楽しさ、苦しさをすべて彼女から教えてもらいました。馬術部を一生懸命すごせたのも彼女のおかげだと思っています。

最後に、メール、ありがとう。俺のわがままをきいてくれて、これからは第二の人生をゆっくり楽しく幸せに過ごしてくれよ。

嶋田姉がまたやってしまいました。かまで指をスッパリ。あー痛そう。がんばってください、おかあさん。

＝11月18日当番日誌より＝

平山が馬場の前で自転車と正面衝突して、水たまりに落ちた。平山弟談「頭をぶつけて、ボケてしまう……。」

＝11月20日当番日誌より

〝特集〟ドンホッパー試合出場十周年記念

増田　美希夫

☆　プロローグ　☆

今年の部報を企画する際に、ドンホッパーの特集をしようではないか、という案が出されたらしいが、すぐに他の部員から離脱するみたいで縁起が悪いのではないか、という事で中止したという事を聞いて、ドンホッパー特集というのは、おもしろそうだし、またドンが三才の時に試合に出場して昨年（昭和五十七年）で丁度十年目なので、これを逃す手はないと思い、私が書く事にした次第です。

構成として、今までドンホッパーを調教して、その報告は、毎年部報に掲載されているので、北大に来る前迄の事について、特別後援会員でおられる小野忠氏に原稿を書いて頂きました。私もドンホッパーを、二年間調教しましたが、その原稿の中には、私も知らない事がいくつかあって驚きました。例えば北大にドンホッパーと羊蹄との間に北騅という子ができた等という事は、誰でも御存知かと思いますがドンは北大に来る前にすでに道産子との間に一息をもうけていた等という事実は、あまり知られていないのではないかと思います。

前置きはこの位にして、小野忠氏に書いて頂いた原稿に移りたいと思います。

☆　ドンホッパーの生い立ち　☆

生まれた牧場は、かの有名なテンポイントと同郷で、早来の吉田牧場である。父はサラのオーシャチで、少々気の強い馬である。兄姉が同血でスノードン（クインビクトリア号）という馬がいて、他四頭のドンの兄弟達は全て日本中央競馬会へ普及馬として買上げられたらしい。ドンホッパーとその姉のスノードンが私の持馬になった。

ドンの生産目的は乳母であり、同年に生まれたサラブレッドの母として、親馬と生まれて早々離れなければならない運命にあった。姉馬と違って、生まれた時から母親の乳の味を知らず、母性愛に恵まれないで、人間の乳で育った。その為に少々いじける性格になってしまい、二才を迎えた。その頃から脱柵を覚えたので、長いロープで草地につながれて、運動不足気味の足の長い、何とも冴えない姿であったのを覚えている。夏から秋にかけて、山の牧場へ道産子と一緒に昼夜放牧をされたが、二才の夏頃には体は貧弱であったが精力は盛んで、翌年七月に道産子を母として、カス毛の牡馬が生まれた。子馬はドンの幼少の頃と同じ顔を持っていた。二才の秋に山から降ろしてドンを見に行ったが、やせ衰えて足だけ長く、背が短く、こんなのが果して乗馬として調教出来るかどうか不安に思った。しかし、血統的には姉馬（クインビクトリア）と同じであるし、また育成中に長いロープでつながれていた経験は、必ず障害馬として潔癖な馬になるであろうと信じていた。普通の馬、特に軽種は長いロープでつなぐとすぐに足に絡み、立ち上ろうとしたり、ソッパしたりして、ロープに対し非常に恐怖を覚えるものであるが、ドンは違った。このような過程を体験した乗馬は、私の知っている限りド

ンホッパーだけである。この様な貴重な体験が現在の障害に対する潔癖性を作り上げているのであると思う。

三才の春、確か第一回半沢杯の二、三日前に入厩した。馬運車より降ろした時、秋よりは少し肉が付いた様であったが、あまり良い見栄えはしなかった。三才の春駒は、軽種であれば一番姿が美しい時なのに、我が愛馬ドンは、なんと哀れであった事か。ただ小さな可愛いい目だけが特に印象に残った。二・三日して鞍付を行い、曳き馬を構内で毎日一時間したが、これがまた大変な作業であった。前に立つと後から乗ってくるし、横に立てば歩かなかった。しかたなく後から追う様に、ロングレーン方式で毎日一時間、十日間行った。いよいよ乗馬しようと騎乗してみたが、フラフラして歩けなかった。その頃のドンは体長約一メートル五十五センチ、体重三百五十キロであったし、その小さな馬に自分の体重七十五キロ、鞍十キロ、合計八十五キロを乗せたのだから無理もなかった。そのような状態であったので、乗馬の調教の基本である調馬索より始めた。

しかし入厩の時、気にしていた左前肢の蹄の真中の亀裂が大きくなり大変な事になった。蹄洗すると重心が左に傾いた時に亀裂の中から水が噴き出したのであった。早速、太田さんに見て頂いたら、蹄冠部の傷が下に下がって、蹄の下半分が空洞になっているという事であった。太田さんに特製の蹄鉄をつけてもらったが、四月より九月迄無理な運動ができなくて元気一杯であった。しかし、毎日調馬索運動を朝夕二回、キャバレッティ通過、障害通過を行ったので、八月中旬には高さ百五十、幅二百五十程度のオクサーを確実に飛越できるようになっていた。その間、一度も拒否はなく、ダブル障害までは調馬索で行える様になった。そして、片寄君に単一障害で、バーの高さを百六十センチメートルにして飛越させるので、是非写真に収めて欲しいと頼んだ。彼はそんな無理をして良いのかと尋ねたが、まだ一回も拒否、逃避がなかったので、挑戦した。果して、ドンは力一杯首を使って、見事な飛越をした。我ながら、ドンに飛びついて愛撫したが、こんな光景を見ていた片寄君はなんの言葉もなく、静かにシャッターを切って下さった。それから、私はその写真を会う人々に自慢気にいつも見せている内に、紛失してしまったのが残念でならない。

この年の秋の十日にドンホッパーは、岩見沢でデビューした。三才の秋であれば、普通の競争馬は素晴らしい体軀をしているものであるが、愛馬ドンは相変わらず寂しい姿であった。どこから見ても競争馬としてまだまだであったが、何かやってくれそうな予感があった。見るもの、聞くもの全て初めてであったので、キョロキョロして落ち着きがない。しかし、小障害のスタートを切ると、大変真面目に一生懸命飛んでくれた。乗っている間は、少々不安であったが、今でも癖になっている口をとがらせ、いかにも歯を食いしばっている様な姿を見て、とってもいじらしかった。結果として一落でゴールした。第二競技の開門通過は、名は忘れたが北大生と私の娘の厚子が出場した。私の娘の厚子は当時高一で初めての競技出場であったが、後で聞いてみると経路はほとんど知らなかったそうであるが、小障と北大生がゴールしていたので、ドンが自分で経路を知っていて帰ってきたらしい。この頃から、ドンは障害馬としての素質を持っていたらしい。また、第一回目のデビュー戦で優勝した事は、私にとって大変喜ばしい事であった。

翌年の五月、第二回半沢杯大会で初めて中障害に出場したが、ただ一頭満点で優勝する事ができた。その翌年も中障害で満点で優勝した。この二年連続の優勝は、ドンの実力の結果と自負している。

四才の秋、旭川大会において、ピュイッサンスに出場して、スターライトと二頭で最後まで競い合い、最終一メートル七十の三段で落下し、涙を飲んだ事は今もって語り草になっているが、四才の体力では限界であったのではないかと思う。当時のドンには過酷な要求であったにもかかわらず、良くも真面目に飛んでくれたかという事は、今でも記憶に新しく、私にとって本当に恵まれた一頭であった。（注、スターライトは添田兄、ドンは小野秀則さんが騎乗していた。）

その後も各大会において非常に良い成績を出して、矢田キャップの時に後年に引き取るという事で北大に入厩するという事になった。しかし、北大での途中の騎乗者が何故かドンの頭を「サカムチ」で打ちながら頭を下げさせていた時期があったが、これらの無知な仕打ちに対してもドンが素直に応じていた事は、今更ながら可愛く思う。しかし、ドンもそろそろ競技年令の限界に近くなってきたので、十年間の競技生活を一つの区切りとして、引退させて当クラブで老後をゆっくりと養生させたいと思っている。十年前より計画していた通り、自分の馬場を持つ事ができた事は、私なりに幸せであり、家族の協力と馬乗り仲間の好意によるものと大変感謝している次第である。今後も増々、馬と共に生きたいと毎日を仕事と馬に力一杯努力している。

☆　ドンホッパーの名前の由来について　☆

入厩した時の姿が昆虫のバッタの様に手足が長く、ドンがそれに良く似ていた事と、英語の飛び上がるの意のホップ（ＨＯＰ）からホッパーとなった。上のドンは、私の持馬であった姉馬のスノードンから取り入れた事と、馬術界のドンになって欲しいと、期待をこめて名付けた次第である。

☆　エピローグ　☆

ドンホッパーは、北大に来て桑田兄が総合で全日学に出場したのを初めとして、八年間連続で全日本学生馬術大会に出場しました。

私が知っている限り、現在では帯畜の柏栄の十年連続出場には到達しないものの、なかなかの記録ではないかと思います。全日本馬術大会も七年間連続出場の記録を更新中で、第三十一回大会では、高橋兄が選抜中障害で優勝する等、全国でもドンホッパーの名前を知らない人は、もぐりではないかと思う程有名になりました。国民体育大会も佐賀国体を始めとして、青森、長野、栃木、島根と計五回出場しました。また、中障害、パルクール、総合等の出場回数は、現在で百二十回余、小障害も数に入れると百五十回は、越せるものと考えられます。それだけの試合出場回数にもかかわらず、両後肢の球節一体と右肩が少し悪いのを除けば、まだまだこれからも頑張って、ドンホッパーと北大馬術部の名前を世間に広めてくれるでしょう。

最後にドンホッパーの全日学優勝と末長い活躍を祈ってペンを置かせて頂きます。

ドンホッパー

昭和53年度　全日本学生優秀乗馬章
昭和55年度　内国産馬優秀乗馬章
昭和56年度　全日本学生優秀乗馬章
昭和57年度　内国産馬優秀乗馬章
昭和57年度　全日本学生優秀乗馬章

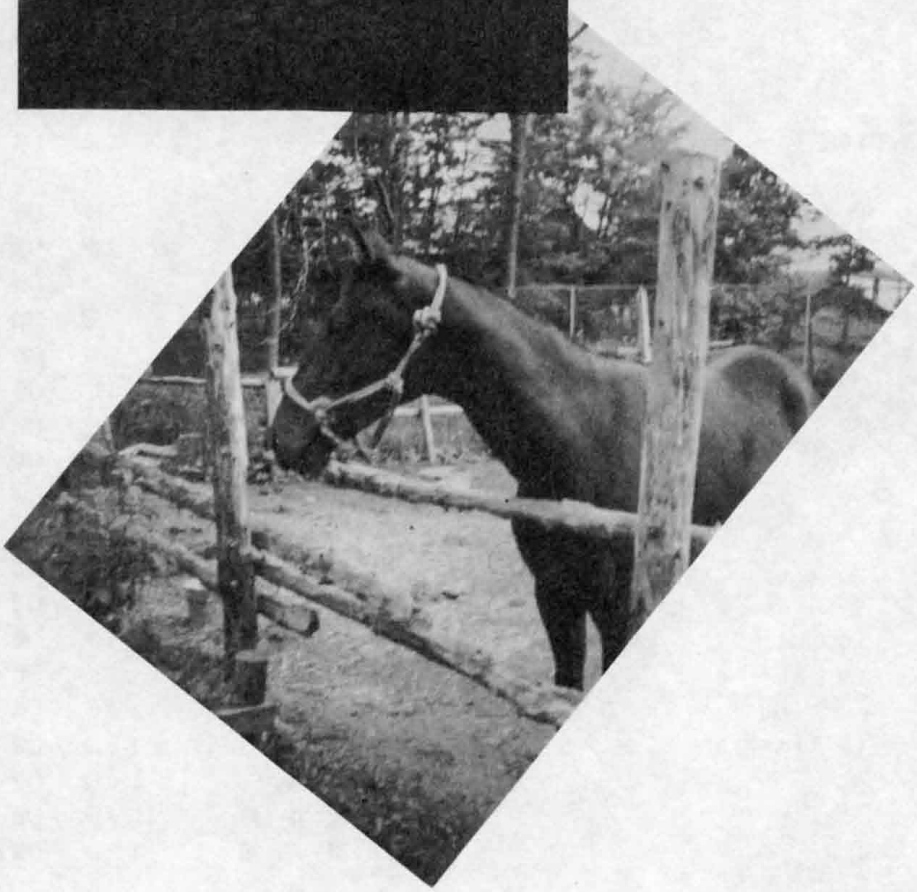
騸馬　中半血　鹿毛
昭和46年6月30日生
父　オーシャチ
母　ハゴロモ
北海道勇払郡早来町　吉田牧場産

現在までの主な戦績

年月日	大会	種目・順位		
S49．5．3	半沢杯	中障	1位	(小野)
		パルクール	1位	(小野)
		小障	1位	(小野)
6．22～23	道自馬	中障	8位	(小野)
8．24　25	道体	成年障害	4位	(小野)
		選抜障害	2位	(小野)
S50．5．4～22	半沢杯	中障	1位	(小野)
	道自馬	中障	2位	(添田)
		選抜中障	2位	(添田)
7．31～5	北日本	中障	失権	(若松)
		総合	3位	(添田)
8．16～18	道体	総合	5位	(添田)
		婦人	6位	(石川)
11．14～21	全日学	総合	15位	(桑田)
S51．7．10～11	道自馬	中障	7位	(桑田)
		パルクール	2位	(桑田)
		選抜中障	4位	(桑田)
7．28～1	北日本	総合	8位	(桑田)
		中障	8位	(桑田)
		中障B	4位	(岩田)
8．7～9	道体	総合	3位	(桑田)
		成年障害	4位	(桑田)
		大障B	2位	(桑田)
10．2～3	公認	総合	失権	(小野)
		パルクール	6位	(桑田)
		中障	1位	(桑田)
		大障B	2位	(桑田)
10．25～28	国体	成年障害	失権	(桑田)
	全日本	パルクール	8位	(桑田)
		中障	不明	(桑田)
11．	全日学	中障	10位	(桑田)
		総合	7位	(桑田)

S52.	6.18～9	道自馬	複合	9位	(半浦)
			中障	2位	(半浦)
			パルクール	2位	(半浦)
			選抜中障	6位	(半浦)
	8. 3～8	北日本	中障	4位	(半浦)
			総合	失権	(半浦)
	8.20～21	道体	総合	5位	(半浦)
			中障	1位	(半浦)
	9. 3～4	公認	中障	8位	(半浦)
			パルクール	2位	(半浦)
			大障B	1位	(半浦)
	10. 5	国体	成年障害	21位	(半浦)
	10.15～16	全日本	パルクール	3落	(山本)
			中障	3位	(山本)
	11.15～21	全日学	中障	20位	(半浦)
S53.	6.10～11	道自馬	中障	4落	(長畠)
			パルクール	6位	(中畠)
			選抜中障	3位	(中畠)
S53.	8. 3～9	北日本	中障	4位	(中畠)
			総合	6位	(中畠)
	8.19～20	道体	成年障害	1位	(中畠)
	9.30～1	公認	パルクール	7位	(中畠)
			中障	1位	(中畠)
			大障B	1位	(中畠)
	10.16～19	国体	成年障害	14位	(中畠)
	11. 3～5	全日本	中障	7位	(中畠)
			パルクール	9位	(中畠)
			コンソレーション	3位	(中畠)
		全日学	中障	5位	(中畠)
			総合	10位	(中畠)
S54.	6.12	道自馬	中障	2位	(高橋)
	8. 2～8	北日本	中障	15位	(高橋)
			総合	不明	(高橋)
	8.25～26	道体	総合	3位	(高橋)
			成年障害	3位	(高橋)
	9.15～16	公認	中障	不明	(高橋)
			パルクール	2位	(高橋)
			大障B	1位	(高橋)
	11.17～19	全日学	総合	14位	(高橋)
		全日本	中障	不明	(高橋)
			パルクール	不明	(高橋)
			内国産馬	不明	(高橋)

		選抜中障	1位	(高橋)
S55．6．7～9	道自馬	中障	2位	(高橋)
		パルクール	1位	(高橋)
8．5～11	北日本	中障	1位	(高橋)
		総合	2位	(高橋)
8．16～17	道体	総合	3位	(高橋)
		成年障害	2位	(高橋)
9．6～7	公認	パルクール	1位	(高橋)
		中障	1位	(高橋)
		大障B	2位	(高橋)
10．13～16	国体	成年障害	不明	(高橋)
10．19～27	全日学	中障	10位	(高橋)
		総合	17位	(高橋)
11．15～16	全日本	内国産馬	6位	(高橋)
		中障	5位	(高橋)
S56．5．23～24	道自馬	中障	5位	(増田)
		パルクール	4位	(増田)
		選抜中障	3位	(増田)
7．31～4	北日本	中障	4位	(増田)
8．22～23	道体	成年障害	3位	(増田)
		総合	失権	(増田)
10．3～4	公認	パルクール	5位	(増田)
		中障	1位	(増田)
		大障B	1位	(増田)
11．7～16	全日学	中障	2位	(増田)
11．21～23	全日本	中障	不明	(増田)
		パルクール	不明	(増田)
S57．6．5～6	道自馬	パルクール	1位	(増田)
		中障	3位	(増田)
7．28～2	北日本	中障	3位	(増田)
		総合	6位	(増田)
8．7～8	道体	成年障害	3位	(増田)
		総合	1位	(増田)
	公認	中障	2位	(増田)
		選抜中障	1位	(増田)
10．4～7	国体	総合	4位	(増田)
10．30～8	全日学	中障	7位	(増田)
		総合	12位	(増田)
12．12～13	全日本	中障	16位	(増田)
		パルクール	10位	(増田)
		選抜中障	5位	(増田)
		内国産馬	12位	(増田)



害虫・ネズミのいない住みよい生活と
木造家屋を食いあらすおそろしいシロアリ・
ナミダタケを防ぎ安心した生活を!!

北海道知事登録　第２号
日本しろあり対策協会所属
日本Ｐ・Ｃ・Ｏ協会所属

株式会社　アイピー

札幌市中央区南17条西16丁目
☎561-9350

◎害虫・害菌の予防と駆除のデパート

日本中央競馬会外部団体

競馬飼糧株式会社札幌支店

札幌市西区手稲前田一条十一丁目
☎682-0311

国内産牧草及燕麦販売・輸入牧草類及
輸入燕麦販売外競走馬に関する飼料全般

東京ＯＢ会便り

四月二十四日、桜が見事なまでに咲き誇る東京馬事公苑では、東京ＯＢ会主催の乗馬会・観桜会が開かれました。好天にも恵まれ、多くのＯＢ及びその家族の方々の参加があり、乗馬会の後の観桜会ではジンギス汗鍋を囲みながら、ＯＢ各氏は昔話にも花を咲かせ、盛会のうちに終わることができました。

さて、東京ＯＢ会では、昭和35年の発足以来、いろいろと活動をしてまいりましたが、今後、その活動を明確にし、資金、精神、技術の面からより効果的に現役部員を支援する為に、また、東京ＯＢ会の活動及び交流を促進する為に、昨年、会内に各世代からなる幹事会を設置しました。まだまだ問題点も多く、煮詰めていかなければなりませんが、これからも東京ＯＢ会員を初め、地方在住のＯＢの方々の御協力のもとに東京ＯＢ会を確立していきたいと思っております。

今までの決定事項

一、東京ＯＢ会（関東地区）は後援会費を独自に徴集。
二、会費の納入は総会出席時または振込。
三、必要経費を除いて後援会（札幌）へ送金する。その際、後援会費納入者名薄も送る。
四、後援会（札幌）へは東京ＯＢ会名薄を提出し、今後個人への連絡は東京ＯＢ会事務局が行なう。
五、東京ＯＢ会の幹事長に加藤元氏選出。

幹事団

幹事長	加藤　元	（昭31卒）
幹事	樋口　正昭	（昭34卒）
〃	千葉　幹夫	（昭34卒）
〃	森本　悌次	（昭35卒）
〃	（事務局長）五沢　一晴	（昭38卒）
〃	（副　〃　）宮崎　健	（昭38卒）
〃	大木　誠示	（昭40卒）
〃	吉田　賢一	（昭40卒）
〃	八木沢守正	（昭42卒）
〃	池田　統洋	（昭43卒）
〃	梶村　哲世	（昭47卒）
〃	（事務担当）高橋　均	（昭56卒）

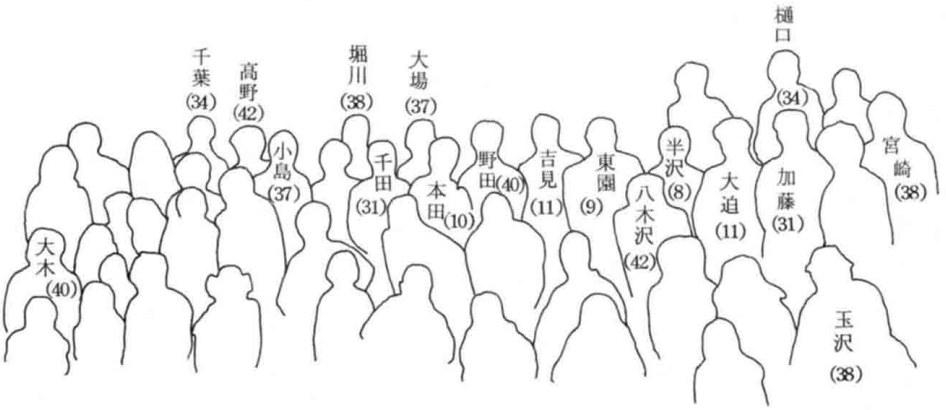
年中行事

・総会（新年会）　一月末～二月初
・乗馬会　四月末と九月中旬の二回
・現役との交歓会　現役部員上京時

なお、会費の徴集・運営、会則その他は、関東地区在住ＯＢのアンケート調査に基づき検討中です。

今後は、毎年発行されますこの部報をお借りして、「東京ＯＢ会便り」を趣向あふれるものにしていきたいと思っております。

東京ＯＢ会　会長　東園　基文
〃　幹事長　加藤　元


樋口
(34)
千葉
(34)
高野
(42)
堀川
(38)
大場
(37)
小島
(37)
千田
(31)
本田(10)
野田(40)
吉見
(11)
東園
(9)
半沢
(8)
八木沢
(42)
大迫
(11)
加藤
(31)
宮崎
(38)
大木
(40)
玉沢
(38)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ＯＢ対抗戦

現役とＯＢの交流

昨年十一月二十一日、北大の馬場において恒例となっているＯＢ対抗戦が盛大に行われました。雪のために馬場の調子が悪く、天気もあまりパッとしませんでしたが、たくさんのＯＢの方々に参加していただき、現役部員もそれぞれによい思い出として、心に残る楽しい会となりました。ＯＢの方々、本当にありがとうございました。

競技種目は、部班、障碍飛越競技、箱番レース、馬取り競走、パン食い競走、やぶさめ、が順番に行われました。

障碍飛越競技では、去年に続いてＯＢ勝利という結果でした。大差はなかったのですが、現役も馬をもらって初めての試合ということで、ＯＢの方々の長年の馬歴と技術が、現役の未熟な力に気迫で勝ったという感じでした。しかし、現役にとっての目標は、全日学です。その時までに、技も力もＯＢの方々を上回っていることでしょう。期待していてください。

メイン競技が終わり、いよいよ乗馬運動会に入ります。

まずは、箱番レース。久しぶりに全力で走ったという人もいて、次の日には、足が痛くなっていたのでは。そして、少しは、馬の苦労もわかったのではないでしょうか。

馬取り競争は、ここぞとばかり張り切る人が多く、笑いの中にも緊張感があふれ、先輩も後輩もない、現役もＯＢもない、男も女もないといった感じで、この行事に欠かせない競技の一つとなっています。飛び乗りは、この日のために練習するのでは、と思わせる白熱した競技となりました。

パン食い競争は、前の競技とは大分趣がちがうのですが、これもここぞとばかり張り切る人が多く、勝つよりも出場することに意味があるが如く、写真のような必死な姿、将に馬術部部員を象徴するすばらしい情景を見ることができました。

最後のやぶさめは、初めての試みなのですが、案の定的に当てた人は一人も出ずに終わってしまいました。弓や矢、的に問題があったのでしょうか。人気のあった競技だけに、来年はもっと工夫を擬らしたいと思います。また、他に加えて欲しい競技がありましたら、ＯＢの皆様、いつでも気軽に部員に言ってきてください。

お昼は、女子部員の手作りの豚汁を物見台の上で食べました。寒かったせいか、毛布をくるんで食べた豚汁が、妙においしく感じられました。午後にはソフトボール。今年こそと思っていたソフトボールの試合は、あっさり大差でＯＢの勝ち。まだまだ、ＯＢの方々には頭の上がらない現役部員です。

来年も、たくさんのＯＢの方々の参加を期待しております。

ＯＢからの手紙

昨年度いただいたＯＢの方々の手紙を紹介します。たくさんのお手紙をいただいたのですが、すべて載せることができないことをお詫びいたします。また、一部省略させていただいた箇所もありますが何とぞお許し下さい。

①前略〜

北日本及び道体の試合では、馬さん、馬匹の皆さん御苦労さまでした。馬匹の役目は大きく、あの長屋さんが全日本、全日学で優勝した時の馬匹は西川選手と国枝選手だったのだ。ワッハッハッハ。馬匹がいいかげんだと選手が馬のことをより考えるからじゃないんだよな国枝。あれはやっぱり馬、選手、馬匹が三者一体になって勝ち得たものだよな。少なくともオレの時はクランポンの意味さえわからなかったけど、パトカーにも乗ったけど、ライトと長屋さんに頑張って欲しいと思ったことは確かだ。全てがここから始まると思う、馬が好きだ。しんどいけど、馬が好きな奴はいいやつが多い。オレの心の中にはツバメはまだ生きているし、これからもずっと生き続けるだろう。クラブで作った（別に作ったわけじゃないが）友達も一生つきあうことになるだろう。一年生、二年生のみんな、君達は学年は下だけど同じクラブの一員であることには変わりないんだ。今日選手だったものが、明日君達の為に馬匹をやることもあるだろう。クラブとはそういうものだ。とにかく、与えられることだけをやるんじゃなくて、自分が選手のつもりで馬や選手の事を考えてほしい。

長くなりましたが、加えて選手の皆さん御苦労さまでした。特に、四年生の皆さん（僕が四年の時君達は一年だったんだよなぁ）お疲れさんでした。残り半年勉強とクラブに頑張って下さい。ー中略ー

半沢先生、岡田監督、馬の面倒をこれからもお願いします。そして、小栗さんいろいろとありがとうございました。

（アメリカより）

昭和57年8月26日　西川理一兄（55年卒部）

②残暑見舞

昔から、馬術部にはおかしな者が居て、馬だけにすればいいものを、鹿にも乗ってみたりする。くれぐれも学業を忘れぬ様に精選して頂きたい。

私は今、仕事らしいものも無く、毎日、歌って、飲んで、楽しく暮らしている。さしずめ、龍宮城の浦島太郎、この国お金ある人にとっては良いところ。しかし……青年海外協力隊より

（フイリッピンより）

矢田　明兄（53年卒部）

③拝啓

御地は初冬の候と思います。秋は馬術のシーズンで、部員各位の張切りようはよく判ります。去る七日の夕、東京馬事公苑で、増田前、高須現主将以下十四名と会い、親しく話し合ったが、各員元気で頼もしく、愉しい一宵でした。

本日、全日本馬術大会の日程の変更の件、通知下さって有り難う。できるだけ参歓させて貰いたく考えています。

十二月七日には、戦前卒ＯＢの東京在住者十余人が集まる予定な

ので、その時みんなで話合って、なるべく多く参歓するようしたいと考えています。

昭和57年11月12日　　武田朝男兄　（8年卒部）

④前略

先日、札幌へ行った際には、コンパなど開いていただき大変ありがとう。恐縮している次第であります。大学へ行っても寄る場所があるということは、札幌を離れた私としては大変うれしいことです。つくづく、馬術部を卒部して良かったと思います。

華やかな札幌から帰ってくると、やや寂しい気もしますが、家に帰ってきて、主人の帰りを待ちわびて、飛びついてくる、クロやピリカ、そしてエサをねだる疾風の顔を見るとホッと一安心し、又、元気がわいてきます。

仕事の他、獣医としての勉強や、部落の若いやつらとのつきあい、そして乗馬、スキーなど色々忙しい毎日を送り、ついつい写真を送るのが遅くなりました。斉藤（四年目）、国枝、嶋田に写真を渡して下さい。

阿寒も寒いですが、札幌の早朝の外も寒いので、気をひきしめて馬と呼吸を合わしがんばってください。楽しい？雪割合宿の春ももうすぐです。

トキも酷寒の中、元気に飛び跳ねています。

では、まずは御礼まで。　　草々

島村　努兄　（55年卒部）

⑤「全国乗馬クラブめぐり」

東京に転勤してもう五年目になり光陰如矢を実感しているところです。

さて、東京に出て来て、馬との縁が切れてしまうかと心配しましたがさにあらず。とにかく東京は乗馬クラブが多いところです。私が住んでいるのは東京というよりは埼玉県といった方が正確かもしれません。西武池袋線でいうと所沢駅の一つ手前で秋津という所。この私の住いからバイクで十五分圏内になんと三つも乗馬クラブがあるのです。所沢乗馬クラブ、新座乗馬クラブ、日本乗馬クラブ、そして更に足をのばせば飯能に、狭山に、川越にとよくまあという感じ。

私が鞍をおいているのは家庭的な雰囲気の漂う所沢乗馬クラブ、一ツ橋大学の馬術部と同居しているクラブです。

馬は全部で九頭、うち三頭が一ツ橋大学の馬で、もう二頭はそれぞれ個人の持ち馬。残る四頭がクラブの馬となっています。

今、私が乗っている馬はヒデチカラ、七才、なかなか利口で何でも教えるとすぐに覚えますが、障碍が下手で困っています。単一もダブルも横木はいいのですが煉瓦や箱類の向うが見えないものが嫌いで全く手におえない時があるのです。

さて、話は本題の方にもどりますが、私の仕事が全国至る所、即ち生活協同組合のある所どこにでも行くという仕事ですので出張先に乗馬クラブがあればどこでも顔を出して乗せてもらおうと昨年から出張の時は必ず馬装を持っていく事にしています。

今回は、鹿児島県と長野県飯田の乗馬クラブを紹介します。

鹿児島は県が所有している鹿児島県立乗馬センターと呼び、そこに鹿児島乗馬クラブが同居しています。馬は七頭程繋養しておりこの馬をクラブが借りて乗馬を楽しんでいる。ここの責任者は矢吹さんといって、専修大学のＯＢの方、在学時代はその名を知られた人

だとの事。私も一鞍楽しませてもらったが、馬場は深く砂が入っており、障碍もたくさんあって、何よりも羨ましい事は馬場が広い事だった。

このクラブは、飛行場に行く途中吉野という所にあり、馬を飼うには全くよい環境であり、私が行った日は抜けるような青空の鹿児島晴れとでもいうよい天気の日でした。

鹿児島にはこの外にまだ二つ程あるらしいが、又の機会にのぞいてみたいと思っています。もう一つ、これはもし行くチャンスがあったら是非おすすめしたいのが霧島乗馬クラブです。馬場もさることながら外乗がたまらない。特に有名な霧島つつじが咲く頃ならもう最高の気分で外乗が楽しめるというもの。

私は、幸運にもこの時期に乗った事があり、今でも忘れられない思い出です。

もう一つ紹介するのが長野県飯田の飯田トレッキングですが、ここは中央高速の飯田インターでおりると、真っすぐ山に向って登っていったところにある。そして、繋養されている馬はポニーが十頭で外乗専門といってもいいぐらいです。

私は昨年三月から十月迄飯田生協の指導に行ってましたが、このクラブにも三回程顔を出してみました。ポニーもまた一味変った楽しさがあります。そして、このクラブの馬も結構楽しいが、眼下に天竜川、飯田市街が一望でき、この景色が天下一品です。そしてクラブを囲むリンゴ園のリンゴの花が咲く頃はもう目で楽しみ、鼻で香りを楽しみ、体は馬を楽しみ、これ以上いうことはありません。

飯田にもう一つクラブがありまして、このクラブは元軍隊の経験のある人で馬は二頭ですが、キチンとした基礎から、馬場と障碍をやっています。私は主にこのクラブで練習をさせていただきました。

今回はこの二つの県を御紹介しましたが、今年も各地の乗馬クラブを訪問して来年の部報でまた紹介してみたいと思います。

最後になりましたが、今年は正月に北海道に帰れず、初乗りに参加できなかった事を残念に思っています。

部の本年の健斗を祈って筆を置きます。

昭和58年3月1日　　日本生協連指導部　　佐合義弘兄

⑥皆さん、お変わりありませんか。そろそろ新入生も入って賑やかになってきたころではないでしょうか。小生、この三月初旬より、中国吉林省長春市に出稼ぎに来ております。赴日留学生予備学校という所で、来年日本に留学する予定の学生相手に日本語を教えるのが仕事です。来年の二月まで、一年間の滞在を予定しています。

ここ長春は割と大きな都市で、車も数多く見かけます。しかし、なんといっても自転車が主力で、小生も今日168元で天津産の自転車を手に入れたのですが、大勢の自転車の群れに混じってペダルをこぐのは、中国人に一歩近づいたような気分になれてなんとも心地よいものです。また、路には馬車もよく行きかっています。馬車といっても、チャールズ皇太子の乗るようなものを想像する勿れ、リヤカーに毛のはえたような荷車、それに馬や驢馬も痩せ細っているものばかりです。馬車に揺られていく人の生活を知らない外国人の目から見ると、崩れかけたレンガ造りの家並の中を行く馬車は、カメラのシャッターを切りたくなるほど風情のあるものです。街のあちこちには右図のような〝獣力車通行禁止〟の標識も見かけます。

そろそろ、札幌も青葉の季節になっていることでしょう。人馬の健康と皆様の御健闘を祈りします。

昭和58年4月10日　　中畠孝幸兄

中国吉林省長春市東北師範大学招待所　（54年卒部）

○年賀状より

⑦迎春

寒い朝のクランポン締めつけを思い出しております。
人馬共、健康を祈ります。

水野豊香兄　（51年卒部）

⑧賀正

兄らにとって多難な年となりますが、
自己を見据え、一頭一頭着実に造っていって下さい。
悔いの残らぬよう全力投入を!!

松井　亮兄　（46年卒部）

⑨あけましておめでとうございます。

昨年夏、ポプラの綿毛の舞う中、五年ぶりに札幌を訪れました。
早朝、クラーク像前から馬場まで散歩しました。
校舎、病院など大半が昔と変わりましたが、馬場の附近は
小学生時代〝牛〟を追い回した頃の面影があり懐しく思いました。
今年も期待しております。

大場善明兄　（37年卒部）

⑩初春

皆さん元気ですか。
精一杯、練習して悔いない一年を送って下さい。
確固たる信念と熱い情熱で道は開けると思います。
中央にいても北大は決して間違った方法ではないと思っています。
群馬国体で会いましょう。

三好功悦兄　（54年卒部）

⑪謹賀新年

皆さん元気ですか。
昨年は札幌に行った時、
楽しいコンパを催していただきましてありがとう。
もう、クラブは来たるべくシーズンに向けて、
力を充塡していることと思います。
今年のさらなるクラブの活躍を祈っています。

北畑　裕兄　（56年卒部）

⑫謹賀新年

早々の御年賀どうもありがとう。
昨年はみなさん、ご苦労様でした。
初乗りも終り、新たな気持ちで厳寒の中、
練習に励んでいることと思います。
これからは自然との戦いでしょうが、春にはみんなで馬達と伴に
北大馬術部の真の春を迎えられるよう、
そして、冬の苦労を心地よく思い返せるようがんばって下さい。
こちらへ来る都合があれば是非立寄って下さい。

松岡　功兄　（56年卒部）

昨年は、たくさんの現役に対する励ましのお手紙ありがとうございました。今後ともよろしくご指導下さるようお願い申し上げます。
お手紙を心からお待ちしております。

卒部にあたって

飯野秀之

「光陰、矢のごとし。」とは言うけれども、四年間なんてあっ、という間に過ぎてしまった。

厳寒の練習のつらさ、胸がしめつけられるような試合前の緊張感、「やるぞ。」と燃えていた遠征前、たっぷり汗を流した作業、乾草のバイト、複雑な気持ちだったミーティング、曳馬のやすらぎ等々。それらは、まさに次から次へと流れていった。

下級生のときは、自分でもいい加減だったと思う。しかし、メールという馬を戴いたときから、クラブに対する考え方、取り組み方など、すべてにおいて真剣だった。苦しいこと、つらいことが多かったけれど、メールのことを思うと、そんな苦しさやつらさもふっとんでいった。自分自身、精一杯背伸びして、馬に食らいついていった。

今、晴れてOB名簿に名前を載せていただくわけだが、今の心境を書いてみたい。思い出を語るには早すぎるけれども。

充実?。確かに充実していた。これだけは自信を持っていえる。クラブに対して、メールに対して、馬術に対して燃えていた、と。

満足?。やはり満足感はない。目標を全日学出場に置いていたので出場出来なかったことはくやしい。人間の満足感なんて、目標をどれだけ自分のものに出来たか、達成出来たかによって決まってくるのだろう。

後悔?。「あのとき、ああすれば。」なんていう気はさらさらない。結果的には失敗に終わったけど、自分自身には正直だった。だいいち、後悔するような乗り方をしていたら馬が可愛想だ。「メールが乗れるのは、この俺だ。生かすも殺すも、この俺だ。」という気でやっていた。

とりとめもないことを書いてきたが、結局は、自分の一人相撲のまま、四年間終わったのだろうか。独善的な考えも、自己満足もないけれど、馬一頭つぶしてしまったのは否定できない事実だ。良い結果を残せないようでは、クラブに功献したことにはならないもんなあ。

今、卒部にあたって、後輩たちに一言。

失敗を恐れず、馬に対して、クラブに対して人事を尽くして欲しい。一生懸命取り組んで欲しい。

つらいことも苦しいことも多いけど、たった四年間である。それに愛する馬が居るではないか。

調教だけに重点を置かず、自分自身も省みて、可愛い愛馬と伴に、切磋琢磨につき進んでいって欲しい。

愛馬の限りない可能性を信じて!!

最後になりましたが、いつもお世話になりました半沢先生、岡田監督、小池部長を初めとするOBの方々、苦楽を伴にした同輩のみんな、可愛い後輩たち、四年間、どうもありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

これからは、一OBとして陰ながら馬術部の発展を祈っております。

石井洋行

今、思い返してみると、あっという間の四年間。それだけ密度も濃かったと思われます。馬との出会い、日高合宿、遠征、厳寒の練習、すべてが新鮮だった。そして二年の秋、北将との出会い。決して楽しいことばかりではなかった。失権の悔しさ、辛さ。授業中の居眠りにおいても馬の夢でうなされ、馬の夢しかみれなかった日々。最上級生、もはや後がなく、がむしゃらに乗りまくり、思ったことをやりまくった日々。すべてが懐かしく、昨日のようにも思われ、うそであった様にも思われます。

〃生きいそぎ〃という言葉があるそうです。今日一日自分は何をやったか。今週自分は何をやったか。今月、今年、この四年間、いや一生の間に何をやったか。人間の命は限りがあり、まして青春と呼べる時期のいかに短かいことか。だから今、できるだけの事をやっておこうという考え方です。急ぎすぎて失敗するかもしれません。しかし、同じ後悔をするにも、ああすればよかった、こうすればよかったという後悔よりも、ああしなければよかった、こうしなければよかったという後悔の方が何かやったという充実感が残るだけましと考えます。少なくとも今の私達にはその失敗を取り返すだけのエネルギーと時間はあると思います。後輩達よ、四年間はあっという間です。生きいそいでください。あわてる乞食は貰いが少ないと言いますが、あわてなかったら何も貰えないかも知れません。部員みんなの力で、生産的な内容の濃い喜びを享受できる様がんばって下さい。

最後になりましたが、いつも私を見守り、御指導下さった半沢先生、岡田監督を始めとするＯＢの方々に感謝すると共に、同輩、後輩の今後の活躍を祈って卒部の挨拶にかえさせていただきます。

斎藤牧人

卒部してからもうだいぶ経ってしまいました。（部報委員の方々、ごめんなさい。）今朝、練習を見学に行きました。北大は今頃が一番きれいな季節だと思いますが、その中で人も馬もほんとうに生き生きとして見え、とてもうらやましく思えてたまらなく、仲間はずれにされた子供みたいな気分でした。

僕も四年間馬術部員でした。決していいかげんな四年間だったとは思いたくない、けれども、本当に残念なことだけれども「やるだけやったんだ！」ということはできない。毎日のめり込んでいたつもりが、どこかあさっての方向に空回りした。そして大事な正念場では逃げた、ような気がするのです。取り返しのつかぬ誤ちも何度か犯した。何でもやると言われたら、僕はタイムマシンをもらいます。何て情けねえ男なんだとお思いでしょうが。

生まれて初めて乗った馬は北燕号（今は天国のつばめ君）でした。はじめて歩き出した時の気分は最高。新厩ではつぶれませんでした。でも二次会の塩野屋であばれたそうです。初めての投草ではパジャマを持って行きました。草刈りははっきり言って好きでした。「代わってくれ」と言われて嘘の口実で逃げたのは二回だけです。一年生の

時北里の北日本で、スティープルで北姫が一番時計で突っ込むように帰って来るのを見て「俺もやる。」干草バイトについては言うことなしです。現役の方がんばって下さい、あれが北海道です。真冬の外乗では「馬のあったかさ」が印象的でした。疾風。一年間トキのことだけで頭は一杯でした。恋人のいない僕は彼といちゃついていました。

北楽院。慚愧。どうしたらいいのかわからなかった。そこからはいあがろうとしなかった。自分で、自分が逃げようとしているのがわかっていた。それを最後まで変えることが出来なかった。今だに僕自身の心の中の問題として決着をつけ得ずにいる。

今元気に運動しているQをみて、とても嬉しく思います。上本がんばれ！それしか言えないけれど。

恵迪寮が無くなった今、北大の顔といったら誰が何てったって馬術部です。その末席を汚させていただいた私も誇りに思っております。全日学の団体優勝を祈ります！

平田　委々子

とうとう四年間が過ぎてしまった。この四年間の大半を馬術部の活動に費してきた。ずい分豊かな経験をすることができた。そして、喜び、苦しみ、悔しさ、緊張感等の感情やらその時々の情景やらは、鮮明な印象として心に残っている。

二年目の後半から三年目の前半にかけては、目標を定められぬまに馬に乗ってしまい、シーズン最後の日高ケンタッキーファームでの試合後、ようやく調教することの重みに気がついた。そして、「これまで北雛に乗って来たのはいったい何だったのか。これからどうしていくのか。」という事を考えた時期である。その頃の大切な思い出となっているほんの小さな出来事を一つ。

調教は全く上手にいっていなかったので、信頼関係は無いに等しいものだった。北雛は見知らぬ土地でなかなか落ち着かず、しょっ中跳ね回っていた。夕方、厩舎の裏で手入れをし、蹄油を取りに行こうとした時も、前かきをしたり、首を振ったりして乗りかかって来んばかりである。「暴れだしたら困るな。」と思い、立たずんでじっと見ていると、北雛は体をすり寄せて来たのだ。その様子、表情は、「ここに居て下さい。」とでも言っているようで、心の中にポッと灯がともったような感じがし、「大丈夫だよ。」と思わず言っていた。

こんな事は全く個人的な出来事で、書き残す程の事でもないかもしれない。とは思っても書いてしまう感情に流されやすい性格、これは四年たっても変わらないようだ。だが、四年前よりはもう少し力強く確かに自分の道を歩いていきたいと思っている。

みよこが助走なしで、らちを跳ぶ。

＝1月16日当番日誌より＝

増　田　美希夫

四年間は、あっという間に過ぎてしまった。思い出は、ものすごく多い。

一年目の時に入部した仲間は、十五人位いたけれど卒部の時には、たったの五人しかいなかった。一年目の時の事を考えると、真先に思い出すのがコンパである。一番最初のコンパは、半沢杯のコンパであった。その頃は酒の恐ろしさを全く知らなかったのである。日本酒を湯のみで三杯位飲んだ頃、目の前に熊が現われた様に見えた。その熊さんが、その時の主将の西川兄だとわかった時には遅かった。西川兄と一緒に飲んだ所迄は、覚えているのであるが、それから後の記憶は全くなかったのである。翌朝、自分の手と足が乾草のヒモで縛られているのを見た。その日は、半沢杯の後片づけで作業があった。私は、二日酔いで作業どころでなく、現在の仮廐の裏のパドックの前で何度も口に手を突っ込む様な苦しい思いをしたのである。その時、たまたまパドックに放牧されていたドンホッパーの不思議そうな顔は、一生忘れないであろう。

二年目の時には、クラブに対して、またその時、現役部員であった人達、及び岡田監督、小池部長、小野さん、それからキャプテンであられた井上さんに大変な御迷惑をおかけして本当に申し訳ありませんでした。あれは、九月三十日でした。一週間位前から乾草運びの運転を井上さんと二人で二台のトラックで北大と牧場を往復していました。最後の最後、この乾草を北大に届けたら一週間の作業が全て終ると思って岩見沢から帰る途中の事故でした。それからの半年間は非常に苦しかったのを覚えている。二年生の十月からは主務をする事になったが、世間知らずの自分にはコンパの司会が嫌で嫌でしかたなかった。十二月にはドンホッパーのチーフになったが全く何をすれば良いのかわからず落ち込んでいた。この二年目の冬頃が四年間の中で一番苦しかった様に思う。

三年目の時は、ドンホッパーと自分だけの世界であった。いつもドンと一緒にいた様に思う。天気の良い日にはドンと一緒に馬場で昼寝をしたり、街にもよく二人で出かけた。いつもドンの事をかまってやった恩返しかどうか知らないが全日学の二回走行で準優勝することができた。

四年目の時は、スティープルを三回やった。国体のスティープルは中でも飛び抜けて大きかった。一歩間違えば、ドンの足等簡単に折れてしまう様な障害が何個もあった。それでもドンは失権しないで帰ってきてくれた。本当にうれしかった。

最後に、いろいろな素晴らしい助言をして下さった岡田監督、半沢先生、小池部長、小野さん、それから毎日東京で試合のある時に応援にかけつけて下さった東京ＯＢ会の先輩方、また札幌在住のＯＢの方々、同輩、後輩など、いろいろな方たちにお世話になり、本当に感謝しております。四年間ありがとうございました。

〔卒部生〕　上段左より　増田兄、石井兄、斎藤兄
　　下段左より　飯野兄、平田姉

〔3年目〕　上段左より　世良兄、町田兄
　　下段左より　佐藤姉、名越兄、高須兄、野中兄

〔 2年目 〕　上段左より　嶋田姉、平山兄、中川姉、横山姉、平石兄、国枝姉
　　下段左より　上本兄、森田兄、丹野兄

〔 1年目 〕　左より
小役丸姉（ドベ）、山田兄（クマ）、下村兄（スナオ）、町田兄（キョン）、谷山兄（ニワ子）、Q

自己紹介・他己紹介

小池寿男（部長）

小池寿男　大正十四年一月二十日、長野県上田市の農家の次男として生まれた。上田中学校から岐阜農専の獣医畜産科を卒えて、終戦時には陸軍獣医小尉として長野県の山の中に居った。戦後の動乱期に北大農学部畜産学科に学び、卒業後、岐阜大学農学部の教官を経て昭和二十八年四月に北大獣医学部家畜外科学講座に帰り現在に至っている。専門は家畜外科学である。身体はあまり丈夫でなく、特別な趣味もない朴念仁である。

☆　☆　☆

獣医学部の教授になられました我部の部長、小池先生です。毎朝七時半過ぎ、馬場の前を通って獣医へ行かれます。たまには、部員が出迎え（待ち伏せ?!）て、跛行や傷や病気の馬を診ていただいています。いつも馬達の事を気に掛けていただき、おかげ様で今まで大きな病気などに至らせずにやってこれました。傷などがないと、何かと御無沙汰しがちですが、部員との交流の機会がもっとあればと思います。今後とも、馬達の事、部員ともどもよろしくお願い致します。

部員以上に部馬の健康状態を気遣ってくださる馬術部の部長さんです。そしてまたあのあこがれの獣医学部の外科の教授でもある小池先生です。

「○○がけがした。」「○○の様子がおかしい。」と言っては通勤途中に厩舎に寄っていただいて診てもらっています。

また去年は何回か馬学の講義を開いてくださいました。最近はそういった機会も少なく、小池先生のお話をうかがうこともなかなかできませんが、馬術部の部員として、馬に関する知識をまた教えていただけたら…と思います。これからシーズンに入るとまたお世話になる機会も多くなると思いますが宜しくお願い致します。

岡田光夫（監督）

私の名前は、てるおと読む。みつおではない。いちいち直すのも面倒くさいので今では人の読むに任せている。仲人などやらされる時などは神様の前で間違った名前を呼ばれるのは御先祖様に申し訳ないのでちゃんとした名前を呼んでもらう事にしている。以後お見知りおきをでなくお聞き覚えを。昭和十七年、第二回の繰り上げ卒業で世の中におっぽり出された所は、近衛輜重兵聯隊、通称車部第十七部隊。これで学生時代に覚えた馬術で御奉公出来ると思ったら自動車隊にまわされひっぱたかれながら自動車訓練。お陰で車の運転を覚えさせられた。昭和二十五年、札幌市に奉職して、交通局で電車の運転を覚える。今では自転車、自動車、電車の運転が出来て、最も得意とする所は乗馬。並の監督さんではありませんぞ。監督さんと云へば市に奉職中、工事現場では監督さんと呼ばれていました。次号以下我が人生を少しずつ紹介したいと思っています。

☆　☆　☆

とても温厚ないい人です。冗談もよく言われ、監督がおられるだけで、雰囲気がなごみます。部員みんながなぐさめられたり、また、励まされたりして、とても頼りにしています。ところで、だから監

督さん、もっともっとクラブ全体を、少々強引にでも引っ張っていって下さい。

監督の印象

o限りない馬に関する不思議な話。
o北大、いや北海道の馬術界の生き字引。
oどこからともなく出てくる鋭い指摘。
oコンパでの厳しいお言葉。
o大胆な部班の号令。
o息子のルーキー、娘の仁美。
o優しく、厳しい審判員。
oコンパのチキン。
oなくなったタッパー。

監督といい、半沢先生といい、小野さんといい、現役は年令パワーに負けてはいけないのだ。

半沢道郎（六代部長）

半澤道郎　明治四十三年生、品種＝道産子、父同（旧仙台藩系）母同（旧松前藩系）、産地＝札幌、特徴＝一六三cm、六二Kg、A型、芦毛、右口唇下黒子、強近視、腹部手術後、性質＝非闘争的外柔内硬型、温厚鈍重、怠慢性勤勉型、親A性、口向稍不良、調教課程＝札師附属小ー札幌一中ー北大予科ー理学部化学科（一期）同大学院、馬歴＝五十五年、北大乗馬会ー文武会馬術部ー北大乗馬同好会、職歴＝北大体育会馬術部（第六代部長）同後援会（会長）日馬連（理事）全日学馬連（副会長）、北日本学馬連（会長）、全日本ポニークラブ連（理事）、北海道乗馬連（副会長）、札幌楽馬会（会長）、海外出張二回。

☆　☆　☆

突然、半沢先生の他己紹介を書け、と言われても、いったい何を書いてよいやら。初めてお会いした頃に、「馬を動かすにはこれですよ、これ。」と、拳を動かして見せて下さった、人の好さそうなお年寄り（失礼！）がいて、そんなものかなぁ、と思っていたところが、自分が乗るようになって、すごいことなんだと感じています。実際U兄がよく言うように、「うまい人ほど簡単なことしか言わないもの」なのでしょう。

学馬連の副会長としても御多忙な半沢先生。昨年は勲三等旭日中授章を受賞されました。ますます御多忙とは思いますが、暇をみて北大の馬場にもいらして下さい。ドンも将介も、新馬達もお待ちしています。

半沢先生は、農学部の名誉教授でいらっしゃって、その上、去年は、勲三等旭日中授章授章という立派な賞を、お受けになり、また、馬術会においても、大変重要な地位に就き、第一回日英対抗学生選抜では、日本選手団の団長という大役をお務めになりました。

そこまで書くと、とても私たちには手の届かないような人に聞こえますが、実際は、大変気さくで、やさしい方です。その上、とても七十歳を過ぎていらっしゃるとは思えない程、若く、バイタリティーのある方です。

夏には、自転車をこいで、冬には、タクシーを走らせて、馬場までいらっしゃいます。去年のOB戦では、北将号に乗られて、障碍

を飛び、みごとゴールを切らせる、という若さです。
また、体だけでなく、頭の方も柔軟で、あの、いつでしたかの忘年会のかえるの芸には驚かされてしまいました。その上、〝頭を上げる馬は、頭にたくさん風船を付けたら、反作用で頭を下げるようになるんじゃないか〟と画期的な意見を、千葉幹夫さんに出された時には、脱帽いたしました。
〝自分は、目が悪くて、人に教えることができないんだ。〟とおっしゃいますが、馬が好きで、五十年以上も馬に乗り続けていらっしゃる。その姿を拝見しているだけで、私たちはとても大切なことを教えていただいている気持ちでいっぱいです。
これからも、北大の馬場でどんどん馬に乗って、若い現役どもに刺激を与えて下さい。

飯野秀之兄（四年目）

人間は、やはり燃えるものがないとだめだね。後は、虚脱感のみ。もう味わいたくないと思っていた、あの試合前の胸のしめつけられるような緊張感が、今また恋しくなってきた。

☆　☆　☆

ディスコイノキ、ディスコ草刈、ディスコ馬乗体操と数々のヒットをとばしたイイノ兄も、ついに卒部、かつ卒業、その上就職される為に三月で札幌を離れられます。いつも明るく、変った才能を持った兄が離札されることは、非常に残念です。
あの電話帳のような頭脳、S姉もびっくりのテクノカットやカーリーヘヤー、ヨレヨレのオーバーオールのディスコ歩き、必殺〝よくわかる似顔絵〟〝すぐできる鳥肌〟。そして、馬場での熱心な指導ーちょっと腰をかがめ、手を前に出し足を開いて前傾気味に、「もっと！もっと！もっと!!」と絶叫する声ー。イイノ兄は、今の二年目七人をも、メールと共に送り出してくれました。
四月一日より新しい生活が始まるそうですが、四年間馬術部で鍛えたことを生かし、がんばって下さい。そして、札幌に来られた際は、一諸にシャカマンで燃えましょう。

主務として今年一年はほんとうにがんばってくれました。三年目の時とはコロッと変わってタバコをくゆらせながら眉剣にしわを寄せ、ウーンと悩んでいる姿が多かった飯野兄。ほんとうに御苦労様でした。これからはまたもとの遊びのプロフェッショナルに変身するのでは…？。もう年なのですからディスコも程々に…。

石井洋行兄（四年目）

朝、8時15分。目覚まし時計を止める。
毎朝5時から練習していた日々がうそのようである。
う～～ん。まだまだ青春まっただ中。
マムシスーパードリンク飲んでガンバルゾ?!

☆　☆　☆

兄は毎晩うなされた。一枚のスキー場のシーズン券に。その券には不気味な写真が入いっていた。眼鏡をかけたカックイイ顔の上で、

ホッケの開きが苦しそうに口を閉ざしている。今、兄はこの一枚の券の為に、毎日朝早く、それもいやいやスキー場へリフトに乗りに行っている。「元を取らねば。」と、ホッケの開き、又はタラコはツバを飛ばしながら熱心に語る。技術的にも熱心に勉強しているようだが、目的を達するまでは直滑行しかできない兄、かわいそうな兄。

今年も兄を紹介できて私、大変幸福です。兄は昨年、名馬北将号にまたがり、全日学進出を果たしました。とりつかれると徹底的にやり抜く兄の性格故の当然の結果と思われます。今後も、どんどん突き進んで下さい。

石井兄は、昨年北将号を世良兄に引き継ぎ、馬乗り稼業から足を洗うと、今度はそのがむしゃらな活動力をスキーに向け、危うく目標の50回を達成するところでした。もしかして、愛馬北将に乗らない寂しさを紛らすためでしょうか。それとも地が出ただけでしょうか。家庭教師で生徒を怒鳴って泣かしクビになった兄ですが、こんな青春メロドラマみたいなことができる機会はもうないかもしれません。今まで通り情熱を突発し続けて下さい。紙一重を越えなければいいんですよ。

斉藤牧人兄（四年目）

原稿を書きながら、一人で笑ったり泣いたり踊ったりしていた。いろいろいろんな事があった。が、僕はあまりに弱かった。もう遅い。

四年間やった事、できなかった事、わかった事、わからなかった事、いろんな事を必ず、何かにぶつけてやるぞ。

☆　☆　☆

クラブ一の長身で、他の誰よりも長い間、僕らをQに乗せてくれた兄。毎日、Qに当たることを心待ちにしていた程でした。漫才師、おぼん、こぼんのうちのおぼんに似ていると言われ、コンパの席では、お酒が入ってくると楽しそうに笑顔を見せて、一人で訳の分からぬことをしゃべっていた兄。一人漫才でもしていたのでしょうか。秋にはクラブに大いに貢献してくれた一世代前のオンボロ車（失礼）を廃車にし、愛馬、愛車を一度に手放してどことなく後姿が寂しそうでした。斉藤兄、少なくとも後一年は北大に在学している訳ですから、Qを見守り、又たまには馬場に来て、Qに乗っている姿を見せて下さい。

「俺ってソウウツの気があんだよなあ。」としょっちゅう言っていましたが、あれは本当だったのですネ?!コンパではいつの間にか気が付くと斉ト兄一人だけで次から次に話題を持ち出し、一人でおかしなことを言って回りのみんなはあっけにとられてポカーンとながめていましたっけ。その後出る言葉が「俺、今ウツ状態なんだ。」なんとも恐ろしい性格を持った人物です。

もう一年札幌に居るそうですから、またあの少し口を開けて腕を曲げたまま早く行うあの体操を見せに馬場に来て下さいネ!!

平田　委久子　姉　（四年目）

いよいよラストチャンス。でも顔の赤さと丸さは全く変わってないから、無理かなあ、やっぱり。

☆　☆　☆

四年目の中で唯一人、今も毎朝、馬場に出て来て新馬、輝魂龍の調教にあたっています。役職の方も、薬品の仕事を下級生に引き継ぎ、現在は、おみやげ管理をしています。おみやげは、全て平田姉の管理下におかれ、姉の許可がなければ食べられない（という噂が一時ありました。）ところで姉の卒論は無事、終ったのでしょうか。夏休みの自由研究「かたつむりのふえかた。」という雰囲気で、帯広まで、かたつむりを連れて行ってたし、一生懸命でした。結局、おかげで卒業は一年延びましたが、もう一年、現役の尻をたたいてがんばってください。

居酒屋＝輝魂龍＝の女主人、委久子は魅力ある人だった。一日の仕事に疲れた男たちは、たわいのない悩みや愚痴を、優しい眼差しで真面目に聞いてくれる委久子に、心から信頼感を持つことが出来た。その上、底抜けに明るく、おだてるとすぐ乗り、日本酒と焼酎をしばしば間違えるようなかわいい失敗も、毎日をぎくしゃくと働いている男たちには、何ともほのぼのと映った。

赤く染まった頬に涼しい目を持つ彼女は、健康的で、知的な美人だった。又、彼女の歌う武田節は、客に定評があった。今時珍しい古風な、大和撫でし子であった。

「今日はきりたんぽを作ってみたの。食べてみない？」

秋田育ちの委久子の作ったきりたんぽはさすがにうまい。

僕は、委久子に会うと、日本人の心の故郷に帰ったような気持ちになるのだった。

増田　美希夫　兄　（四年目）

大学四年間は、馬術部で始まり馬術部で終わってしまったのです。学校の授業では、いつもいつも後の席で寝ていましたし、ある時には、一講目から三講目迄、一回も目をさまさないで同じ席で寝ていた事があります。でも、そういう馬術部の生活も、幕を閉じてしまい、もう二度と、このような生活はないでしょう。今、改めて馬術部に入部して良かったナァと思うと同時に、馬術部を支えている馬達にお礼を言いたい気持ちです。本当にありがとう。

四年間、様々な話題をふりまいてきた、〝あの〟増田兄がついに卒部されます。去年の全日学、アナウンスだけでちょん切られた画面に泣いたのは、おそらく北大関係者だけではないでしょう。どうやら落ち着くべき所へ落ち着いてしまったらしい兄（全国のファンがまた泣くなー）ですが、あのセンスあふれる騎乗ぶり、ほれぼれするような随伴が見られないのはとても残念。また馬場に来て下さい。ドンも待ってます。そうそう、石狩のシティーボーイも、よろしくと言ってましたよ。

☆　☆　☆

主将ならびに学業を犠牲にしてのドンとの遠征、御苦労様でした。数々の輝かしい御活躍、我々北大馬術部員として、大いに誇りとし、

大いに見習いたいものです。
兄の馬を愛する姿は、ドン翁と話をしている時、瞬時にしてドンの馬房に寝ワラをたくさんつぎ込む早業をやってのける時、ドンの為にシャンプー、リンス、ヘアーブローまでも揃えて満足しきってる時などに表れます。
愛車ＣｉＶｉＣで石狩川沿いを一四〇キロまで飛ばすのもいいけれど、命は大切に。
お手製のマフラーを巻いた兄の姿を思い出す時、思わず微笑ましくなるのです……。

佐藤仁美姉（三年目）

「ん?!。こんなの楽勝だね。」
と、余裕を見せて、言ってみたいもんだね。

☆　☆　☆

今さら何を書こう。「明るく」「がんばる」「元気な」？！そうだ！君こそＮＨＫ朝の連続ドラマのヒロインだ！なんでのど自慢に出ないんだ！「想い出の木の下で」なんて岩崎宏美よりすばらしかったね。俺が保証する！
ねーお願い滞納金減らして。
正念場の今年、ルーキーもデビュー。がんばれ。
馬場の向うからペンギンが歩いてくると思いきや、佐藤姉ではございませんか。そんな小っちゃな姉ですが、何故か大きく見えます。姉は岡田監督と伴にルーキーに乗っておられます。練習後には、よく二人のいかにも楽しそうな会話が聞かれます。あまり仲が良いので、監督の隠し孫だという噂もある程です。しかし、こんなに姉が皆に好かれるのは、あの屈託ない笑い、一生懸命な態度、際限のない優しさ、料理上手等のためでしょう。本当に大きく見える姉です。

世良健司兄（三年目）

ここ数年、そう状態とうつ状態が激しく交差する私です。幸いにも現在は心地よいそう状態にありまして、充実した日々を送っております。やれ雪中ラクビーだ、卓球大会だ、今度はバスケット大会だぞ〜と騒ぎ立てては一回戦を勝ち抜くと、感動のあまり涙する。最近は数多くの恍惚状態に遭遇し、「これ、青春なり、人生なり。」と、つぶやいてみたりもします。

☆　☆　☆

部で一番力持ちの北将に乗る部で一番力持ちの兄。昨年、ライトに丁寧に乗っていた兄が鞍替えした途端、豪快な乗り方に変身。部員をアッと言わせたその上手さで今年は各試合に旋風を巻き起こしそうです。
自称〝スーパースター、いや、胸にｓｅｒａのｓの字をつけて大空を駆け巡るスーパーマン的存在です。
その臭覚は鋭く、おみやげの臭いを嗅ぎ付けると、遠く厩舎を離れたかなたからでも飛んで来ます。また、その手足は敏捷、かつパ

ワフルで、おみやげの包が開かれると共に何個ものおみやげを、箱をチ切りながら奮っていきます。

出ると負けだった体育会のスポーツ大会を勝利に導き、去年の秋の苦しい作業を指揮し、暗くなりがちの冬合宿のミーティングに笑いの花を咲かせたのも、世良兄のスーパーマン的力です。

今年もまたまた赤丸急上昇中の世良兄！全日に向けて、おみやげと馬術に対する情熱で北大馬術部を引っ張っていって下さい。ただ、将介ともども疝痛にならぬようお気をつけて。

高須哲男兄（三年目）

「愛馬を肉にしない為にも、試合には勝たなければならない。」と言っていたのは、畜大の合志さんだっけ…。

高校三年の時、厩舎が焼けた。飼料庫にしていた二階が崩れ落ち、馬達は干草の下に、生焼けのまま埋っていた。警察の現場検証の為、三十度の暑さの中、四日間放置されていた。

フォークで干草を除くと、馬の姿が少しずつ現れる。熱の為、全馬内臓破裂をしている。ビニール袋のような腸。最後の瞬間まで壁を蹴破ろうとしていたのか…後肢からもげた蹄が悲しい。全身に火傷を負いながらも逃げ延びた馬は…薬殺された。馬の命のはかなさを知った。もう馬とは関わるまいとも思った。

それでも、北大の馬術部に入ってしまった。今、自分にできる事は、馬達を精一杯生きさしてやる事…そして、試合に勝ち続け、彼等を肉にしないこと。

主将になって…一人前に離厩馬を決めている自分が、何故が可笑しい。

☆　☆　☆

最近、私は気がついた。彼は、アホでもない。変態でもない。スケベでもない。ただ、羞恥心というものがない。だから、人の出来ないことでも喜んでする。そんな彼に、試合や練習で人の出来ないでっかい事を期待するのは、酷だろうか。

いやいや、そんなことはない。お前は、この一年が四年間のすべてなんだから。

今や兄は現役部員中、名実伴に段突最長老。けれども年令のせいだと言われ続けていた腰痛はもうおさまったようです。今年こそ全日学に団体で行こうと口癖のように言っている兄には気迫を感じます。その気迫はすべて頭に表われたと言っても過言ではないでしょう。私は決して忘れません。う、エグイ！あのア、アオ光りのつるつる坊主を。今年は主将としても、ドン・ホッパーのチーフとしても大変な年だと思います。是非、是非、部員全員の悲願である、全日学団体出場を果たしてください。お願いしますヨ！高須兄。

名越正秦兄（三年目）

酒が好き……

四年目になっても　まだ自分のペースが解らず

つぶれて死ぬ　いや本当は解っているのだが
あえて無視して飲み続ける　　最高の気分だ!!
　馬が好き……
四年間付き合っても　まだ本当の心が解らず
続いている　いや彼らは唱え続けているのだが
僕が気付いてないのかもしれない　教えてくれ
　ギャルが好き……
といっても　大通りでチャラチャラしているのではなく
北皇子だ　こいつには日本一になって
全国に知られてほしい　　だから頑張るのだ!!

〈募集〉誰かこの詩にすてきな曲をつけて下さい。採用された方には、……

☆　☆　☆

彼に子供ができました。ギャランこと北皇子です。彼の友人も部室に招待されました。ハムスターです。
彼はきっと期待にこたえてくれるでしょう。ハムスターのために。ギャランと共に。今にも噴き出しそうになる彼の幸せそうな顔に、笑みをいっぱいに浮かばせてください。テレビ出演を目指して。
副将名越、ここにあり。

昔のフクちゃんも最近は妙に貫録が出てきたみたいである。黄色いヘルメットの副将が黙々と手を抜きながら頑張っている姿は頼もしい。なんて言うと、ニーッと2本の歯で笑ってボソッと、「いまいち」なんて言う。
今年は一発！　期待してます。がんばれ。

野中道夫兄（三年目）

気まぐれで自分勝手、気が弱くて無器用、せっかちなくせに面倒臭がり屋……わかってはいるのです。

☆　☆　☆

彼は一年、二年と一生懸命勉強して獣医学部に移行しました。三年の時は、獣医学部のお勉強そっちのけで厩舎に泊まってばかりいました。日く「馬学だけやりたいよぉ。」獣医学部というのは寛大な所らしく、彼も無事四年生になれるようです。さて野中兄、安心して下さい。今年はきっともう「馬学しかできない」から。四六時中、喧嘩、いたずらをして傷をつくる十三頭の馬達と、経験不足気味の部員達は、純情な君の心を常に悩ますでしょう。しっかりリードして下さいね。

童顔の優しい兄です。彼女と愛馬を得、また、希望通り獣医学部にも行けて、幸せそのものといった感じです。しかし、兄の発する言葉はそれとは裏腹に、いつも「金がない」、「忙しい」、「お前らはいいなあ」と、暗いものばかりです。

町田雅人兄（三年目）

この北大馬術部に入部してもう三年も終ってしまった。
残るは実質半年。これから迎える最後のシーズンは、果たしてどうなるであろうか。考えるだけで、今までにない緊張感を感じる今日

この頃である。

☆　☆　☆

3年間、一日平均5時間近く彼と一緒にいるが、彼が落ち込んでいるのを見たことがない。驚異としか言いようがない。まず、いまだに27条のはるか彼方に平気で住んでいる。あのミヨコに決して落ち込む事なく毎日毎日、平気で乗っている。主務の激務を平気でこなしている。特にバイト決めのあの手腕には恐れいる。「バイト!! あいてるもんてえあげろ!!」平気で夕当を忘れてバイトに行く。この前、彼は寝過ごして練習に遅刻した。普通なら少しはすまなそうな顔をして小走りに来る所を彼は悠然とゆっくり歩いてきた。あの姿を見て僕は「ああ、彼は僕とは違う人種なんだなあ。」と思った。

とらえどころのない大きい顔と頭。さすが、数学と競馬は恐ろしくできるが、彼女はできた試しがない。豊満な体は、彼のキャパシティーの大きさ、力強さ?を感じさせてくれる。

北姫（ミヨコ）とのコンビも2年目。今年もミヨコを乗せた彼の勇猛な姿が見られることでしょう。……あれ?

上本浩之兄（水産系二年目）

やるべき事は唯一つ、Qを全日学へ連れて行く事！　神より与えられたる此の試練、心ずやり抜いてみせる。Qの為にも、俺の為にも。

☆　☆　☆

みんなの熱いラブ・コールに応えて、ついに函館行きを断念。鬼の作業隊長、人間ブルドーザー、生傷男、ホープ焼却器、暴走族のおじさん、関西のやくざ、恐怖の罰作業隊長などの名を欲しいままにしながら、二月の半分は自ら罰当にいそしんでいたという事実もある。頑丈な身体の割にはよく死に、遅刻、ワープも相当な数にのぼる。

その信念の強さと頑固さでは他に類がなく、部班であろうが何であろうが自分で飛び乗れない奴は乗せないという兄の方針に、日夜涙にくれる女子部員約一名。しかし、罰作業を言いつけたら必ず自分も参加するという優しさと責任感の強さ故、部員からもQからも信頼されている。

水産であるはずの兄は、9月を過ぎても函館に行く気配はまったくなく、いまだに札幌に居座っている。という訳で現在兄は、北楽院に乗り、作業隊長を努め、授業が全くないという生活環境の利点を生かし、日夜クラブの為に励んでいる。本人によると今年は函館に行くそうであるが、一年間のブランクは大きく、今年も無理ではないかという予想が、クラブ内に渦巻いていることを彼は知らない。

国技由紀姉（二年目）

誰が何てったって構やしない

……Never give up!! よ……

☆　☆　☆

彼女は、ちょっと前まではコンパで目の前にいる先輩をところ構わず捕まえては、一緒に乾杯させてしまうという特技で、相手をダウンさせていたが、最近は相手が弱すぎるのかどうか知らないが、ブリッコのお手本を見せている。彼女も冬にスターライトのチーフになり、だんだんと馬をクラブの中で可愛がるという事は、どういう事なのかわかってきたと思う。上級生になると、だんだんいろいろな事で悩み続けると思うが、先輩、同輩の言う事に良く耳を傾けて、頑張って欲しいと思う。

エメロンシャンプーのコマーシャルに出てきそうな、さらさらヘアーをいつも微風になびかせているさわやか少女。私はユキちゃんよ。エ！他己紹介書かれちゃうの？ええ～うっそ～、やぁだぁ～。人は私のことを「ハマチ」なんて言ってるの。私、自分の事ちっともブリッ子だと思わないんだけどナ。他の女子部員にくらべて女っぽいからかしら？ウフッ……エ？ここが「ハマチ」だって？やぁだぁ～もう～怒りますョ！○○さん！」

姉はライトのチーフになりました。日頃の、人馬に対する優しさでライトを包み込み、どうか試合でもがんばってください。

斉藤恵子姉（二年目）

メールへ

メール、肩が痛いかい。毎朝走るのはつらいかい。毎朝障碍を飛ぶのはつらいかい。

でもね、ここにはね、走れて障碍の飛べる馬しかいられないんだよ。ここにいられるってことは、必ず生きていられるってことなんだから、すこしくらいつらくても、がまんして走りなさい。障碍を飛びなさい。

メール、もうすぐおまえは、ここを出ていくんだよ。みんなに、さようならを言いなさい。「お世話になりました。」と言いなさい。

だけど、私はずっとそばにいるからね。見ているからね。私は、メールのチーフなんだから。チーフになってから今まで、学校が忙しくて、チーフらしいことしてあげられなかったネ。ごめんネ。

ずっと一番好きで、大好きで、かわいがってやろうと思っていたのに、結局なんにもならなかったよ。守ってあげられなかったよ。ゴメンネ。

でも、もう走らなくていいよ。走りたくなかったら走らなくていいよ。メール、よくがんばったネ。よくがまんしたネ。えらかったよ。ありがとう。

もう、少し休みなさい。

メール、メール、大好きだよ。

☆　☆　☆

✿、言はずして知れた恵子ちゃんマークである。普段は一人、メルヘンの世界に居るような姉であるが、いざ練習になると、恵子ちゃんウーマン改め、稽古ちゃんウーマンに変身し、メールに乗った下級生を容赦なくしごく。メールをこよなく愛する姉である。

学部移行してからというもの、姉は白衣に身を包み、顕微鏡を前に、こんぶの観察に勤しまれているようです。実験室にこもりっきりの忙しい毎日、実験の合間にテレビでも見ながら、なかなか学部

生生活を満喫されているよう。

馬場、馬上では厳しく、ちょっとした疑問を一年目という幼な心から尋ねると、「マツタクモウ、ナンニモシラナインダカラー。」というキツイお言葉を受けることもしばしば（というのも、姉の馬、馬術に対する知識の深さ故。）ですが、普段の姉はやさしく、「あははは っ、おかしい。」と言って笑う声は、厩舎や部室に明るいチューリップの花を咲かせてくれます。

嶋田明美姉（二年目）

だいたい他己紹介に書かれることは見当がついている。〝母〟とか〝突然のテクノカット〟とかを使わずに書いた人がいたら、ぴんふの日替りくらいおごってあげよう。

思うに、最近自分で自信の持てるものといったら、開き直りとハッタリくらいになってしまった。もちろん馬術部では必要なものには違いないけど、可愛かった（？）高校時代が懐かしいなぁ。

☆　☆　☆

何事にも熱心な彼女。思わず、手を合わせて拝みたくなります。その秘密は何でしょう。あの男勝りの刈り上げカットにあるのでしょうか。いや、短くてやや太めの首、腕、足も日本の誉れ、力道山を思わせる風格があります。でもやっぱり、彼女の前に立つと、思わず手を合わせたくなる秘密は彼女の胸。そう、胸の大きさにも負けぬくらい大きな包容力からではないでしょうか。誰からも親われ、拝まれる彼女です。

大仏様！ミーティングです。今こそ、今こそ起きられる時ですぞ。

カウンターに座ると、彼女は何も言わずに水割りを作ってくれた。自分にはオンザロックを作った。僕が一口飲むと、彼女は僕の疲れた心を解くように、一どうしたの、最近元気ないわね。」「あー、どうも馬に乗るのに疲れたみたいだ。」「何言ってるの、しっかりしてよ。」彼女はグラスを傾けた後、くるりと後ろを向き、ステレオのテープを入れ換えた。サザンが流れてくる。

彼女は美しかった。今日は耳にパープルのピアス。はだけた胸は十分に色っぽい。

「元気出しなさいよ。今度3年目になるんでしょ。そんなことじゃ後輩がついてこないわよ。」「あー、わかってるよ。」

彼女はしばらく僕の愚痴につき合ってくれた。

スナック明美を出ると外は雪。耳にはサザンが、まぶたには彼女の胸と唇の紅が焼きついている。そして、僕の体には再び英気がみなぎっていた。

丹野宏昭兄（二年目）

好きなもの　スイカ。イカの空揚げ。牛乳。ホープ。単純頭悩労働。心身共に健康な時の肉体労働。訳しにくい英語もむりやり和訳すること。輝魂龍の名前。朝寝坊。自分の独特な性格。暖かいへや。サイフォンでさっとたてたトアルコトラジャの荒挽きコーヒー。

嫌いなもの　メロン。焼きイカ。豆乳。ハイライト。面倒な事務作

業。頭や体が重い時の肉体労働。西洋かぶれのナウいもの。輝魂龍の曳き馬。早起き。自分の暗い性格。寒さ。UCCのペーパーフィルターのドリップでぬるい湯でじわじわ出したモカの細挽きコーヒー。

☆　☆　☆

なんですって？丹野を御存じない？さらば教えよう。丹野という男を。貴方がたは誰に紹介されずとも彼を知ることができるのだ。

北大馬術部の厩舎の前に立とう。しばらくすると次のような男が首にタオルを巻いて歩いてくる。

背丈はあまりないが、太りぎみで、もこもことした体型で顎は前下方に突き出し、頭の位置は変わらない。両腕は体から離れまっすぐおろし、あたかも哲学者風に下を見つめて歩いている。が、顔をよく見てみよう。その顔はしばしば、いやらしく、にやにや一人笑いしている。

次に勇気のある人は部室でのミーティングに参加してみよう。

まず注意すべきはストーブの回り。そしてその中でも、特にストーブのみに注意している人間を探そう。顔はミーティングに参加しているふりしていても、ほら、その左腕にはスコップを手にしている。と、突然、「すあせん（スミマセン）、石炭入れて…いいですか。」彼はミーティングには興味がない。

これだけの確かな現場をおさえたら、その彼らしい男に声をかけてみよう。

「おい、おまえは丹野か？」

「えっ？たぶんソーなんじゃないかと思います。」

「おまえのことを聞いてんだぞ。」

「ありっ？どっ・すあせん（ドウモスミマセン）。」

と言って首をかしげて思案にくれる。

彼が他ならぬ丹野だ。

黒いスタジャンの左腕には、くっきりと白で「輝魂龍。」誰がどう見ても暴走族としか思えない格好なのに、その上に傾き加減についた首と「あれっ？」と言いたげな顔を見たら、たちまちそんなイメージは吹き飛んでしまう。いったいいつの間に、というみんなの驚く顔を尻目に自動車を運転し、見事に雪山に突っ込んでみせるというすご腕の持ち主ではあるのだが。

普段は柔和な兄なのだが一度酒を飲ませるとその本性をむき出しにして、テーブルを歯で持ち上げたり、犬の「くま」を相手に死闘を繰り広げたりする。M兄卒部後、酒癖の悪さではついにトップに踊り出たようである。

中川　千夏子　姉　（二年目）

半沢杯が終って以来、やれるだけのことはやってきたつもりだった。競馬場に乗りに行った。柏友会のノエルに乗りに行った。畜大の冬合宿にも行った。小野さんの石狩乗馬クラブにも行った。しかし、何か確かなものをつかんだかというと、自信がない。もっとやろうとしたなら、もっともっとやれたに違いない。何につけても、どこかしら甘さが出ていたようだ。

馬配が当らなかったこれから一年、自分との勝負であり、絶対に負けたくない。

☆　☆　☆

朝起きて、トイレに行き、トイレの窓をあけて外を見ると、いつも姉の乗った「カマキリ」が走っていた。住まいが近くなって良かったですね。

根性、根性、ド根性。体はがっしりとし、特につま先を斜め前方45度に広げ、拳をしっかりと握りドッ、ドッ、ドッ、ドッと走る姿からは根性以外の何物も感じられない。しかし、一見、男っぽい姉ですが実は繊細な女らしい人ではなかろうか。それはコンパでの姉の歌からも感じられるし、この前の夕食会でのマーボー豆腐はとってもうまかったなあ。

平石哲生兄（二年目）

絶ゆまざる　歩み恐ろし　かたつむり

去年、部報のこの欄で右の様に書いたら、結構うけた。でも、僕の予想には反して、「これどういう意味？」と尋ねる人が何人かいた。なる程言われてみれば、なかなか根の暗い文句だと思う。今の根明かの時代には通じないんだろう。

☆　☆　☆

兄は長身長足。騎乗する姿を見ると、愛馬北騅号の腹の向こう側に兄の足がチラチラ（とても良く）見える。（いいなあ）その上、この恵まれた体型に劣らぬ情熱も持っている。普段ははにかんだような笑みを目元に浮かべているが（これが本来の彼）、馬の事となると、堂々とした態度に変わる。鞍の手入れを欠かさず、競馬場へも他のクラブへも良く乗りに行き、副務の務めを果たす。いわば馬術部の優等生（学校でのことは私は知らない。）

この頼りないようで頼もしい兄、今年一年で経験を積み立派に成長してくれるでしょう。

細身の体におっとりした性格のこの平石兄が、実は熱血馬術少年だということを御存知でしょうか。コンパを沸かせたあのピンクレディーの芸も捨て、学業もほったらかし、朝の練習の後は他所へ乗りに行き、馬の手入れが済むと毎日鞍の手入れをするその地道な努力の積み重ねは着実に成果を現わして来ています。日進月歩。ついでに彼の底無し胃袋もこの調子で進化して行ったら、コンパで出される食いもんは絶滅の危機に瀕するでしょう。

絶ゆまざる　歩み恐ろし　かたつむり

平山復志兄（二年目）

馬乗りとは気迫と余裕でやるものだと最近やっと分ってきた。学生は技術より気持ちで勝たねばと思う。

☆　☆　☆

ボケないことはない。ボケよう、ボケる、ボケたとき、ボケれば、ボケよ！

あれ？　誰の他己紹介書くんだっけ。

そうそう平山兄のだった。

これで平山兄の他己紹介を終ります。

二年続けて兄を紹介出来るなんて光栄です。昨年は、「暖かい春の野に立っている一本の葉のないポプラ」と書きましたが、私の失言でした。あやまります。しかし今年は違います。

「真夜中になって、光を消されて、あるのかどうか分らない大通り公園のテレビ塔」です。

さて、そのテレビ塔、昼間になるか、夜のままか？。彼の活躍に乞うご期待。

森田　敏兄（二年目）

馬にとって、銜は、人間と意志交換する唯一の媒体である。すなわち、人間は、銜を通じて運動を要求し、馬は銜を通じてその要求に対する意志表示をする。そして又、人間は、馬のその反応に対する評価を銜によって（勿論、それだけによるのではないが）与える。馬は、銜に神経を集中させることにより、持つ能力の全てを出し得る。

人間にも、そのような意味での銜が必要であろう。

僕は今、その銜を失っている。銜はこの馬術部に確かに在るのだと思う。でもまだ見つけられない。気ばかりあせって、正しい運動ができない。

昨年、春に腰を痛め、秋には馬に蹴られた肘を骨折し、ほとんど馬に乗れず、部の仕事もできなかった。部員には大変迷惑をかけてしまった。入院時には、皆さんに色々お世話になり、心から感謝致します。この感謝の気持ち、馬術部にいつか返したい。でも、ちょっと待って下さい。今の僕の態度は、大変中途半端で、いい加減です。でも、いつか必ず、毅然と馬に乗り、仕事をしていく部員になりますから。きっと銜を見つけて、それをしっかりとかみますから。

☆　☆　☆

昨年腰痛の為に半年程人休となり、復活してからはそのブランクを簡単に埋めてしまったのは情熱なのか、要領の良さなのか。彼は悩み多き青年であります。時折悩む事を楽しみにすらしている様に我々には見えます。そんな時部員は森田病だと小バカにしながらも心配してしまうのは彼の持つ先天的な魅力なのでしょう。今は静かに充電している彼も、もうすぐ爆発し、クラブの切り札として活躍する事を自他共に認める不思議な人物です。

「うーん、またわかんなくなっちゃいましたよ。」「愛とは、何なんですかね。」「この映画は、なかなか考えさせられる映画でしたよ。」と兄の頭の中はこのような言葉でいっぱいらしい。兄は非常に悩み多い人間なのである。しかし、兄ももう上級生の一員となり、最近では以前のように「非力、非力」と言われることもなくなったのだから、悩みは小さく理想は大きく持って、来年の全日学優勝を目ざし、技術の鍛練に努めてください。

横山理恵姉（二年目）

うん。わかってるよ。でも、やっぱり続けたいんだ。

☆　☆　☆

「ウフッ。」――彼女の口ぐせである。

姉は、たまに、人並はずれたドジをやらかします。えん麦の入ったバケツをひっくり返したり、水の入ったバケツを持ってひっくり返ったり……でも、これも雪とエクイア長靴が悪いのであって、姉を責める訳にはいかないのです……、が、雪の上が大変好きらしく、一緒に歩いていてふと横を見ると、姉が雪の上に座っていたりするのです。

このように見ていて楽しい姉ですが、もちろんすばらしいところもたくさんあります。兎に角、姉を一言で表わすとすると、底知れぬ根性の持ち主だということです。

フェニックスの木陰で育った姉、厳しい冬は終わりました。さあ、夏に向けて、全力前進しようではありませんか。

小役丸　千加子（一年目）

春、蒲公英の綿毛がふわふわと舞い上がっていったら、短い夏の間、風に飛ばされ、秋にポプラの綿毛となって舞い降りてきた。晩秋、雪虫が楽しそうにダンスをしていたかと思うと、いつの間にか雪の結晶に姿を変え、あたりは冬景色。こうして9度4分北上してきた北の地での一年が終わろうとしている。全てのものが目新しく、何もかもがめまぐるしく過ぎていったこの一年。

今宵、静寂のさ中、跪き、手を組み、目蓋を閉じる。再びある感懐が脳裏をよぎる。反省ー自分らしさを忘れていなかったか。願いーこの大地のように大らかに生きたい。……。なによりも馬が好き、馬に乗るのが好き、そして、馬を愛する人たちが好き。

☆　☆　☆

こやくまるのちかこさん。なんて長い名前だろう。私にはとてもとても長すぎて、覚えられたものではありません。

おい、小丸（おまる）。まるこ。

おお。（ドスのきいた声が返ってきます。）

地球物理やめて、建築科に進みたいんだって？

違うわよ。土木工学科。これしかないわ。

彼女は、男勝りで活発なのはわかるのですが、日本中の下水道普及を夢みているのが本当だとしたら、誰が信じるでしょう。いや、本当だと言っても、みな信じて疑わないことでしょう。彼女は一年目唯一、女子なのです。他の一年目に無い、女であるという宝を失わないでくださいね。

小役丸は、一年ぼうずのくせして、たくましくてこまります。夏の乾草作業では、乾草もろとも、トラックの上からころがり落ちるといった、おてんばぶりです。

小役丸は、私より年下のくせして、走るのが速くてこまります。これからもずっと、男子をおびやかし続けなさい。

なんだか、小役丸は、ずいぶんがんじょうで、男みたいなやつのように聞こえますが、性格的には、とってもやさしいのです。

私が風邪で熱をだして寝込んでいたときに、ケーキを差し入れてくれたのは、あの小役丸です。
〃ヘイ・タクシー〃と手をあげるだけで自転車をとめ、馬場までにっこり乗せてくれるのも、あの小役丸です。
これからも、ずっとずっと、たくましくて、やさしい子でいるのですよ、小役丸。

下村仁司兄（一年目）

時には機関銃のような、また時には大砲のような諸兄姉の心暖かい（実は感情に任せて言っているのかもしれない）、僕を当惑の渦の中へと巻き込む注意の集中砲火を浴びながらも、何とか逃げ延びてまいりました。僕が練習を休んだ時はきっと馬場は静かなことであろう。

☆　☆　☆

いつも額に汗して馬に乗っています。一年目最長老です。勉強熱心で、授業をサボってバイトに行く時の悔しそうな顔は部内一です。一所懸命、部犬、部鶏、部ハムスター、（もちろん部馬も）の世話をしてます。「遊びなんて…ボク、見たことも、聴いたことも、触ったことも無いですよ！」という顔をしてます。
しかし……コンパになると、悪がきY・Mと共に「バナナの歌」「SSK」など、芸能大会を繰り広げています。フ・シ・ギな人物。実兄のI兄に似て、一年目の中で最も勉強が好きなようだ。毎晩、ディスコ、パチンコ等で遊び回るYやMを尻目に、獣医目指してひたすら励んでいる。しかし、その真面目さが禍いしてか、馬の上でも真面目すぎて、少し堅くなっているよ。もっと学校をいい加減にやれば、鞍上でも軟らかくなって良いのでは？と思うのは多くの再試をかかえている僕のひがみか。
しかし、F、M、C、の自己紹介でくそ真面目に、「僕の頭の中は馬の事しかありません。」と言ったのが忘れられない。頑張れ！

谷山豊三郎兄（一年目）

馬術部の雑用係の谷山です。

☆　☆　☆

彼は、数少ない一年目の中で、最も歌と酒を愛する人である。コンパにおいては、遠慮なく飲んで、壁に寄り掛かって、目をとろんとさせている。そんな彼は、外見はものすごく田舎くさいが、内面に秘めた闘志は、いざという時に表面に表われて、力を発揮するのではないかと思う。
昨年度は、コンパといえばOBの芸に現役は圧倒されっぱなしでした。しかし今年度は兄の入部によって現役圧勝のコンパが続いています。高校時代、合唱部で鍛えたそのノドは、「北酒場」からクラシックまで変幻自在！　彼の為に新役職「コンパ係」も作られました。
さて、先日「北海タイムス」が兄にインタビューしに来ました。

（本当は誰でもよかったのですが…）その日、最近パーマをかけた頭をセットし直し、よそ行きの服で現れた兄へ、記者の第一声は「いつも、そんな農家の人のような格好をしてるんですか？」やはり育ちって、表に出るんですね。

これからも、その真面目な性格で頑張ってください。

町田憲司兄（一年目）

ぼくは、村で生まれました。長野県で二番目に小さな、浅間山のふもとの村です。でも、ぼくは電車を知っています。飛行機も知っています。だから、北海道に来ました。

この一年、北海道で何を知っただろうか。短かい間でなにもわからないが、大きな事を知ったつもりです。これからも、もっともっと深く馬のことを知りたい。

☆　☆　☆

元浅科村青年団団長の町田くんは、とても好気心旺盛です。いつも目をきょろきょろさせて、何か物珍しいものがないかと、捜しています。それだけならいいのですが、良い事、悪い事、彼に知れると、あっという間にクラブ全体に広がってしまいます。もしかすると、その日のうちに、家にまで電話をかけているのではないでしょうか。

いたずら三人小僧の影の親分です。おとなしそうな顔をして、裏では何をやっているのやら。コソコソいつも何か悪だくみを考えています。別名「情報の泉」とも言われ、どこから仕入れてくるのか上級生を揺さぶるようなゴシップの種を持ち出し、一部の上級生を泣かせています。

運動神経はなかなか良いようで。各種のスポーツ大会で活躍している一人です。ところであの、独特のニヤケた含み笑いは、何とかならないものでしょうか。

山田和男兄（一年目）

いやぁ～キュロットって本当に便利ですネ。朝練習で働いてくれた後は、生協の食堂では立派なテーブルナフキンに早がわり、少々豚汁をこぼしたってへっちゃら。一講目が体育なら身動き自由な完璧ジャージ。昼は昼でそのまま授業へ出れば、型のちょっと変わったＮＯＷいＣＩＴＹ感覚のスラックス。夜冷え込めば、パッとパッチに変身！あ～疲れたと思えば、そのまま寝間着にもなってしまう。もうだめだ。キュロットが脱げない。

彼は馬術部を愛しています。特に部室のふとんを好んでいます。だから、彼は講義にも出ず、いつもその中で眠っています。のんきなもんだ。

☆　☆　☆

最近馬術部にいる犬たちは身体障害犬（精神的なものも含めて）が多いのですが、そんな犬たち、それにわとりを相手にがんばってる山田少年です。

動物には好かれる人らしいです。特に犬に好かれるという事に関しては彼の右にでる者はいないんじゃないかしら。But！…そうかと思うと拾ってきたハムスターを犬に食わせて（何と生きたままで！）しまったりするわけの分らない人物でもあるみたい。動物好きなのか否か……私には理解出来ませぬ。

ま、その話はともかくとして彼も最近やっとエンジンがかかってきた様子。練習中の熱心さは人一倍です。もうすぐ後輩も入ってくることだしがんばれ!!

午前中、馬場のマリと馬けい台前広場のガキがいつのまにか入れ替わっていた。昼当のはじめには馬けい台前広場にいたQが昼当中いつのまにか馬場に出ていた。北大の馬はワープができるのだ！

＝3月14日当番日誌より＝

どぉーん
とやってください。

大小ご宴会二〇〇名様まで。北国の海山の幸の郷土料理を存分にお召上り下さい。

・午後5時から
・午後11時まで
〈年中無休〉

▲二百名様までお引受けします。
従業員一同、皆様のお越しを心からお待ち申上げております。

もしもし 241－2700
予算その他お気軽にどうぞ!!

北国の郷土料理の店
屯田の館
札幌市中央区狸小路六丁目
北国の味のみやげ処
屯田舎
☎二二一－〇五二二

ラーメン専門

味自慢

秀風

札幌市北区北20条西５丁目

☎721-6664

中華料理

廣揚樓

北区北16条西５丁目

☎721-4854

学生さんには
ネタもシャリもジャンボ
とにかくジャンボ
ネダンは同じ

舌鼓 鮨の正本

コンパの予算1,500円から

11：30～１：00

北16西４北向

☎741-4231

定食・ラーメン・丼物

西龍

北区北17条西４丁目
カネサビル１Ｆ

☎721-3725

札幌 660席
セントラルパークは いつでも何人でも
安心会計 飲み放題！
〈オーダー料金＋100円（チャージ）〉

飲み放題 若者コース（料理3品） ¥1,500
〈ウイスキー〉 フライドポテト・ピザパイ・自家製ソーセージ

ジンギスカン食べ放題・飲み放題（生ビール ジュース コーラ） ¥2,000

ファミリーサービス
お子様みなさまに
アイスクリーム
プレゼント！

二次会パック
2,000円で
飲み放題（料理4品）
生ビール、ウイスキー、ジュース、コーラ
若鶏焼きのスナックコース2,000円
キャンプコース2,200円でもご注文できます

◆パークのメニューは手づくりの味80種以上
◆宴会・会合・パーティは飲み放題＋特別料理付
一、五〇〇円～五、〇〇〇円以上各種（前料理だけの場合は簡単版になります）
毎日、ゆかいな、仲間たちパークメイツと新鮮な情報いっぱいのDJ広さはたっぷり六六〇席、ゆったりとどうぞ。パークのNEWコーナーangle（アングル）Coiffure（美容の待合室）トロピカルドリンク、ワインをどうぞ。結婚式の宴会、パーティ…まかせずパークへ楽しいゲームとユニークなプレゼントを用意しています。

年中無休
◆平日PM5時～PM11時 ◆土
◆土・日・祭日PM3時～PM11時

札幌 セントラルパーク ☎531-2882
札幌市中央区南5条西3丁目（東宝公楽会館7F）
御宴会の節はお電話を！

ボリューム満点・コンパ150人OK!!

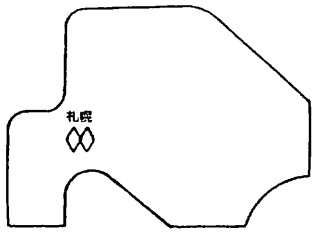
やきとり きよた
☎741-0101・742-7000

サッポロラーメンと
ナガサキチャンポンの店
味のゆうばり
北区北17条西5丁目☎742-8890

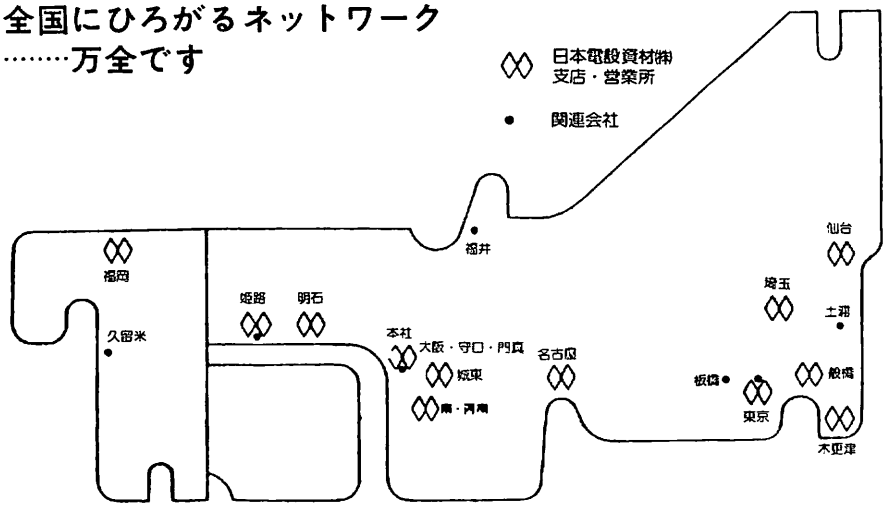
電線電纜電設資材専門商社

日本電設資材株式会社

札幌支店　札幌市白石区南郷通１丁目北９番１号ＴＥＬ(862) 2121



全国にひろがるネットワーク
……万全です



《所在地》

本　社　大阪市北区神山町１－３新扇町ビル06－321－3271

支　店　仙台・東京・埼玉・名古屋・大阪・姫路・福岡

営業所　般橋・木更津・守口・城東・神戸・明石・加古川

菅原　兼爾

第一工業株式会社
札幌支店

〒062 札幌市豊平区豊平3条8丁目(小野ビル2F)

支店長 狩野 慧

■営業種目
●空気調和設備　設計・施工
●給排水・衛生設備　設計・施工
●防災設備　設計・施工
●搬送設備
(カードスライダー・気送管・コンベアー)
設計・施工

■建設業許可
特定建設業許可番号　建設大臣許可(特－58)第4510号
建設業の種類　管工事業・機械器具設置工事業
一般建設業許可番号　建設大臣許可(般－58)第4510号
建設業の種類　消防施設工事業
許可年月日　昭和58年7月9日

函館出張所　函館市青柳町28番3号
電話(0138)26－0383
帯広出張所　帯広市西9条南16丁目2番地
電話(0155)25－1436
本社　東京都千代田区丸ノ内3－3－1
支店　東京・大阪・仙台・名古屋・九州
営業所　盛岡・福島・千葉・北関東・横浜
静岡・岡山・広島・四国
中央研究所　蕨市塚越7丁目2番8号
電話蕨局(0484)41－3522番(代)

Emiya

明日への環境建設を願う

電設資材総合卸商社

株式会社エミヤ商会

本社	060 札幌市中央区北3条東2丁目2	☎(011) 大代表221-1431番
中央営業所	060 札幌市中央区北3条東2丁目2	☎(011) 大代表221-1431番
電設営業所	060 札幌市中央区北3条東2丁目2	☎(011) 大代表221-1431番
北営業所	060 札幌市中央区北3条東2丁目2	☎(011) 大代表221-1431番
東営業所	065 札幌市東区北26条東14丁目389-1	☎(011) 代表 752－1561番
釧路営業所	062 札幌市白石区本郷通り10丁目南8	☎(011) 代表 863－4077番
苫小牧営業所	085 釧路市北町4番42号	☎(0154)代表 23－1365番
函館営業所	053 苫小牧市若草町1丁目1の19	☎(0144)代表 32－7101番
システム機器営業所	041 函館市富岡町2丁目41－17	☎(0138)代表 43－3011番

六興電気株式会社

札幌営業所　札幌市中央区北3条東5丁目5岩佐ビル　011(221)8972
石狩出張所　石狩郡石狩町花川南7条4丁目389　0133(73)1711
苫小牧出張所　苫小牧市新中野町3-19-6　0144(32)2581

所長　山口幸男

《営業種目》

1．電気設備工事の設計施工

発電所・変電所設備工事
地中線・架空送配電線路工事
電灯・電力・電熱設備工事
工場機器自動化の計装工事
特殊（耐爆・耐酸）電気設備工事

1．管工事の設計施工

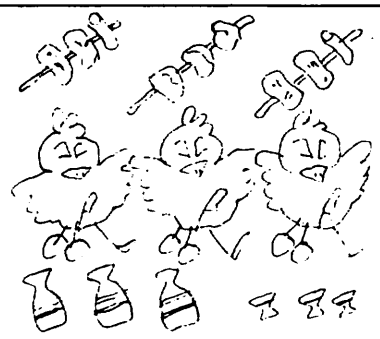
給排水・衛生設備工事
冷暖房・空気調和・換気設備工事

1．電気通信工事の設計施工

1．消防施設工事の設計施工

1．前各号に付帯する一切の業務

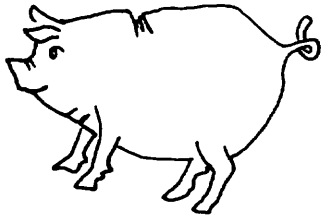
本　社　東京都港区芝5丁目26－30　専売ビル　03（452）5311
支　店　大阪・名古屋・神戸・多摩・横浜・千葉・新潟・仙台
九州・四国・静岡
営業所　札幌・中国・長野・京都・青森・岩手・山形・北関東・浜松
出張所　石狩・苫小牧・高松・岐阜・金沢・甲府・宇都宮・水戸・埼玉
太田・春日井・津・堺・奈良・和歌山・田辺・尼崎・松江・山口
北九州・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄



焼鳥
みねちゃん

札幌市北区北17条西４丁目
カネサビル1F ℡741-0717

ボリューム満点



味のとん子
とん子
北区北18条西５丁目☎742-5809

11:30PM
☎711-2875
つちの
食品、酒類

有限会社 菅原写真商会
カメラ・カラープリント
３分間写真
各種証明写真

北22条西４丁目☎711－2662

昭和四十六年衛生工学科卒
株式会社 山下設計 札幌支社
JOB監理部
主任 境 洋三

札幌支社 札幌市中央区大通り西四丁目道銀ビル
電話 札幌 代表三四一八五一五番
鉄路事務所 鉄路市錦町五一目三番地三輪ビル
電話 代表一五四三一番
本部 東京都中央区八丁堀一七一一番
電話 東京代表(五五三)八三一一番

昭和三十一年建築科七期
鹿島建設株式会社札幌支店
建築部
建築工事管理部長 柳沼孝昭

支店 札幌市中央区北三条西一丁目一北三条ビル一
電話 (〇一一)二二二一五一八一番(代)〒〇六〇
本社 東京都港区元赤坂一丁目三番七号
電話(〇三)四〇四一三二二一番(大代表)〒一〇七

昭和三十九年建築科十五期
株式会社 北海道日建設計
設計部 設計主幹 富田勲

(〇〇)札幌市中央区北一条西三丁目住友信託ビル
☎(〇一一)二二四一一九五三七番

昭和二十八年建築科三期
鹿島建設株式会社札幌支店
支店次長 建築部長 河内辰次郎

支店 札幌市中央区北三条西三丁目北三条三井ビル
電話 (〇一一)二三二一五一八一番(代)〒〇六〇
本社 東京都港区元赤坂一丁目三番七号
電話(〇三)四〇四一三二二一番(大代表)〒一〇七

昭和四十三年衛生工学卒
株式会社 竹中工務店北海道支店
設計部
設備課長 近藤剛

札幌市中央区大通西四丁目一(道銀ビル)
郵便番号 〇六〇
電話 札幌(〇一一)二六一一二六一番

工学部建築科卒
株式会社 竹中工務店北海道支店
技術部長 駒木根洋一

札幌市中央区大通西四丁目一(道銀ビル)
郵便番号 〇六〇
電話 札幌(〇一一)二六一一二六一番

昭和二十九年建築科五期
大成建設株式会社札幌支店
営業部
第一営業部長 佐藤耕造

支店 札幌市中央区南一条西一丁目四番地有楽ビル内
電話 札幌(〇一一)二四一一二一一番(代表)
本社 東京都新宿区西新宿一丁目二十五番一号
電話 東京(〇三)三四八一一一一番(大代表)

Nice // Sports Life
MSD
MIYANOMORI SPORTS DEVELOPMENT

昭和39年文学部卒
株式会社 宮の森スポーツ
取締役 総支配人 道端 國弘

〒060 札幌市中央区北3条西27丁目
TEL 644-6491
641-9520

昭和44年法学部卒
明日の住まいを約束する
株式会社
みたか商事
専務 石田 聰

〒060 札幌市中央区南1条西10丁目
TEL 札幌局 011-281-3111(代表)
東京事務所 東京都千代田区内田口町三丁目三番地
TEL 264-0011(大代表)

札幌市中央区南四条東二丁目

新北光石油株式会社

代表取締役　野沢悌三

☎231-0171

札幌市中央卸売市場々外

魚万 山崎水産株式会社

代表取締役

山崎守

本社　札幌市中央区北十一条西二十三丁目
電話（〇一一）六四一―二五六六
営業所　小樽市色内二丁目十一の二
電話（〇一三四）三二―八二二二

札幌国際観光株式会社

センチュリーロイヤルホテル

常務取締役

比企泰一郎

〒060 札幌市中央区北五条西五丁目
電話 代表（〇一一）二二一―二二二二番
本社 札幌市中央区南六条東二丁目
電話 代表（〇一一）五三一―七二二二番

魚勝 飛塚水産株式会社

代表取締役

飛塚勝幸

札幌市中央区北十一条西三十二丁目
電話（〇一一）六四四―二三二〇番
電話 六四四―二三二三番
電話 六四四―二三二六番

軽食＆喫茶

純

〒011
札幌市東区北3条東5丁目
TEL(011)231-4754

手造りのパン
洋菓子

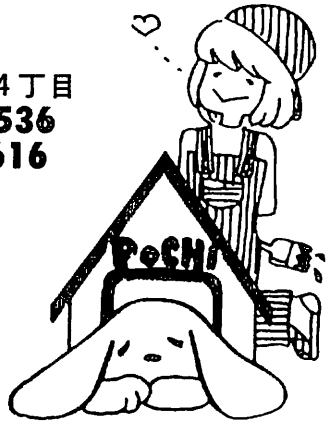
有限会社
ジュウジ屋

札幌市北区北17条西4丁目
電話741-5332

プロから日曜大工までたよれるお店

株式会社平田金物店

北18条西4丁目
☎711-7536
☎42-7616



このボリューム
この安さ

北大生なら
一度は
ジャンボメニューを
食べるべし

お食事処
けんちゃん

北区北18西3☎721-0346

腕旗附カバトメタ手記記出
・幕属プッロダオ念世
・・フ
章幟品楯チィルル拭品章兜

各種製造販売元
山禮式国旗掲揚器発売元

株式会社山禮

〒060 札幌市中央区南1条西7丁目
札幌(011)大代表241-1641番
受信略号 「サッポロ」ヤマレイ
取引銀行 拓銀本店
振替口座 小樽2909番

作りたてのお弁当

ほっかほっか
大吉亭

オープンキッチン
札幌市北区北20条西 5丁目

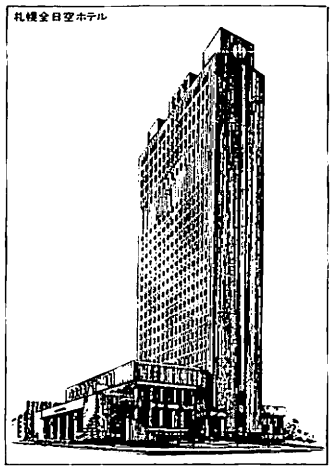
ラーメンなら
北龍
北18条西6丁目
☎742-1376

米は良心の店
株式会社丸則佐々木商店
支店 大隈米穀店
札幌市北区北18条西5丁目
☎711-6992

アイスコーヒー、アイスウィンナ、年中飲めます。
コーヒー専科(サイフォン)

パンダハウス
地下鉄18条駅前
札幌市北区北17条西 3丁目木村ビル(2階)
☎721-2453
AM 8：00～PM21：00

産科・婦人科
田畑病院
院長 田畑武夫
札幌市中央区南五条西二丁目
☎五三一ー七七七〇

超高層ビルのパイオニア


衛生・防災・空調設備の設計施工
株式会社 城口研究所
札幌支店
札幌市中央区北2条西4丁目(三井ビル)・☎札幌(011)241-8228(代表)
苫小牧出張所：苫小牧市泉町1丁目8番5号☎苫小牧(0144)32-9524
函館連絡所：函館市東山町28番☎函館(0138)56-3695

RTK
テレビ共同受信施設・設計・施工
日本有線テレビジョン技術協会会員 八木アンテナ株式会社特約店
六興通信工業株式会社
〒065 札幌市東区北23条東14丁目☎(代)731-1141

電気工事業
電気通信工事業
消防施設工事業
設計施工
三興電設工業株式會社
代表取締役 工藤竹雄
本社 〒001 札幌市北区北7条西6丁目1番地☎011-721-5111～5番(代)

ラーメン・焼魚・焼肉・定食、各種
出前迅速
平和食堂
北区北18条西5丁目☎711-2671

自家製造(そば・うどん)各種丼物
まるあ食堂
馬術部が年中出前応援中
★是非一度御来店下さい。★

食料品
山本商店
札幌市北区北十九条西七丁目
☎七四一ー六二八五

●荒物・日用品
●ローソク各種
●ビニール袋各種
灯油販売
飯山商店
札幌市北区北十九条西七丁目
電話 七二一ー八五六〇

電動工具・アルミサッシ・流し台
暮しの日用品・家庭金物・大工道具
建築金物・燃料・暖房器具・合カギ

田宮金物店

札幌市北区北二十一条西四丁目
電話（七四一）四一八七番
三四四九番

心を豊にする……
古書の店

弘南堂書店

北12条西4丁目
☎七一一ー九四二九番

飼い桶・水のみ桶・荒物一式

柳橋商店

札幌競馬場内
☎（店）011-747-7706
（自宅）011-644-3021

中古車と整備

民間車検工場
株式会社 北大モータース

札幌市北区北18条西5丁目☎721-1526

Create New Life with Jeeans
オリジナルトレーナーを作って
我ら仲間達
Jeans Shop
LAND22&LANDUSA
札幌市北22西4☎704-3923& 室蘭・江別、釧路

美

土木・建築・設計施行
造園・塗装・設計施行

道協建設株式会社
札幌市中央区北16条西20丁目
札幌競馬場中央通用門前
電話716-6455　726-6756・6752

東北の
美酒・吟醸

高級清酒
春駒

発売元　株式会社北酒連

《広告主への感謝のことば》

このたび、昭和57年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げるとともに諸社・諸店の御繁栄を祈り、ここに深く感謝致します。

（北大馬術部）

編集後記

桜の季節ははや遠く、ポプラの綿毛もすでに舞い落ち、札幌の速い夏も暮れようとしている頃、ついに今年も予定を遅れながらも部報を発行することができました。半沢先生、岡田監督、小池部長始め御協力頂いた先輩諸氏、並びに原稿書きに頭を悩まされた部員諸兄に深く感謝の意を表すると共に、発行の遅れましたことをお詫びいたします。

今年も例年と内容についてはあまり変わりありませんが、行事報告に多くの写真を贅沢にも取り入れ、戦績報告に多くの紙面を削かせて頂きました。これは行事・試合の様子をよりよく知ってもらおうとする試みからでした。又、部馬の経歴を調べるのもおもしろいのではないかという意見が出され、それでは最初にどの馬がいいか検討した結果、現在北大の看板馬であり、全国的に有名なドンホッパーから始めようではないかということになりました。離廐報告のようでおかしいとの意見もありましたが、増田兄に相談したところ、兄も積極的に協力して下さり、寄贈者であります小野忠氏に入廐以前の事等、原稿をお願い致しました。

四月十四日に生まれたノエルの仔っ子も元気に育ち、やんちゃぶりを発揮しております。現在、帯広からのノエルを含め、新馬三頭を入廐し、部馬十四頭、部員二十九名の大所帯となっております。

今、一つの物を造り上げたという満足感でホッとしています。もうミスはないと信じて、「あ～終った。」

編集責任者　下村・山田
編集委員　一年目全員
表紙カット　嶋田　明美

部報　第二十八号

昭和五十八年九月　発行

発行者　北海道大学　馬術部

札幌市北区北十八条西六丁目
北大体育館内
（〇一一）七一一－二一一一
内線　五五九七

編集者　部報編集委員会

印刷所　成田印刷　非売品